地質学雑誌　第120巻　第5号（通巻1424号）付録　平成26年5月15日発行（毎月1回15日発行）

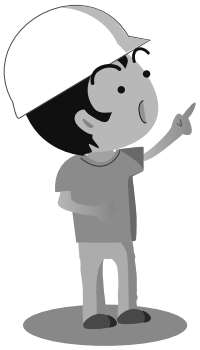
日本地質学会第121年学術大会
（鹿児島大会）予告
「わがこっじゃっど，地質学」
会期　2014年9月13日（土）～15日（月）

日本地質学会 News

Vol.17 No.5 May 2014

新発売!!

地質リーフレットたんけんシリーズ４



富士山
青木ヶ原溶岩のたんけん
―樹海にかくされた溶岩の不思議―

青木ヶ原の「溶岩」をテーマにした新しいリーフレットができました．
道の駅や西湖コウモリ穴など，アクセスしやすい観察ポイントです．写真やイラストをふんだんに使用し，わかりやすく火山現象を解説しています．

編集：日本地質学会地学教育委員会（編集委員：小尾　靖・鈴木邦夫・高橋正樹・矢島道子）
2014 年 3 月 31 日　発行
A2 版　8 折　両面フルカラー印刷

定価 400 円（会員頒価 300 円）

＊20 部以上ご注文の場合は割引有

リーフレットたんけんシリーズ：好評発売中！！

1．箱根火山たんけんマップ―今、生きている火山
2．屋久島地質たんけんマップ―洋上アルプスは不思議な地質がいっぱい
3．城ヶ島たんけんマップ―深海から生まれた城ヶ島

ご注文は，学会事務局まで　e-mail; main@geosociety.jp　FAX: 03-5823-1156

日本地質学会第121年学術大会（鹿児島大会）予告

「わがこっじゃっど，地質学」

2014年９月13日（土）～15日（月・祝）
会場：鹿児島大学郡元キャンパスほか

2014年鹿児島大会は，「わがこっじゃっど，地質学」をキャッチフレーズに西日本支部の支援のもと，鹿児島大学郡元キャンパスにおいて第121年学術大会（2014年鹿児島大会）を2014年９月13日（土）～15日（月）に開催いたします．

2014年は大正３（1914）年に発生した桜島火山の大正噴火から，ちょうど100周年にあたります．鹿児島大会では，２つの大噴火（100年前の桜島の大正噴火と200年前（1813年）に諏訪之瀬島火山で発生した文化噴火）を紹介し，火山防災を考える市民講演会「桜島と諏訪之瀬島の大噴火と火山災害」と地学教育・アウトリーチ巡検「2011年新燃岳噴火と霧島ジオパーク」を開催します．また，ロンドン地質学会と共催の国際シンポジウム「Tsunami hazards and risks: using the geological record」や，近年，話題となっている恐竜化石などに焦点を当てた一般公開学術シンポジウム「九州が大陸だった頃の生物と環境」も開催します．

学術発表に関しては，各専門部会等から提案された25件のレギュラーセッションと９件のトピックセッションを用意し，アウトリーチセッションも開催します．例年通り，小さなEarth Scientistのつどい：小・中・高校生徒「地学研究」発表会や，「地質情報展2014かごしま」なども開催します．

巡検は，鹿児島や桜島周辺を巡る日帰りコースのほか，鹿児島県のみならず宮崎県や熊本県を含む南九州各地に出かける宿泊巡検コースも複数設定しました．今大会は従来にもまして巡検に力を入れております．多くの皆様のご参加をお待ちしております．

各種申込は，従来と同様の参加登録システムを利用します．お支払いは銀行振込またはクレジットカードによる支払いが可能です．発表についても演題登録システム（PASREG）を利用したオンライン登録が可能です．なお，大会準備がスムーズに運ぶよう，締切日の厳守をお願いいたします．

鹿児島大会に関する最新情報は，学会ホームページ（http://www.geosociety.jp/）の「2014年鹿児島大会HP」に掲載します．

「わがこっじゃっど，地質学」：鹿児島には，「ひとんこっちゃ，わがこっ」という格言があります．これは「他人のことも自分のこと」，すなわち「他人に起きた事でも，いつ自分に起きるか分からないので気を付けなさい」という意味があります．地質学は，自然災害から自分の身を守り，将来の地球と人間のあり方を考えるために重要な学問分野であり，この地球に住む人々が遍く学び，身につけて欲しい，そして身につけるべき，全ての人々にとって関わりのある学問分野です．今大会のキャッチコピーは，地質学は，自分に関わる学問＝「わがこっ」なのだという思いを表しています．

１．日　　程

９月13日（土）～15日（月）：地質情報展2014かごしま－火山がおりなす自然の恵み－
９月13日（土）：セッション発表（口頭，ポスター），市民講演会（午後），表彰式・記念講演会，懇親会，教育・アウトリーチ巡検
９月14日（日）：国際シンポジウム，セッション発表（口頭，ポスター），ランチョン，夜間小集会，生徒「地学研究」発表会，若手会員のための業界研究サポート，
９月15日（月）：一般公開シンポジウム（午前），セッション発表（口頭，ポスター），ランチョン，夜間小集会
９月16日（火）～18日（木）：ポスト巡検　日帰り～２泊３日のコースあり

２．会　　場

鹿児島大学郡元キャンパス（鹿児島市郡元１丁目）：共通教育棟１号館・２号館・第２体育館・学習交流プラザ
※地質情報展の会場は，**鹿児島市中央公民館**（鹿児島市山下町５番９号）

【鹿児島大学郡元キャンパスへのアクセス】

鹿児島大学郡元キャンパスの施設位置図及び大学までの公共交通機関は，鹿児島大学のホームページ http://www.kagoshima-u.ac.jp/access/index.html/を参照して下さい．

鹿児島空港～市内：

鹿児島空港より鹿児島市内行バス（２番のりば）に乗車し，JR鹿児島中央駅までお越しいただき，鹿児島中央駅から下記の鹿児島市電にてご来校ください．

鹿児島中央駅前市電のりばから市電を利用：（乗車時間約10分）

行き先：郡元行き：唐湊（または工学部前）電停で下車
※鹿児島大学郡元キャンパスは駐車スペースがないため，乗用車でのご来訪はご遠慮下さい．
※宿泊施設はJR鹿児島中央駅周辺，および天文館周辺にあります．

【鹿児島市中央公民館へのアクセス】

鹿児島市中央公民館の位置図及び公共交通機関に関しては，
http://www.city.kagoshima.lg.jp/_1010/shimin/5kyouiku/5-2learn/5-2-1kouminkan/_24082.html（交通アクセス等）を参照し

て下さい．

JR：

「鹿児島中央」駅からタクシー約10分

「鹿児島」駅から徒歩約20分

市電：

「朝日通り」電停から徒歩約５分

バス：

「天文館」バス停から徒歩約10分

「金生町」バス停から徒歩約５分

空港バス：

鹿児島空港から約50分，「天文館」または「金生町」（吉野経由のみ）で下車

３．各賞表彰式・記念講演

日程：９月13日（土）15：00～17：30（予定）

会場：鹿児島大学郡元キャンパス共通教育棟１号館111教室

４．普及行事

(1) 地質情報展2014かごしま

日程：９月13日（土）～15日（月）入場無料

９月13日（土）　13：00～17：00

９月14日（日）　９：30～17：00

９月15日（月）　９：30～16：00

会場：鹿児島市中央公民館

主催：一般社団法人日本地質学会・産業技術総合研究所地質調査総合センター

共催：桜島・錦江湾ジオパーク協議会・鹿児島大学博物館

内容：鹿児島大会に合わせ，鹿児島県及び周辺の地質現象や火山・地震・津波・地盤災害についてパネル，映像，標本を使って展示・解説する「地質情報展2014かごしま」を開催します．化石レプリカ作成，火山実験などの体験学習コーナーなども用意し，実験や実演を通じて小学校入学前のお子さんからお年寄りまで，皆さんに楽しみながら「地質」をわかりやすく学んでいただけるイベントです．ぜひ，「地質情報展2014　かごしま」にご来場ください．

問い合せ先：産業技術総合研究所地質調査総合センター　地質情報展開催事務局

TEL：029-861-3687　e-mail：johoten2014jimu-ml@aist.go.jp

(2) 市民講演会「桜島と諏訪之瀬島の大噴火と火山災害」

日時：９月13日（土）14：30～17：00

会場：鹿児島大学郡元キャンパス共通教育棟１号館111教室

講師：小林哲夫（鹿児島大学大学院理工学研究科・教授）

概要：鹿児島県では，桜島と諏訪之瀬島の２つの火山が，現在もっとも活発に火山活動を続けています．しかし100～200年ほど前には，現在よりもはるかに大規模な噴火が発生しました．桜島ではちょうど100年前の大正噴火，諏訪之瀬島ではほぼ200年前の文化噴火です．この両火山については，長年の調査・研究成果をもとに，2013年に火山地質図が公表されましwた．講師は九州地域の火山の研究を長年続けており，この２つの火山地質図の作成にも関与しています．今回は桜島と諏訪瀬島という２つの火山で，100年前と200年前に発生した大噴火に焦点をあて，噴火の推移と災害の実態について，平易かつ詳しく解説します．あわせて，鹿児島における火山災害軽減への取り組みについても紹介する予定です．

(3) 小さなEarth Scientistのつどい～第12回小，中，高校生徒「地学研究」発表会～

日本地質学会地学教育委員会では，地学普及行事の一環として，地学教育の普及と振興を図ることを目的として，学校における地学研究を紹介する「地学研究」発表会をおこなっています．鹿児島大会でも，小・中・高等学校の地学クラブの活動，および授業の中で児童・生徒が行った研究の発表を募集いたします．鹿児島県内，また九州地方の学校，さらには全国の学校の参加をお待ちしています．会場は研究者も発表するポスター会場内に，特設コーナーを用意いたします．同時並行で研究者の発表も行われますので，児童・生徒同士のみならず，研究者との交流もできます．この会を通じて生徒，研究者，市民の交流が進み，地質学，地球科学への理解が深まって，未来を担う生徒たちの学習意欲への良い刺激と励みになることを願っております．

なお，参加証とともに，優秀な発表に対しては審査のうえ，「優秀賞」などの賞を授与いたします．

下記の要領にて参加校を募集します．

１）日時：2014年９月14日（日）９：00～15：30

２）場所：鹿児島大会ポスター会場（郡元キャンパス）

３）参加対象

・小，中，高校地学クラブならびに理科クラブ等の活動成果の発表

・小，中，高校の授業における研究成果の発表

・活動，研究内容は地学的なもの（地質や気象などの地球科学・環境科学，天文など）

４）**申込締切　　７月16日（水）**，下記，日本地質学会地学教育委員会宛にお申し込み下さい．

５）発表形式　　ポスター発表（展示パネルは，縦210cm×横120cm）

パネルのほかに標本等を展示される場合には，パネルの前に机を用意します．参加申し込みの際に，その旨を記載して

下さい．その場合は展示パネルの下側が隠れる事をご了承下さい．発表者は決められた時間（および随時）パネルの前に待機し説明をしていただきます．なお，遠隔地および学校行事等のために児童・生徒が参加できない場合は，発表ポスターのみをお送りいただいても結構です．

6）参加費　　無料（参加者・引率者とも），開催中の研究者の発表，講演も聴くことができます．

7）派遣依頼　　参加者・引率者については学校長宛，日本地質学会より派遣依頼状を出します．

8）問い合わせ・申込先：所定の書式（学会HPよりダウンロード可）をFAXまたはe-mailでも下記宛にお送り下さい．

日本地質学会地学教育委員会（担当　三次）

〒101-0032　東京都千代田区岩本町 2 - 8 -15 井桁ビル 6 F

TEL：03-5823-1150　FAX：03-5823-1156　e-mail：main@geosociety.jp

(4) 地学教育・アウトリーチ巡検「2011年新燃岳噴火と霧島ジオパーク」

日時：2014年 9 月13日（土）8：30集合出発，17：00解散（予定）

参加対象：小中高の教員ならびに一般市民を優先

参加費・申込等：「巡検参加申込要領」および巡検コース一覧 8 班の欄をご参照下さい

5．企業・研究機関等関係団体による展示会の出展募集＜申込締切　一次 7 月 4 日（金），最終 8 月 8 日（金）現地事務局扱い＞

地質関係機関・関連企業のご活躍を広く地質学会員に紹介していただくため，会期中，企業展示会を開催致します．企業紹介・業務紹介・研究成果・新技術・特許などご自由に展示内容を構成いただけます．奮ってご出展のお申込をいただきますようお願い申し上げます．

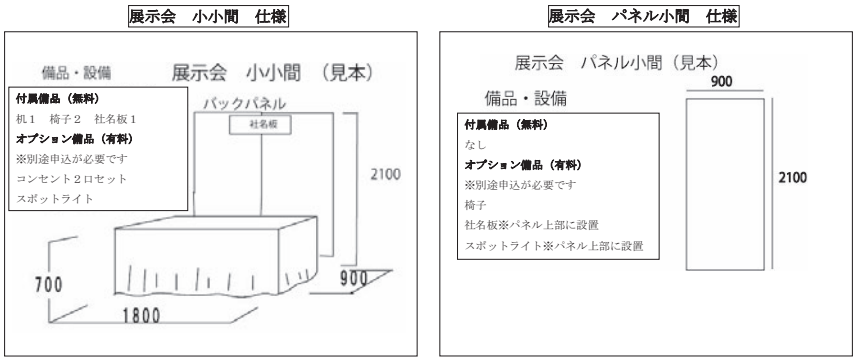
【展示募集概要】

1．開催期間：搬入設営日 9 月12日（金），開催日 9 月13日（土）～15日（月），搬出撤収日 9 月15日（月）※予定

2．開催場所：鹿児島大学　郡元キャンパス　教育学部第 2 体育館　※予定

3．募集小間数：小小間20，パネル小間20　※予定　複数小間のお申込も可能です．

4．小間仕様見本：



※仕様詳細・オプション料金等につきましては，大会ホームページの「展示募集要項申込書」をダウンロードの上，ご確認下さい．

5．出展料金：小小間　50,000円（消費税別），パネル小間　20,000円（消費税別）

6．第 1 次募集締め切り日：7 月 4 日（金）　最終募集締め切り日：8 月 8 日（金）

【出展申込方法】

大会ホームページの「展示募集要項申込書」をダウンロードいただき，必要事項をご記入の上，下記申込先までe-mailへのPDFファイル添付，あるいはFAXにてお申込下さい．募集要項・申込書が別途必要な場合は，現地事務局までご連絡下さい．送付致します．

【お申込・お問合せ先】

〒540-0033　大阪市中央区石町 1 - 1 - 1 天満橋千代田ビル 2 号館 9 階

日本地質学会第121年学術大会現地事務局（株式会社アカデミック・ブレインズ内）

TEL：06-6949-8137，FAX：06-6949-8138，

e-mail：gsj2014kagoshima@academicbrains.jp　担当：田中

※日本地質学会賛助会員は出展料金が無料となります．別途，現地事務局までご連絡下さい．

6．シンポジウム＜演題および原稿締切　オンライン：7 月 1 日（火）18：00，郵送：6 月25日（水）必着，行事委員会扱い＞

今大会では 2 件のシンポジウムを開催します．内容についてはp.（11）「シンポジウム・セッション一覧」をご覧下さい．

世話人は会員・非会員を問わず招待講演を依頼できます（締め切りました）．非会員招待講演者に限り参加登録費を免除します（講演要旨集は付きません）．発表時間は世話人が決定します．シンポジウム発表にはセッション発表における 1 人 1 件の制約（下記）が及びませんので，シンポジウムで発表する会員は別途セッションにも発表を申し込めます．

講演要旨はセッション発表と同じ様式・分量です．p.（4）の 7 項（6）を参照して要旨を作成して下さい．やむを得ず要旨を郵送する場合はp.（23）の発表申込書をご利用下さい．「シンポジウム」と書き添え，必要事項を記入し，返信用ハガキ（自分宛），保証書・同意書，要旨とともに行事委員会宛にお送り下さい．

7．セッション発表の募集＜演題および原稿締切　オンライン：7月1日（火）18：00，郵送：6月25日（水）必着，行事委員会扱い＞

セッション発表を下記要領で募集します．オンラインでの演題登録・要旨投稿にご協力下さい．やむを得ず郵送で申し込む場合はp.（23）の発表申込書に必要事項を記入の上，返信用ハガキ（自分宛），保証書・同意書，要旨とともに6月25日（水）必着で行事委員会宛にお送り下さい．発表セッションや会場・発表日時等は行事委員会が決定し，7月下旬以降に通知します．

(1) セッションについて

今大会では9件のトピックセッションと25件のレギュラーセッション，およびアウトリーチセッションを用意します（セッション再編についてはニュース誌4月号で報告）．各セッションの詳細についてはp.（11）「シンポジウム・セッション一覧」をご覧下さい．

(2) 発表に関する条件・制約

1）会員は全35セッションのうち1つまたは複数（下記）に発表を申し込めます．発表申込者＝発表者とします．非会員は発表を申し込めません．発表を希望する非会員は6月25日（水）までに入会手続きをして下さい（入会申込書が届くまで発表申込を受理しません）．共催団体の会員は共催セッションへの発表申込が可能です．

2）口頭発表あるいはポスター発表を1人1題申し込めます．ただし，発表負担金（1,500円）を支払うことでもう1題（最大2題）の申し込みが可能です．この場合，同一セッションに2題申し込むことも，異なる2つのセッションに1題ずつ申し込むこともできますが，同一セッションに口頭を2題またはポスターを2題申し込むことはできません（招待講演にも適用）．同一セッションに2題申し込む場合は口頭1題とポスター1題になります．ただし，これらの制約はアウトリーチセッションには適用しません（後述）．

セッションA：口頭2件 ……×（申込不可）
セッションA：ポスター2件 ……×（申込不可）
セッションA：口頭，ポスター各1件ずつ ……○（申込可）
セッションA：口頭1件，セッションB：口頭1件 ……○（申込可）
セッションA：ポスター1件，セッションB：ポスター1件 ……○（申込可）

3）共同発表（複数著者による発表）の場合は，上記「1人1題，ただし発表負担金支払いによりもう1題可」の制約を発表者（＝発表申込者）に対して適用します．その際，発表者は筆頭でなくても構いません（筆頭者に会員・非会員等の条件はありません）．講演要旨では，発表者氏名を下線（アンダーライン）表示にして下さい．

(3) アウトリーチセッション

このセッションは，会員による研究成果の社会への発信（アウトリーチ）を学会として力強くサポートするために，トピック・レギュラーと並ぶ第三のカテゴリーとして設けられているものです．市民に対するアウトリーチ活動に関心のある会員はぜひお申し込み下さい．

1）トピック・レギュラーと同様の演題登録・要旨投稿が必要です．要旨校閲（後述）もトピック・レギュラーと同様に行います．要旨は講演要旨集に収録され，正式な学会発表扱いになります．

2）本セッションの発表には，上記の発表数に関するルール（1人1題，ただし発表負担金を支払えばもう1題可）を適用しません．例えば，レギュラーセッションで1題発表する会員がアウトリーチセッションでも発表する場合，発表負担金はかかりません．ただし，同一発表者（＝発表申込者）が本セッションで発表できるのは1題のみとします．

3）ポスター発表のみとし，13日（土）の市民講演会会場で実施する予定です．市民講演会の前後各1時間をポスターコアタイムとします．

4）市民には講演要旨のコピーを配布しますが，これとは別に資料を独自に配布していただいても構いません（ただし発表者負担）．

5）スペース等の都合から，募集件数は10件程度とします．募集件数を上回る応募があった場合は行事委員会が採否を検討します．

6）優秀ポスター賞の選考対象になります．

(4) 招待講演

招待講演者をp.（11）「シンポジウム・セッション一覧」およびp.（18）「セッション招待講演の紹介」に示しました．招待講演も期日までに一般発表と同様に演題登録・要旨投稿が必要です．非会員招待講演者の場合は世話人が取りまとめてオンライン入力することも可能です（詳細は学会事務局にお問い合わせ下さい）．非会員招待講演者に限り参加登録費を免除します（講演要旨集は付きません）．また，招待講演は発表負担金の枠外として扱います（詳細はニュース誌1月号を参照）．

(5) 発表申込方法

1）オンライン申込は鹿児島大会ホームページ（http://www.geosociety.jp/）にアクセスし，オンライン入力フォームに従って入力して下さい．

2）発表方法は「口頭」「ポスター」「どちらでもよい」のいずれかを選択して下さい（アウトリーチセッションはポスターのみ）．締切後の変更はできません．会場の都合のため，発表方法（口頭/ポスター）の変更をお願いすることがあります．

3）発表題目と発表者氏名は，登録フォームと講演要旨の両方を一致させて下さい．

4）共同発表の場合は全員の氏名を明記し，講演要旨では発表者氏名を下線（アンダーライン）表示にして下さい．

5）発表希望セッションを必ず第2希望まで選んで下さい．

6）関係する一連の発表があるときは，必要に応じて発表順希望等をコメント欄に入力して下さい（ご希望に沿えない場合があります）．

(6) 講演要旨の投稿

講演要旨はA4判1枚とし（p.（20）のフォーマット参照），PDFファイルのオンライン投稿により受け付けます．印刷仕上がりは0.5ページ分です（1ページに2件分を印刷）．原稿をそのまま版下とし，70%程度に縮小印刷します．文字サイズ，字詰め，鮮明度等に注意して下さい．やむを得ず郵送する場合は，オリジナルか鮮明なコピーを1枚郵送して下さい．FAXやe-mailでの

投稿は受け付けません．

8．講演要旨の倫理責任と著作権管理，引用方法，校閲

(1) 講演要旨の倫理責任と著作権管理

本学会は，本学会出版物への投稿原稿に対して，その倫理性について著作者が保証する「保証書」および著作権を本学会へ譲渡することに同意する「著作権譲渡同意書」に署名捺印をして提出していただいております．今大会の電子投稿では，画面上で「保証書」と「著作権譲渡等同意書」の内容に同意していただいてから電子投稿画面に進めるようになっています．郵送の場合はp.（22）の「保証及び著作権譲渡等同意書」に署名捺印し，講演要旨と共にお送り下さい．「保証及び著作権譲渡等同意書」が同封されていない発表申込は受け付けません．

(2) 講演要旨における文献引用

引用した文献の情報を必ず記載して下さい．講演要旨では文献記載の簡略化が認められています．著者名，発表年，掲載誌名など，文献を特定できる必要最低限の情報を明記して下さい．

(3) 講演要旨の校閲

行事委員会は，すべての（招待講演を含む）講演要旨について，学会の目的ならびに倫理綱領（定款第4条）に反していないかという点について校閲を行います．校閲によりいずれかの条項に反していると判断された場合，行事委員会は修正を求めるか，あるいは発表申込を受理しないことがあります．行事委員会の措置に同意できない場合，発表申込者は法務委員会（学会事務局気付）に異議を申し立てることができます（異議申立てに関する詳細は大会HPに掲載）．

9．発表要領（シンポジウムについてはp.（3）6項を参照）

(1) 口頭発表

1）セッションの発表時間は，招待講演を除き，トピック・レギュラーとも1題15分です（討論時間3～5分を含む）．発表者は討論時間を必ず確保して下さい．なお，前回（仙台大会）に引き続き，今大会でもPCセンターを設置しません．セッションが円滑に進むように次の注意点をよくご確認下さい．

2）発表はできるだけ会場備え付けのWindowsパソコン（OSはWindows 7；PowerPoint 2003，2007，2010対応）をご使用下さい（ただし，Macご利用の方と動画を使用する方はご自身のパソコンをご用意下さい）．プロジェクター解像度は1024×768ドット（XGA）です．パワーポイント・ファイルをUSBフラッシュメモリで持参し，パソコンにコピーして下さい（セッション終了後，世話人がファイルを削除します）．フォントは特殊なものではなく，PowerPointに設定されている標準的なものを使用して下さい．発表者は，セッション開始前に発表会場で正常に投影されることを確認して下さい．

3）ご自身のパソコンで発表する方は，セッション開始前に発表会場において正常に接続・投影されることを確認して下さい．事前に解像度（上記）の設定をご確認下さい．会場の接続端子はD-sub15ピン（ミニ）です．パソコンによってはコネクタが必要になる場合がありますので必ずご持参下さい（会場にはありません）．確認作業の混雑とそれによるセッション開始の遅れを防ぐため，早めの確認作業をお願いします．なお，発表者が事前確認を怠ったために発表時にトラブルが生じても時間延長等の措置は取りません．

(2) ポスター発表

1）1日間掲示できます．コアタイムでは必ずポスターの説明を行って下さい．ポスター設置・撤去等については本誌8月号掲載予定のプログラム記事をご覧下さい．

2）ボード面積は1題あたり縦210 cm，横120 cmです．

3）発表番号，発表タイトル，発表者名をポスターに明記して下さい．

4）コンピューターによる演示等も許可しますが，機材等はすべて発表者が準備して下さい．また，電源は確保できませんので，必要であれば予備のバッテリーを用意して下さい．発表申込の際に機器使用の有無や小机の必要性等をコメント欄に記入し，事前に世話人にご相談下さい．

5）運営規則第16条2項（8）により，優れたポスター発表に対して「日本地質学会優秀ポスター賞」を授与します．詳細はプログラム記事（本誌8月号）に掲載します．

(3) 発表者の変更

あらかじめ連記されている共同発表者内での変更は認めますが，必ず事前に行事委員会に連絡して下さい．この場合も発表者については7項（2）の条件を適用します．

(4) 口頭発表の座長依頼

各会場の座長を発表者に依頼することがあります．その際はご協力をお願いします．

10．ランチョン申込要領＜申込締切　6月25日（水）必着，行事委員会扱い＞

9月14日（日），15日（月）にランチョン開催を希望する方は，(1) 集会名称，(2) 集会内容（50～100字程度），(3) 世話人氏名・連絡先（メールアドレスと電話番号），(4) その他ご希望等，をe-mailで行事委員会（東京）宛に申し込んで下さい．申込締切は6月25日（水）です．開催日時のご希望に沿えない場合がありますので予めご承知おき下さい．世話人には，大会終了後に集会内容をニュース誌（大会記事）に投稿していただきます（800字以内，原稿締切は10月下旬を予定）．

11．夜間小集会の申込要領＜申込締切　6月25日（水）必着，行事委員会扱い＞

9月14日（日），15日（月）とも18：00～19：30の予定です．夜間小集会の開催を希望する方は，(1) 集会名称，(2) 集会内容（50～100字程度），(3) 世話人氏名・連絡先（メールアドレスと電話番号），(4) その他ご希望等，をe-mailで行事委員会（東京）宛に申し込んで下さい．申込締切は6月25日（水）です．開催日時のご希望に沿えない場合がありますので予めご承知おき下さい．世話人には，大会終了後に集会内容をニュース誌（大会記事）に投稿していただきます（800字以内，原稿締切は10月下旬を予定）．

12. 各種申込とお支払について

(1) 申込方法

オンラインによる参加登録申込等を受付けます. 申込は従来同様, 学会独自の参加登録システムをご利用いただきます. 大会専用参加登録システム（会員・非会員にかかわらずどなたでも申し込み可）または（27）ページに掲載の専用申込書（FAX・郵送用）をご利用の上, お申し込み下さい. 参加登録・懇親会・追加講演要旨・巡検・お弁当を同時に申込むことができます. なお, **学会を通じての宿泊・交通手配の斡旋は行いません. 宿泊や交通については各自で手配願います.**

(a) 大会登録専用HP（オンライン）による申込：申込フォームに必要事項を記入して送信.

(b) FAX・郵送による申込：申込書に必要事項を記入の上,「日本地質学会鹿児島大会参加申込係」宛にお送り下さい.

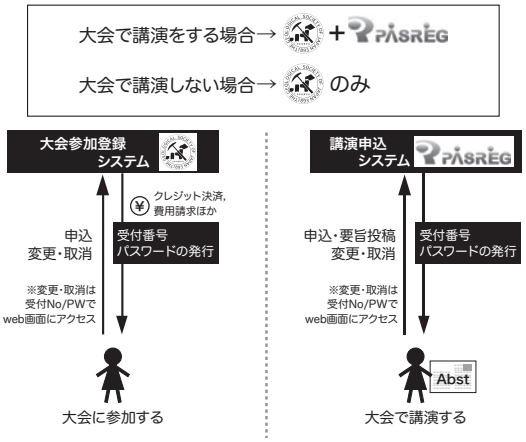
FAX番号：03-5823-1156

郵送先：〒101-0032　東京都千代田区岩本町 2 - 8 -15

井桁ビル 6 階「日本地質学会鹿児島大会参加申込係」

<オンライン参加登録, 講演申込システム>

大会参加および講演は, それぞれの異なるシステムを通じての申込となります（受付番号は異なります）。それぞれの申込内容は, 締切日まで, 画面上でご自身での変更が可能です。



(a) 大会登録専用HP（オンライン）による申込

1）学会HPから「2014年鹿児島大会ホームページ」, へアクセスして下さい.
<http://www.geosociety.jp/kagoshima/content0001.html>

2）画面左のメニュー「参加登録」をクリックして下さい.

3）申込画面の入力欄に氏名と会員番号を入力するだけで, 学会に登録されている会員情報（所属・住所等）が表示され, 続けて参加登録を行うことができます.

4）申込み完了後,「申込確認メール」および「ご請求メール」が登録のメールアドレスへ配信されます. 内容を必ずご確認下さい.

5）支払い方法について,「銀行振込」を選択された方は,「ご請求」メールを確認の上, 指定の金融機関よりお振込み下さい. また, クレジットカードもご利用頂けます.「クレジット決済」を選択の場合は, ご利用のカード会社の期日に合わせて, 口座より引き落としとなります. クレジットカード会社からの明細には「日本地質学会（ニホンチシツガッカイ）」と表示されます.

6）締切後, 名札・確認書・クーポン（一部の方）を発送します（8 月末頃発送予定）. 大会開催10日前までには参加者の皆様のお手元に届くようお送り致します. 締切時点で入金確認が取れない場合は, 未入金旨記載された確認書のみが送付されます（名札・クーポンは送付されません）ので, 当日会場にて入金のご確認をさせて頂きます. 入金とクーポン発送が入れ違いの場合は, 振込み時の控え等を会場にお持ちいただければ, 確認がスムーズに行えます. ご協力をお願い致します.

(b) FAX・郵送による申込

1）本誌（27）ページの「FAX・郵送専用申込書」に必要事項を記入の上, 日本地質学会事務局までFAXまたは郵送にてお申込み下さい. 電話による申込, 変更などは受け付けられませんので, ご了解下さい. また, 郵送による申込みの際は, 必ず申込書のコピーを各自で保管して下さい.

2）申込後, 折返し学会より「受付確認」をe-mailまたはFAXにてお送りします. 必ずご確認下さい. 受付確認が届かない場合は, 必ず事務局までご連絡下さい. 受付確認には,「受付番号」が記載されています. この「受付番号」はその後の問い合せ, 変更, 取消等に必要となります.

3）お支払いは, 銀行振込またはクレジットカード決済のいずれかを選択できます. 申込後順次,「予約内容確認」・「請求書」をお送りします. 銀行振込を選択された方は, 請求書に記載されている振込口座へ指定期日までにお振込み下さい. クレジット決済を選択された方は, 参加申込の際必ずクレジット番号などの必要事項を記入して下さい. ご利用のカード会社の期日に合わせて, 口座よりお引き落としとなります. カード会社からの明細には「日本地質学会（ニホンチシツガッカイ）」と表示されます.

4）締切後, 名札・確認書・クーポン（一部の方）を発送します（8 月末頃発送予定）. 大会開催10日前までには参加者の皆様のお手元に届くようお送り致します. 締切時点で入金確認が取れない場合は, 未入金旨記載された確認書のみが送付されます（名札・クーポンは送付されません）ので, 当日会場にて入金のご確認をさせて頂きます. 入金とクーポン発送が入れ違いの場合は, 振込み時の控え等を会場にお持ちいただければ, 確認がスムーズに行えます. ご協力をお願い致します.

※いずれの申込も締切時点で入金確認が取れない場合は, 当日払いの参加費にて請求いたします.

(2) 申込締切

大会登録専用HP（オンライン）による申込：8 月19日（火）18：00

FAX・郵送による申込：8 月15日（金）必着

(3) 申込後の変更・取消

(a) 大会登録専用HP（オンライン）でお申込みの場合：締切までの間は, 大会登録専用HPから予約の変更・取消が出来ます. 変更・取消完了後,「変更・修正　確認メール」が登録のメールアドレスへ配信されます. 内容を必ずご確認下さい. 締切

後は直接学会事務局（東京）にFAX又はe-mailにてご連絡下さい．クレジット決済の場合は，申込の都度決済が完了しますので，決済スケジュールの都合によっては，口座から重複して引き落とされる場合があります．その場合は，振込手数料を差し引いた額をクレジットカード会社もしくは学会から返金します．返金までに２～３ヶ月要する場合もありますので，ご了承下さい．

(b) FAX・郵送でお申込み場合：申込後に変更・取消が生じた場合は，学会事務局（東京）にFAXまたはe-mailにてご連絡下さい．その際申込受付時に案内される「受付番号」・「氏名」を必ず明記下さい．

(4) 取消に関わる取消料と返金について（弁当と巡検は取消料が異なります．詳細は各項目を参照して下さい．p.（8））

(a) 締切までの取消：取消料は発生しません．返金がある場合は，振込手数料を差し引いた額をクレジットカード会社もしくは学会から返金します．返金までに２～３ヶ月要する場合もありますので，ご了承下さい．

(b) 締切後～9/10（大会3日前）までの取消：入金・未入金の如何に関わらず，参加費用の60%を取消料としていただきます．返金がある場合は，振込手数料を差し引いた額をクレジットカード会社もしくは学会から返金します．返金までに２～３ヶ月要する場合もありますので，ご了承下さい．参加費に講演要旨集が付いている方へは，大会後にお送りします．

(c) 9/11（大会2日前）以降の取消：入金・未入金の如何に関わらず，参加費用の100%を取消料としていただきます．参加費に講演要旨集が付いている方へは，大会後にお送りします．

13. 大会参加登録および参加登録費（講演要旨集付き）＜申込締切　オンライン：8月19日（火）18：00，FAX・郵送：8月15日（金）必着　学会事務局（東京）扱い＞

当日会場受付での混雑緩和のため，事前に参加登録申込をお願いします．大会参加登録およびそれに伴う参加費は，参加者（巡検のみ参加の場合も）に必要な基本的なお申し込みです．ただし，会員が同伴する非会員の配偶者ならびに子供（以下，同伴者）については参加登録申込の必要はありません（懇親会・巡検・お弁当については同伴者も申込が必要）．

申込は，オンライン，FAX・郵送いずれの場合も，会員と同伴者の２名まで一括申込が可能です．申込は，「12. 各種申込とお支払について」を参照し，申し込んで下さい．

◯参加登録費（講演要旨集付です）

講演要旨集が不要の場合でも割引はありません．参加登録費の発生する方には，講演要旨集が必ず付きます．なお，名誉会員・50年会員，非会員招待者，学部学生（会員・非会員問わず）には講演要旨集は付きません．ご希望の方は別途購入して下さい．

	事前申込	当日払い	備考
正会員	7,500円	9,500円	講演要旨集付
院生割引会費適用正会員	4,500円	6,500円	講演要旨集付
学部学生割引会費適用正会員・名誉会員・50年会員・非会員学部学生・非会員招待者	無料	無料	講演要旨集は付きません．
非会員（一般）	12,500円	15,000円	講演要旨集付
非会員（院生）	7,000円	9,500円	講演要旨集付

＊日本地質学会の会員資格は『正会員』のみであり，割引会費の申請をした方についてのみ，割引会費が適用されています．

＊大会に参加できなかった場合は，大会後に講演要旨集をお送りします．参加登録費用の返却はいたしませんのでご了承下さい（12.（4）取消料の項目参照）．

＊セッション共催団体および巡検協賛団体会員の参加登録費は正会員と同額になります．

＊追加で講演要旨集を購入される場合は，「14.講演要旨集の予約頒布」の価格表を確認してお申し込み下さい．

14. 講演要旨集の予約頒布＜申込締切　オンライン：8月19日（火）18：00，FAX・郵送：8月15日（金）必着　学会事務局（東京）扱い＞

大会参加費には講演要旨集の代金が含まれていますので，大会に参加される場合は別途購入の必要はありません．ただし，名誉会員・50年会員，非会員招待者，学部学生（会員・非会員問わず）には講演要旨集は付きません．ご希望の方は，別途ご購入下さい．大会に参加されない方ならびに参加する方が複数の講演要旨集を購入される場合の予約頒布の申込は，「12. 各種申込とお支払いについて」を参照し，申し込んで下さい．要旨集の受け取り方法には，(1) 大会後に送付，(2) 会場で受取り，があります．(1) の場合は別途送料が必要です．(2) の場合は大会受付にて確認書の提示が必要となりますので必ずご持参下さい．残部があれば大会当日あるいは大会後にも頒布します．売り切れの場合はご容赦下さい．

	事前予約（/冊）	当日販売（/冊）
会　員	3,000円	4,000円
非会員	4,000円	5,500円

＊「大会後に送付」の場合の送料は以下の通りです．

送料：１冊　500円，２冊　600円，３冊　800円，４冊　1,000円，５冊　1,200円

15. 巡検参加申込＜申込締切　オンライン：8月8日（金）18：00，FAX・郵送：8月6日（水）必着　学会事務局（東京）扱い＞

総計８コースの巡検を計画しました（p.（24）～（26）参照）．巡検の参加申込は，「12. 各種申込とお支払いについて」を参照し，申し込んで下さい．参加希望の方は，オンライン申込手続き手順に従って参加申込を行って下さい．FAX・郵送でのお申込は，p.（27）の専用申込書を用い，学会事務局（東京）宛に大会参加申込と一緒に申し込んで下さい．巡検だけに参加する場

合も大会参加登録ならびに参加登録費が必要になります．巡検と大会参加登録の申込を合わせて行って下さい．実施日程の異なる場合，複数の巡検コースへの申込を行うこともできます（最大２コース）．

(1) 参加申込人数が各巡検コースの最小催行人員に達しなかった場合，巡検を中止することがあります．

(2) 巡検協賛団体の会員の方は，会員同様にお申込を頂けます．それ以外の非会員の方は，申込締切時点で定員に余裕があれば参加可能となります．ご承知おき下さい．

(3) 本学会ならびに鹿児島大会実行委員会は巡検参加者に対し，巡検中に発生する病気，事故，傷害，死亡等に対する責任・補償を一切負いません．これらについては，巡検費用に含まれる保険（国内旅行傷害保険団体型）の範囲でのみまかなわれます．

(4) 子供同伴，肢体不自由など特別な事情がある場合は，**申込前に現地事務局へ**あらかじめ問い合わせて下さい．

(5) 締切までの間は，ホームページから変更・取消が出来ます．変更・取消完了後，「変更・修正　確認メール」が登録のメールアドレスへ送信されます．内容を必ずご確認下さい．締切後の変更・取消は，直接学会事務局（東京）にFAX又はe-mailにてご連絡下さい．締切後は入金・未入金の如何に関わらず，取消料が発生します（詳しくは，p.（24）巡検一覧取消料の項目参照）．

(6) 集合・解散の場所，時刻などを変更することもありますので，大会期間中は掲示などの案内に注意して下さい．

(7) 冊子体の案内書は作成しません．案内書CD-ROMを地質学雑誌８月号に添付する予定です（８月下旬または９月上旬にお手元に届きます）．また，巡検参加者には，各班の巡検案内の複写を巡検当日に配布する予定です．

16. 懇親会参加申込＜申込締切　オンライン：８月19日（火）18：00，FAX・郵送：８月15日（金）必着　学会事務局（東京）扱い＞

懇親会は，９月13日（土）受賞講演会終了後，大学内で行います（18：30頃から２時間程度を予定）．

	会　費
正会員	5,000円
名誉会員・50年会員 院生割引会費，学部割引適用正会員 会員の家族	2,500円

非会員の会費は会員に準じます．準備の都合上，前金制の予約参加とします．たくさんの方々，特に院生・学生などの若手会員のご参加をお待ちしております．余裕があれば当日参加も可能ですが，予定数に達し次第締切ります．当日会費は1,000円高くなります．

予約申込は，「12．各種申込とお支払いについて」を参照し，大会参加申込と合わせて８月19日（火）までにお申し込み下さい．当日はクーポンを受付にご持参いただきます．参加取消の場合でも懇親会費の返却はいたしませんのでご了承下さい．

17. お弁当予約販売＜申込締切　オンライン：8月19日（火）18:00，FAX・郵送：8月15日（金）必着　学会事務局（東京）扱い＞

９月13日（土）～15日（月）には昼食用の弁当販売をいたします（１個700円，お茶付き）．「12．各種申込とお支払いについて」を参照し，大会参加申込と合わせて，お申し込み下さい．お弁当利用日より９日前～前日までは50%，当日は100%の取消料がかかります．会場近隣のコンビニエンスストアは徒歩数分のエリアに複数あります．

18. 書籍・販売ブースご利用の募集＜申込締切　一次　７月４日（金），最終　８月８日（金）　現地事務局扱い＞

地質学関連の書籍・その他物品の販売にご利用いただくべく会期中ブースを設置致します．奮ってご出展のお申込をいただきますようお願い申し上げます．※見本展示のみでのご利用も可能です．

【書籍・販売ブース出展概要】

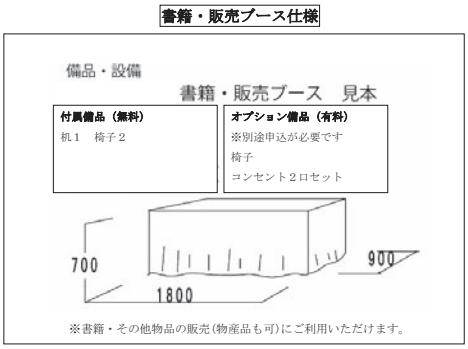
１，設置期間：９月13日（土）～９月15日（月）

２，設置場所：鹿児島大学　郡元キャンパス　教育学部第2体育館　※予定

３，募集ブース数：20ブース　※予定　複数ブースのお申込も可能です．

４，ブース仕様見本

書籍・販売ブース仕様



※仕様詳細・オプション料金等につきましては，大会ホームページの「展示募集要項申込書」をダウンロードの上，ご確認下さい．

５，出展料金：10,000円（消費税別）

６，第１次募集締め切り日：７月４日（金）　最終締め切り日：８月８日（金）

【出展申込方法】

大会ホームページの「展示募集要項申込書」をダウンロードいただき，必要事項をご記入の上，下記申込先までe-mailへのPDFファイル添付，あるいはFAXにてお申込下さい．募集要項・申込書が別途必要な場合は，現地事務局までご連絡下さい．送

付致します．

【お申込・お問合せ先】

〒540-0033　大阪市中央区石町 1 - 1 - 1 天満橋千代田ビル 2 号館 9 階　日本地質学会
第121年学術大会　現地事務局（株式会社アカデミック・ブレインズ内）
TEL：06-6949-8137，FAX：06-6949-8138，
e-mail：gsj2014kagoshima@academicbrains.jp　担当：田中

19. 講演要旨集，広告協賛の募集＜申込締切　8 月 8 日（金）　現地事務局扱い＞

地質関係機関・関連企業のご活躍を広く地質学会員に広報いただくべく，大会開催にあわせ発行されます講演要旨集において，広告協賛を募集致します．企業紹介・業務紹介・研究成果・新技術・特許などの広報活動のご一環として，奮ってお申込をいただきますようお願い申し上げます．

【広告協賛料金】※詳細は大会ホームページの「広告協賛募集要項申込書」をダウンロードの上，ご確認下さい．

講演要旨集：1 頁　40,000円　1 / 2 頁　20,000円　1 / 4 頁　10,000円（すべて消費税別）

※ 完全版下，データまたフィルムでの入稿をお願い致します．

【出出稿申込方法】

大会ホームページの「広告協賛募集要項申込書」をダウンロードいただき必要事項をご記入の上，下記申込先までe-mailへのPDF添付，あるいはFAXにてお申込下さい．

【お申込・お問合せ先】

〒540-0033　大阪市中央区石町 1 - 1 - 1 天満橋千代田ビル 2 号館 9 階　日本地質学会
第121年学術大会　現地事務局（株式会社アカデミック・ブレインズ内）
TEL：06-6949-8137，FAX：06-6949-8138，e-mail：gsj2014kagoshima@academicbrains.jp
担当：田中

20. 男女共同参画関係企画

男女共同参画委員会では，ご家族で学会参加される会員の皆様に以下のプランをご用意いたしました．ご希望の方は，利用条件をよくご覧になりお申し込み下さい．

【託児室のご案内】＜利用申込締切　8 月22日（金）現地事務局まで＞

（1）開設日時：9 月13日（土）8 ：00～20：00（予定）
　　9 月14日（日）8 ：30～20：00（予定）
　　9 月15日（月）8 ：30～20：00（予定）
（2）対象：鹿児島大会参加者を保護者とする生後 6 ヶ月から未就学のお子様．
（3）場所：キッズベース鹿児島（予定）
　　〒890-0052　鹿児島市上之園町14-30有迫ビル 1 F
　　http://www.kidsbase-ccc.com/
（4）アクセス：JR鹿児島中央駅　徒歩10分
（5）ご利用をご希望の方は現地事務局までお問合わせ下さい．万が一の場合に備え，施設加入の損害保険で対応させていただきます．なお，託児施設のご利用に際しては当鹿児島大会会実行委員会・日本地質学会は責任を負いかねますのでご了承下さい．

21. 実行委員会組織

委　員　長：小林哲夫（TEL：099-285-8146，koba@sci.kagoshima-u.ac.jp）
西日本支部長：佐野弘好（TEL：092-642-2606，sano@geo.kyushu-u.ac.jp）
事 務 局 長：仲谷英夫（TEL：099-285-8139，nakaya@sci.kagoshima-u.ac.jp）
巡　　検：井村隆介（TEL：099-285-8144，imura@sci.kagoshima-u.ac.jp）
巡検案内書：志村俊昭（TEL：083-933-5766，smr@yamaguchi-u.ac.jp）
現地事務局（(株）アカデミック・ブレインズ（内））担当：田中（TEL：06-6949-8137，FAX：06-6949-8138，e-mail：gsj2014kagoshima@academicbrains.jp）
男女共同参画企（託児室）：問い合わせ先　現地事務局担当：田中（TEL：06-6949-8137，FAX：06-6949-8138，e-mail：gsj2014kagoshima@academicbrains.jp）

22. 申込先と締切日＜締切日厳守＞

（1）行事委員会（東京）に申し込むもの

1）演題登録　オンライン：7 月 1 日（火）18：00，郵送：6 月25日（水）必着
2）講演要旨投稿　オンライン：7 月 1 日（火）18：00，郵送：6 月25日（水）必着
3）ランチョン・夜間小集会：6 月25日（水）

（2）現地事務局に申し込むもの

1）企業・研究機関等関係団体による展示会の出展募集
　　1 次締切　7 月 4 日（金）18：00　最終締切　8 月 8 日（金）18：00
2）書籍・販売ブースご利用の募集
　　1 次締切　7 月 4 日（金）18：00　最終締切　8 月 8 日（金）18：00
3）講演要旨集，広告協賛の募集　8 月 8 日（金）18：00

4）託児室の利用申込　8月22日（金）※予定

(3) 地学教育委員会（東京）に申し込むもの

1）小さなEarth Scientistのつどい　7月16日（水）

(4) 学会事務局（東京）に申し込むもの（オンラインまたは郵送・FAX）

1）大会参加（参加登録費・講演要旨集代等の支払い）　申込締切　オンライン：8月19日（火）18：00，FAX・郵送：8月15日（金）必着

2）講演要旨集追加注文（大会に参加しない方および複数購入用）　オンライン：8月19日（火）18：00，FAX・郵送：8月15日（金）必着

3）**巡検参加　オンライン：8月8日（金）18：00，FAX・郵送：8月6日（水）必着**

4）懇親会・弁当　オンライン：8月19日（火）18：00，FAX・郵送：8月15日（金）必着

連絡先一覧

◯日本地質学会行事委員会・地学教育委員会・学会事務局（東京）

〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15井桁ビル6F
TEL：03-5823-1150　FAX：03-5823-1156
e-mail：main@geosociety.jp

日本地質学会行事委員会（2014年4月現在）

委員長　星　博幸（担当理事）

委　員　内野　隆之（地域地質部会）
長谷川　健（火山部会）
鵜澤（平原）　由香（岩石部会）
坂本　正徳（情報地質部会）
田村　嘉之（環境地質部会）
須藤　宏（応用地質部会）
浅野　俊雄（地学教育委員会）
廣瀬　孝太郎（第四紀地質部会）
岡田　誠（層序部会）
芦　寿一郎（海洋地質部会）
中条　武司（堆積地質部会）
辻　健（現行地質過程部会）
河村　知徳（石油石炭関係）
氏家　恒太郎（構造地質部会）
須藤　斎（古生物部会）
黒田　潤一郎（環境変動史部会）
吉田　英一（地質環境長期安定性研究委員会）
中村　謙太郎（鉱物資源部会）

◯日本地質学会第121年学術大会　現地事務局

（株式会社アカデミック・ブレインズ内）担当：田中
〒540-0033　大阪市中央区石町1-1-1天満橋千代田ビル2号館9階
TEL：06-6949-8137，FAX：06-6949-8138
e-mail：gsj2014kagoshima@academicbrains.jp

シンポジウム・セッション一覧

・タイトル（和英）・世話人氏名（和英）・概要を示します．＊印は代表世話人（連絡責任者）．
・発表申込についてはp.（3）の7項をご確認下さい．

【シンポジウム：2件】（一般募集なし）

S1．九州が大陸だった頃の生物と環境（一般公開シンポジウム）［日本古生物学会共催］

Biology and environments of Kyushu Island when it was linked to the Eurasian continent
世話人：仲谷英夫（鹿児島大：nakaya@sci.kagoshima-u.ac.jp）
Convener: Hideo Nakaya（Kagoshima Univ.）

近年，九州からは古第三紀の哺乳類や白亜紀の恐竜化石が多く発見され，九州のみならず全国的にも注目をあびているが，白亜紀から新第三紀前半の九州を中心とする西南日本がユーラシア大陸の一部であった時代における陸上生物相の変遷や，当時の九州の古地理的な位置づけについては十分な研究が行われているとはいいがたい．

本シンポジウムでは，九州を中心にした西南日本における白亜紀の恐竜化石，白亜紀～新第三紀前半の爬虫類化石（カメ），古第三紀哺乳類化石（初期有蹄類），新第三紀哺乳類化石（ゾウ），古第三紀大型植物化石など，陸上生物相の変化と地質環境について，最近の研究成果を総括する．また，ユーラシア大陸の生物相との比較から九州を中心とした西南日本の古生物地理的な位置づけについても考察する．

【講演予定者】對比地孝亘（東京大），平山　廉（早稲田大），宮田和周（福井県立恐竜博），三枝春生（兵庫県立人と自然の博・兵庫県立大），矢部　淳（国立科博），斎藤　眞（産総研）

S2．津波ハザードとリスク：地質記録の活用（国際シンポジウム）［ロンドン地質学会共催］

Tsunami hazards and risks: using the geological record（JGS-GSL international symposium）
オーガナイザー：Simon Wallis（名古屋大：simon.wallis@e.mbox.nagoya-u.ac.jp）・Neil Chapman（Chapman & Co Consulting）
世話人：後藤和久＊（東北大：goto@irides.tohoku.ac.jp）・藤原　治（産総研）・藤野滋弘（筑波大）
Organizers: Simon Wallis（Nagoya Univ.）and Neil Chapman（Chapman & Co Consulting）
Conveners: Kazuhisa Goto＊（Tohoku Univ.），Osamu Fujiwara（AIST）and Shigehiro Fujino（Univ. Tsukuba）

過去の津波現象の実態を解明することは，将来の津波リスク評価を適切に行うために極めて重要である．特に，先史時代にまで遡って津波の履歴や規模を明らかにするためには，津波堆積物などの地質学的記録を活用する必要がある．しかし，津波堆積物の認定基準やリスク評価への活用方法，非地震性津波の特徴など，今後の研究の進展が望まれる課題も多い．本シンポジウムは，ロンドン地質学会との共催で国内外の著名な津波研究者を招き，地質学的な津波研究の現状と課題に加え，津波リスク評価への活用方法を議論する．

Understanding past tsunami events is critically important for future tsunami risk assessment. Studies of the geological record play an indispensible role in developing our understanding of the recurrence interval and magnitude of prehistoric tsunamis. However, there are many issues in this field that remain unresolved. Important examples are: establishing reliable identification criteria of tsunami deposits and developing a clearer understanding of how to make use of such deposits for risk assessment. It is also important to consider how to distinguish tsunamis generated by non-seismic hazards. This is the first of a twin set of symposia organized by Geological Societies of Japan and London（JGS and GSL）. A group of leading experts in the field have been invited with the aim of discussing the current state of the art including an assessment of problems presented by geological studies of tsunami and the role of these studies in future tsunami risk assessment.

【講演予定者】馬場俊孝（海洋研究開発機構）・Catherine Chague-Goff（New South Wales Univ.）・Simon Day（Univ. College London）・藤野滋弘（筑波大）・藤原　治（産総研）・後藤和久（東北大）・Jim Hansom（Univ. Glasgow）・原田賢治（静岡大）・市原季彦（復建設計）・西村裕一（北海道大）・佐竹健治（東京大）・澤井祐紀（産総研）・菅原大助（東北大）・David Tappin（British Geol. Survey）

※本シンポジウムはグレイト・ブリテン・ササカワ財団（The Great Britain Sasakawa Foundation）からの助成を受けて開催します．

※会期後（9/16－18）に関連巡検を実施します．あわせて是非ご参加下さい（詳しくは，本誌p.（26）参照）．

【トピックセッション：9件】

T1．火山島弧の造山運動：沈み込み，付加，衝突およびリサイクリング

Orogenic processes in island arcs: subduction, accretion, collision and recycling
Hafiz Ur Rehman＊（鹿児島大：hafiz@sci.kagoshima-u.ac.jp）・岡本和明（埼玉大）
Hafiz Ur Rehman＊（Kagoshima Univ.）and Kazuaki Okamoto（Saitama Univ.）

当セッションでは島弧の造山運動，沈み込み帯，付加体，大陸衝突およびそれらの物質のリサイクルについて論議・討論する．岩石および鉱物に取り残されている地質学的，物理的および地球化学的な情報をマルチアプローチで取り出し島弧の起源，沈み込み帯のメカニズム，付加体の作成，大陸衝突および海洋性島弧の衝突，そしてそれらの物質のリサイクルプロセスを明らかにする．

The session considers the processes involved with the formation of oceanic and continental island arcs, slabs subduction,

accretion, collision of plates, and recycling of the subducting material into mantle. In this session we aim a multi-disciplinary approach to extract the information preserved in rocks and minerals via field, petrologic, textural, chemical and isotopic observations. The session also aims at exchanging ideas among geoscientists applying different approaches on problems related to the theme of this session.

【招待講演予定者】Bor-ming Jahn（National Taiwan Univ.）・丸山茂徳（東工大）

T 2．文化地質学

Cultural geology

鈴木寿志*（大谷大：hsuzuki@res.otani.ac.jp）・一田昌宏（京都大博）

Hisashi Suzuki*（Otani Univ.）and Masahiro Ichida（Kyoto Univ. Mus.）

かつて地質学は石炭などの資源探査に必要な学問として発展してきた．しかし日本の炭鉱，鉱山が次々と閉山するにつれ，地質学の資源探査に対する社会の要請は低下していった．国土開発が盛んに行われた高度経済成長期には，土木地質学が発展した．近年では自然災害の被害軽減のために防災地質学への要請が強い．古今東西いずれの学問も純粋科学としての面をもつが，多くの学問分野は社会の要請に伴って発展してきた．そのような中，日本の地質学はどうだろうか．えてして学問のための学問になっていないだろうか．純粋科学を否定はしないが，これまで社会や人との関わりを絶った学問分野は衰退していった．

そこで本セッションでは，かつての役割を終えつつある地質学に，新たな分野を提唱したい．「文化地質学」である．文化地質学は人類の文化・文明が，地質とどのように関わってきたかを研究する学問分野である．人類が地球上の生物である以上，そこに花開いた文化・文明は，必ず地球と関わりがある．それもほとんどは表層地質に依拠している．人々は大地の上に住み，土地を耕し，地質の上に歴史と文化を形作った．人々は地質を資源として利用し，さまざまな道具や機械を作製してきた．さらに人々は地質景観に魅せられ，国立・国定公園やジオパークを整備した．このようにみると，地質学は人類存在の根源に他ならない．地質学と文化・文明との関わりについて論じたすべての研究発表を歓迎する．

【招待講演予定者】長　秋雄（産総研）・原田憲一（シンクタンク京都自然史研）

T 3．グリーンタフ・ルネサンス

Green Tuff renaissance

天野一男*（茨城大：kazuo@mx.ibaraki.ac.jp）・細井　淳（茨城大）・松原典孝（兵庫県立大）

Kazuo Amano*（Ibaraki Univ.）, Jun Hosoi（Ibaraki Univ.）and Noritaka Matsubara（Univ. Hyogo）

グリーンタフは，新生代日本列島のテクトニクス，とりわけ島弧進化史考える上で極めて重要な地層である．従来グリーンタフの研究は層序を編むことを中心に進められ，1990年代前半に総括がなされた．この古典的な層序学的研究の総括を基づいて，プレートテクトニクスの概念により東北日本弧形成テクトニクスのモデルが提示されたが，その後新しい研究手法が導入されなかったことも一つの原因で，グリーンタフ研究は一気に下火となった．一方，国際的にはグリーンタフに類似した水中火山岩類の堆積学的研究は飛躍的に進展し，高解像度な研究が行われ成果を上げていた．また，近年グリーンタフの模式層序である男鹿半島の層序が大幅修正にされた．グリーンタフの総括的研究から20年以上経過した今こそ，新しい視点でグリーンタフを見直すことにより，新たな地平を開くことが可能と考える．本セッションでは，グリーンタフに関する層序学，地質学，構造地質学，岩石学，古地磁気学など様々な研究の口頭およびポスター発表を募集する．グリーンタフを様々な研究視点から再検討し，島弧進化史研究の新たな展開をめざすものである．

【招待講演予定者】鹿野和彦（鹿児島大）

T 4．砕屑性ジルコン年代学：その未来とさらなる応用

Detrital zircon chronology: its future and further applications

磯崎行雄*（東京大：isozaki@ea.c.u-tokyo.ac.jp）・山本伸次（東京大）

Yukio Isozaki*（Univ. Tokyo）and Shinji Yamamoto（Univ. Tokyo）

砂岩中に含まれる砕屑性ジルコンのU-Pb年代の大量測定が，威力抜群の新規研究手法として近年世界中で採用されている．その応用範囲は広大で，とくに古期地層について，有効な示準化石を産しない場合でもかなり正確な堆積年代を推定することが可能となり，従来の層序および年代論の改訂が不可避となっている．一方で，相対的に古い砕屑粒子に注目することでその由来から後背地の情報を取り出すことが可能となり，古地理復元についても従来では得られなかった重要な制限条件が明らかにされつつある．とくに同一の弧-海溝系をなす単一の造山帯の内部における，物質の移動経路の特定できるようになり，現実性の高い造山帯の大構造復元が可能となりつつある．その中で，従来見過ごされていた構造侵食の効果が明示され，また火山弧に関連した各種堆積盆地の発達・分化過程が議論出来るようになった．日本でもこれまでに，東アジアの近隣大陸塊との関連と日本列島の起源，付加体の成長と構造浸食などに関する多くの新知見がもたらされつつある．本セッションでは，日本列島をはじめとする太平洋型造山帯のみならず，世界各地における砕屑性ジルコン年代学の新しい成果を報告する．

【招待講演予定者】澤木祐介（東工大）

T 5．ポスト冥王代研究

Studies on the post-Hadean

磯崎行雄*（東京大：isozaki@ea.c.u-tokyo.ac.jp）・堤　之恭（国立科博）

Yukio Isozaki*（Univ. Tokyo）and Yukiyasu Tsutsumi（National Mus. Nature Sci.）

地球史最初期の冥王代（46－40億年前）に生命誕生の基本条件が整えられたことは疑いがない．しかし，その当時の地球の実態は未知である．現存する最古岩石は約42億年前のもので，冥王代に関する物質的証拠はごく稀である．世界中で35カ所ある冥王代直後の岩石分布域において，45億年前の原初大陸の破片（岩体，岩石，鉱物）が発見される可能性がある．特にジルコンは，後の高温高圧変成作用に対して抵抗性が強く，初生的情報を残しやすく，現時点で西オーストラリア・イルガルン地塊産の44億年前ジルコン粒が最古例である．月と同様の初期形成過程を経た初期地球にはアノーソサイト質の原初大陸が存在した可能性があり，惑星表層に巨大な大陸を胚胎したという点で，生命誕生を導いた地球史最初の6億年（冥王代）と大型生命が大繁栄した最後の 6 億年（顕生代）は共通点が多い．ほとんどが未知の冥王代の研究において，顕生代地質学の知識が有用

である．一方，生命を胚胎した原初大陸は，後の時代の構造侵食によりマントル深部に沈み込み表層からは完全に消失した．しかし，現在のマントル深部には冥王代原初大陸地殻（Ca-ペロブスカイト）の残骸が溜まっていると予測される．地震波データをもとにその可視化が期待される．新しい視点にたって，従来と異なる研究分野の開拓を試みる．

【招待講演予定者】丸山茂徳（東工大）・土屋卓久（愛媛大）

T 6．三次元地質モデル研究の新展開［共催：日本情報地質学会］

Recent progress in three-dimensional geological modeling

木村克己*（産総研：k.kimura@aist.go.jp）・升本眞二（大阪市大）・高野　修（石油資源開発）・根本達也（大阪市大）

Katsumi Kimura*（AIST）, Shinji Masumoto（Osaka City Univ.）, Osamu Takano（JAPEX）and Tatuya Nemoto（Osaka City Univ.）

三次元地質モデリングは，その応用的な有用性から世界各国で注目され，国内では，都市工学，地震防災，石油・資源分野などで研究・開発が進められている．昨年，地質学雑誌8月号にて「三次元地質モデル研究の新展開に向けて」と題する特集号が発行され，国内外の研究動向，三次元地質モデルの基本理念と地質構造の論理モデル，サーフェスモデルとボクセルモデルの構築方法とその実例，地球統計学的モデリングの概要とその実例，応用分野での活用事例について，研究紹介がなされた．しかし，この数年，航空・地上レーザーなどの三次元計測技術や地上・地下を含めた三次元情報の統合と可視化技術，地球統計学的モデリングなど，三次元地質モデリングの基盤となる研究・技術開発の進歩がめざましい．これらの技術開発を背景に，地震動や地下水広域流動の評価，石油資源探査を目的として，大スケールの地殻構造や海陸シームレスの三次元地質構造モデル，堆積や地質学的不確実性を反映させた地球統計学的モデル，浅部地盤の詳細な三次元モデルなどの具体的な三次元地質モデルの研究成果が発表されてきている．こうした最近の学際的な研究および技術開発の到達点も含めて，三次元地質モデリングに関する最新の研究動向・成果を集約し，今後の地質学的な研究課題を展望する場として本セッションを開催したい．

【招待講演予定者】守屋俊治（石油資源開発）・石原与四郎（福岡大）

T 7．古生代から中生代への地球環境進化

Environmental evolution across the Paleozoic-Mesozoic transition

尾上哲治*（熊本大：onoue@sci.kumamoto-u.ac.jp）・高橋　聡（東京大）・池田昌之（静岡大）・上松佐知子（筑波大）

Tetsuji Onoue*（Kumamoto Univ.）, Satoshi Takahashi（Univ. Tokyo）, Masayuki Ikeda（Shizuoka Univ.）and Sachiko Agematsu （Univ. Tsukuba）

史上最大の大量絶滅で特徴付けられる古生代/中生代境界においては，それまでの古生代型動物群に変わって，現代型の動物群が爆発的に進化・繁栄した時代として知られている．大きな絶滅事変が起きたペルム紀/三畳紀（P/T）境界の研究が進む一方で，この生態系の大変革は，ペルム紀中期のグアダルピアンローピンジアン（G/L）境界の絶滅事変からはじまり，三畳紀の気候変動と生物の爆発的進化，そして三畳紀/ジュラ紀（T/J）境界において再び起きた大量絶滅までの長い時間スケールでとらえる見方ができることが分かってきた．これらの絶滅や生物進化と背景になった環境原因については，大規模な火山活動や温暖化・寒冷化等との関連性が指摘されてきているが，不明な点も多い．本セッションでは，G/L境界，P/T境界およびT/J境界の大量絶滅事変や，大量絶滅後の生物群集の爆発的進化や環境回復過程に関する研究を中心に広く募集する．現在多くの研究者が上述の研究課題に取り組んでおり，一同に会して活発な議論を行うことで，古生代から中生代への地球環境進化の実態に迫る国内における情報発信の場としたい．

【招待講演予定者】磯崎行雄（東京大）・堀　利栄（愛媛大）

T 8．超深度掘削による新次元の地球科学［共催：日本掘削科学コンソーシアム（J-DESC）・海洋研究開発機構海洋掘削科学研究開発センター］

New science in deep riser-drilling

川端訓代*（鹿児島大：katsuragisan2424@gmail.com）・坂口有人（山口大）・伊藤喜宏（京都大）・斎藤実篤（海洋研究開発機構）

Kuniyo Kawabata*（Kagoshima Univ.）, Arito Sakaguchi（Yamaguchi Univ.）, Yoshihiro Ito（Kyoto Univ.）and Saneatsu Saito （JAMSTEC）

「ちきゅう」によって進められている超深度掘削は，地球表層における熱や応力的な擾乱から逃れ，地球惑星内部の本質に迫る画期的なプロジェクトである．しかしライザー掘削技術で取得できるデータセットは，従来の掘削とは全く異質のものである．コアリングはスポットに限定され，ほとんどの区間ではカッティングス（削り岩片）が唯一の地質試料である．その一方で掘削流体が循環しているので，地質流体を船上観測することが可能である．ロギングや孔内観測，サイスミックなどと組み合わせて，初めてディープな世界が垣間見えるだろう．生物，構造地質，地球化学，岩石学，地球物理，地震学など幅広い話題を募集する．

【招待講演予定者】廣瀬丈洋（海洋研究開発機構）・Demian Saffer（Pen. State Univ.）

T 9．平野地質

Quaternary basin research

卜部厚志*（新潟大：urabe@gs.niigata-u.ac.jp）・宮地良典（産総研）

Atsushi Urabe*（Niigata Univ.）and Yoshinori Miyachi（AIST）

平野や平野周辺の丘陵部などを構成する地層からは，堆積環境，堆積システム，地層の形成過程，構造運動（活断層の履歴），発達史などさまざまな事象が複合して記録されている．これらを地層から読み解くことは，単に平野の発達過程を復元するだけでなく，地層に記録されたイベント（災害）や表層地盤の課題（軟弱地盤や液状化）などを明らかにすることにつながる．地質学的視点から平野を総合的に理解することは，人間の生活環境の安全性を考える上でも重要である．本セッションでは，平野に係る様々な知見から，人間が生活する平野を理解するための場としたい．

【レギュラーセッション：25件】

R 1．深成岩・火山岩とマグマプロセス（火山部会・岩石部会）

Plutonic rocks, volcanic rocks and magmatic processes

柚原雅樹*（福岡大：yuhara@fukuoka-u.ac.jp）・亀井淳志（島根大）・長谷川健（茨城大）

Masaki Yuhara*（Fukuoka Univ.), Atsushi Kamei（Shimane Univ.）and Takeshi Hasegawa（Ibaraki Univ.）

深成岩および火山岩を対象に，マグマプロセスにアプローチした研究発表を広く募集する．発生から定置・固結に至るまでのマグマの物理・化学的挙動や，テクトニクスとの相互作用について，野外地質学・岩石学・鉱物学・火山学・地球化学・年代学など様々な視点からの活発な議論を期待する．

R 2．岩石・鉱物・鉱床学一般（岩石部会）

Petrology, mineralogy and economic geology

斉藤　哲*（愛媛大：saitotetsu@sci.ehime-u.ac.jp）・壷井基裕（関西学院大）

Satoshi Saito*（Ehime Univ.）and Motohiro Tsuboi（Kwansei Gakuin Univ.）

岩石学，鉱物学，鉱床学，地球化学などの分野をはじめとして，地球・惑星物質科学全般にわたる岩石及び鉱物に関する研究発表を広く募集する．地球構成物質についての多様な研究成果の発表の場となることを期待する．

R 3．噴火・火山発達史と噴出物（火山部会）

Eruption, evolution and products of volcanic processes

長谷川健*（茨城大：hasegawt@mx.ibaraki.ac.jp）・長井雅史（防災科研）

Takeshi Hasegawa*（Ibaraki Univ.）and Masashi Nagai（NIED）

火山地質ならびに火山現象のモデル化に関し，マグマや熱水流体の上昇過程，噴火様式，噴火経緯，噴出物の移動・運搬・堆積，各火山あるいは火山地域の発達史，火山活動とテクトニクス・化学組成をはじめとする，幅広い視点からの議論を期待する．

R 4．変成岩とテクトニクス（岩石部会）

Metamorphic rocks and tectonics

宮本知治*（九州大：miyamoto@geo.kyushu-u.ac.jp）・森　康（北九州市自然史・歴史博）

Tomoharu Miyamoto*（Kyushu Univ.）and Yasushi Mori（Kitakyushu Mus. Natural Hist. Human Hist.）

国内および世界各地の変成岩を主な対象に，記載的事項から実験的・理論的考察を含め，またマイクロスケールから大規模テクトニクスまで，様々な地球科学的手法・規模の視点に立った斬新な話題提供と活発な議論を期待する．

R 5．地域地質・地域層序（地域地質部会・層序部会）

Regional geology and stratigraphy

松原典孝*（兵庫県立大：matsubara-n@stork.u-hyogo.ac.jp）・内野隆之（産総研）・岡田　誠（茨城大）

Noritaka Matsubara*（Univ. Hyogo), Takayuki Uchino（AIST）and Makoto Okada（Ibaraki Univ.）

国内外を問わず，地域に関連した地質や層序の発表を広く募集する．年代，化学，分析，リモセン，活構造，地質調査法等の様々な内容の発表を歓迎し，地域を軸にした討論を期待する．発表形式としては，地質図や断面図のポスター発表を特に歓迎する．

R 6．ジオパーク（地域地質部会・ジオパーク支援委員会）（一般公開）

Geopark

天野一男*（茨城大：kazuo@mx.ibaraki.ac.jp）・高木秀雄（早稲田大）・渡辺真人（産総研）

Kazuo Amano*（Ibaraki Univ.), Hideo Takagi（Waseda Univ.）and Mahito Watanabe（AIST）

日本のジオパーク活動も 6 年が経過して，日本ジオパークとして認定された地域は33地域となり，その内の6地域は世界ジオパークに認定されており，これから新たに申請を考えている地域も多い．このような状況下で，ジオパークの質を向上させるための様々な課題が出てきている．ジオパークは，貴重な地質・地形を中心とした各種自然・文化遺産の価値を地元の人が良く理解し保全しながら，地域の教育や経済的振興をめざす事業である．その活動の中心的なものがジオツアーである．このツアーは，学術的な基礎のもとに一般の方を対象として観光を展開するという点で，従来の観光ツアーとは大きく異なる．学術的に質を落とさないで，いかに一般市民に楽しんでもらえるかが重要な課題となる．ジオツアーのインタープリター，ガイドの育成に当たって，地域の大学，博物館，研究所の研究者の協力は不可欠である．この観点から，地質学会として，問題点を整理し，ジオパークの質的向上への貢献に寄与したい．様々な実践例の発表，課題解決方法の提案など広く講演を募集する．

【招待講演予定者】大岩根　尚（鹿児島県三島村役場）

R 7．地域間層序対比と年代層序スケール（層序部会）

Stratigraphic correlation and chronostratigraphic scales

里口保文*（琵琶湖博物館：satoguti@lbm.go.jp）・岡田　誠（茨城大）

Yasufumi Satoguchi*（Lake Biwa Mus.）and Makoto Okada（Ibaraki Univ.）

テフラ等の鍵層を用いて異なる地域間の層序対比に主体をおく研究や，鍵層そのものを主体とした研究，または複合的層序学等によるグローバルな年代層序スケールの構築に寄与するような研究についての講演を歓迎する．

R 8．海洋地質（海洋地質部会）

Marine geology

荒井晃作（産総研：ko-arai@aist.go.jp）・芦　寿一郎*（東京大）・小原泰彦（海上保安庁）

Kohsaku Arai（AIST), Juichiro Ashi*（Univ. Tokyo）and Yasuhiko Ohara（JCG）

海洋地質に関連する分野（海域の地質・テクトニクス・変動地形学・海域資源・堆積学・海洋学・古環境学・陸域地質での海洋環境変遷研究など）の研究発表を募集する．調査速報・海底地形地質・画像データなどのポスター発表も歓迎する．

【招待講演予定者】浦辺徹郎（国際資源開発研修センター）・石塚　治（産総研）

R 9．堆積物（岩）の起源・組織・組成（堆積地質部会）［共催：日本堆積学会・石油技術協会探鉱技術委員会・日本有機地球化学会］

Origin, texture and composition of sediments

太田　亨*（早稲田大：tohta@toki.waseda.jp）・野田　篤（産総研）

Tohru Ohta*（Waseda Univ.）and Atsushi Noda（AIST）

砕屑物の生成（風化・侵食・運搬）から堆積岩の形成（堆積・沈降・埋積・続成）まで，組織（粒子径・形態）・組成（粒子・重鉱物・化学・同位体・年代）・物性などの堆積物（岩）の物理的・化学的・力学的性質を対象とし，その起源・形成過程・後背地・古環境や地質体の発達史を議論する．太古代の堆積岩から現世堆積物まで，珪質岩・火山砕屑岩・風成塵・リン酸塩岩・蒸発岩・有機物・硫化物などについての研究も歓迎する．

R10．炭酸塩岩の起源と地球環境（堆積地質部会）［共催：日本堆積学会・石油技術協会探鉱技術委員会・日本有機地球化学会］

Origin of carbonate rocks and related global environments

山田　努*（東北大：t-yamada@m.tohoku.ac.jp）・足立奈津子（鳴門教育大）

Tsutomu Yamada*（Tohoku Univ.）and Natsuko Adachi（Naruto Univ. Educ.）

炭酸塩岩・炭酸塩堆積物の堆積作用，組織，構造，層序，岩相，生物相，地球化学，続成作用，ドロマイト化作用など，炭酸塩に関わる広範な研究発表を募集する．また，現世炭酸塩の堆積作用・発達様式，地球化学，生物・生態学的な視点からの研究発表も歓迎する．

【招待講演予定者】吉村和久（九州大）

R11．堆積相・堆積過程（堆積地質部会・現行地質過程部会）［共催：日本堆積学会・石油技術協会探鉱技術委員会・日本有機地球化学会］

Sedimentary facies and processes

横川美和*（大阪工業大：miwa@is.oit.ac.jp）・高清水康博（新潟大）・西田尚央（産総研）

Miwa Yokokawa*（Osaka Inst. Tech.）, Yasuhiro Takashimizu（Niigata Univ.）and Naohisa Nishida（AIST）

さまざまな環境で生じる堆積過程と堆積相の分類・記載・解釈に関する発表や，堆積相解析に基づく堆積システム・シーケンス層序学についての議論を広く募集する．さらに，堆積作用や地層形成のダイナミクスに関連する理論・アナログ実験・数値シミュレーション・現地観測等の研究発表を歓迎する．

R12．石油・石炭地質学と有機地球化学（石油石炭関係・堆積地質部会）［共催：石油技術協会探鉱技術委員会・日本有機地球化学会・日本堆積学会］

Geology and geochemistry of petroleum and coal

金子信行*（産総研：nobu-kaneko@aist.go.jp）・河村知徳（石油資源開発）・三瓶良和（島根大）

Nobuyuki Kaneko*（AIST）, Tomonori Kawamura（JAPEX）and Yoshikazu Sampei（Shimane Univ.）

国内外の石油・石炭地質および有機地球化学に関する講演を集め，石油・天然ガス・石炭鉱床の成因・産状・探査手法など，特にトラップ構造，堆積盆，堆積環境，貯留岩，根源岩，石油システム，資源量，炭化度などについて討論する．

【招待講演予定者】加藤　進（地球科学総合研究所）・山中寿朗（岡山大）

R13．岩石・鉱物の変形と反応（構造地質部会・岩石部会）

Deformation and reactions of rocks and minerals

廣瀬丈洋*（海洋研究開発機構：hiroset@jamstec.go.jp）・高橋美紀（産総研）・大坪　誠（産総研）・水上知行（金沢大）

Takehiro Hirose*（JAMSTEC）, Miki Takahashi（AIST）, Makoto Otsubo（AIST）and Tomoyuki Mizukami（Kanazawa Univ.）

岩石・鉱物の変形（破壊，摩擦，流動現象）と反応（物質移動，相変化）およびその相互作用を，観察・分析・実験を通じて物理・化学的な側面から包括的に理解し，地球表層から内部における地質現象の解明を目指す．地質学，岩石学，鉱物学，地球化学など様々な視点・アプローチによる成果をもとに議論する．

【招待講演予定者】平賀岳彦（東京大）

R14．沈み込み帯・陸上付加体（構造地質部会・海洋地質部会）

Subduction zones and on-land accretionary complexes

氏家恒太郎*（筑波大：kujiie@geol.tsukuba.ac.jp）・橋本善孝（高知大）・坂口有人（山口大）・菅森義晃（鳥取大）

Kohtaro Ujiie*（Univ. Tsukuba）, Yoshitaka Hashimoto（Kochi Univ.）, Arito Sakaguchi（Yamaguchi Univ.）and Yoshiaki Sugamori（Tottori Univ.）

沈み込み帯・陸上付加体に関するあらゆる分野からの研究を歓迎する．野外調査，微細構造観察，分析，実験，理論，モデリングのみならず海洋における反射法地震探査，地球物理観測，地球化学分析，微生物活動など多様なアプローチに基づいた活発な議論を展開したい．次世代の沈み込み帯・陸上付加体研究者を育てるべく，学生による研究発表も大いに歓迎する．

【招待講演予定者】井出　哲（東京大）・高田陽一郎（京都大）

R15．テクトニクス（構造地質部会）

Tectonics

武藤　潤*（東北大：muto@m.tohoku.ac.jp）・安江健一（原子力研究開発機構）・針金由美子（産総研）

Jun Muto*（Tohoku Univ.）, Ken-ichi Yasue（JAEA）and Yumiko Harigane（AIST）

陸上から海洋における野外調査や各種観測の他，実験や理論などに基づき，日本や世界各地に発達するあらゆる地質体の構造，成因，形成過程や発達史に関する講演を募集する．また，現在進行している地殻変形や活構造に関する研究成果も歓迎する．

【招待講演予定者】木村　学（東京大）・松本　聡（九州大）

R16．古生物（古生物部会）

Paleontology

平山　廉（早稲田大）・北村晃寿（静岡大）・太田泰弘（北九州博）・三枝春生（兵庫県立人と自然の博）・須藤　斎*（名古屋大：suto.itsuki@a.mbox.nagoya-u.ac.jp）

Ren Hirayama (Waseda Univ.), Akihisa Kitamura (Shizuoka Univ.), Yasuhiro Ota (Kitakyushu Mus.), Haruo Saegusa (Mus. Nature and Human Activities, Hyogo) and Itsuki Suto* (Nagoya Univ.)

主として古生物を扱った，または，プロキシとして古生物を利用したものや古生物を用いた新手法などの研究の発表・討論を行う．

R17. ジュラ系＋（古生物部会）

The Jurassic +

松岡　篤*（新潟大：matsuoka@geo.sc.niigata-u.ac.jp）・近藤康生（高知大）・小松俊文（熊本大）・石田直人（明治大）・中田健太郎（城西大）

Atsushi Matsuoka* (Niigata Univ.), Yasuo Kondo (Kochi Univ.), Toshifumi Komatsu (Kumamoto Univ.), Naoto Ishida (Meiji Univ.) and Kentaro Nakada (Josai Univ.)

2003年の静岡大会において「ジュラ系」として誕生した本セッションは，隣接する地質系統の研究者の要望を取り込んで「ジュラ系＋」として発展し，10年間にわたりトピックセッションとしてを継続開催されてきた．この間，ジュラ系の研究を中心に，関連する講演がまとまって発表される場として定着し，ジュラ系研究の情報を研究者の間で共有することに貢献してきた．この10年の国際的なジュラ系研究は，ジュラ系基底のGSSP確定をはじめ重要な進展があったが，本セッションではその動向をいち早く伝え続けてきた．また本セッションの講演タイトルが国際ジュラ系層序小委員会のnewsletterに収録されるなど，ジュラ系研究拠点としての日本を国際的にアピールする場ともなっている．このような活動は，GSSPの決定に際し投票権をもつ国際ジュラ系層序小委員会のvoting memberが日本から選出されたことにも繋がっている．本セッションを開催することによって，ジュラ系と上下の地質系統の研究について，各方面からのデータを提供しあい多角的に検討する場を提供する．このことは，日本からの国際発信力を強化することにも寄与する．

R18. 情報地質とその利活用（情報地質部会・地域地質部会）

Geoinformatics and its application

野々垣　進*（産総研：s-nonogaki@aist.go.jp）・斎藤　眞（産総研）

Susumu Nonogaki* (AIST) and Makoto Saito (AIST)

地質情報の取得，デジタル化，データ処理，画像処理，数理解析，統計解析，データベース管理，SNSを含むWebによる発信・共有などに関する理論・技術・システム開発など，情報地質分野の研究成果を広く募集する．さらに，これらの成果から得られた地質情報の利活用事例，利活用における問題点，比較検討などの研究発表を募集する．

R19. 環境地質（環境地質部会）［共催：地質汚染-医療地質-社会地質学会］

Environmental geology

難波謙二（福島大）・風岡　修（千葉環境研）・三田村宗樹（大阪市大）・田村嘉之*（千葉県環境財団：y_tamtam3012@nifty.com）

Kenji Nanba (Fukushima Univ.), Osamu Kazaoka (Res. Inst. Environ. Geol., Chiba), Muneki Mitamura (Osaka City Univ.) and Yoshiyuki Tamura* (Chiba Pref. Environ. Foundation)

地質汚染，医療地質，地盤沈下，湧水，水資源，湖沼・河川，都市環境問題，法地質学，環境教育，地震動，液状化・流動化，地震災害，岩盤崩落など，環境地質に関係する全ての研究の発表・討論を行う．

R20. 応用地質学一般およびノンテクトニック構造（応用地質部会）

Engineering geology and non-tectonic structures

小嶋　智（岐阜大）・須藤　宏*（応用地質：sudou-hiroshi@oyonet.oyo.co.jp）・西山賢一（徳島大）

Satoru Kojima (Gifu Univ.), Hiroshi Sudo* (OYO Corp.) and Ken-ichi Nishiyama (Tokushima Univ.)

応用地質学一般では，種々の地質ハザードの実態，調査，解析，災害予測，ハザードマップの事例・構築方法，土木構造物の設計・施工・維持管理に関する調査，解析など，応用地質学的視点に立った幅広い研究を対象とする．また，ノンテクトニック構造では，ランドスライドや地震による一過性の構造，重力性の構造等の記載，テクトニック構造との区別や比較・応用等の研究を対象にして発表・議論する．

【招待講演予定者】地頭薗　隆（鹿児島大農）・大澤英明（原子力研究開発機構）

R21. 地学教育・地学史（地学教育委員会）

Geoscience education/History of geoscience

矢島道子*（東京医科歯科大：pxi02070@nifty.ne.jp）・三次徳二（大分大）

Mchiko Yajima* (Tokyo Med. and Dental Univ.) and Tokuji Mitsugi (Oita Univ.)

地学教育，地学史に関わる研究発表を広く募集する．新学習指導要領が完全実施された教育現場からの問題提起や，実践報告に加え，大学や博物館，研究所等が行うアウトリーチに関わる実践報告についても歓迎する．また地学史からの問題提起，貴重な史的財産の開示を歓迎する．

R22. 第四紀地質（第四紀地質部会）

Quaternary geology

公文富士夫*（信州大：shkumon@gipac.shinshu-u.ac.jp）・廣瀬孝太郎（福島大）

Fujio Kumon* (Shinshu Univ) and Kotaro Hirose (Fukushima Univ.)

第四紀地質に関する全ての分野（環境変動・気候変動・湖沼堆積物・地域層序など）からの発表を含む．また，新しい調査や研究，方法の開発や調査速報なども歓迎する．

R23. 地球史（環境変動史部会）

History of the Earth

清川昌一*（九州大：kiyokawa@geo.kyushu-u.ac.jp）・山口耕生（東邦大）・小宮　剛（東京大）・尾上哲治（熊本大）・須藤

斎（名古屋大）

Shoichi Kiyokawa*（Kyushu Univ.）, Kosei Yamaguchi（Toho Univ.）, Tsuyoshi Komiya（Univ. Tokyo）, Onoe Tetsuji（Kumamoto Univ.）and Itsuki Suto（Nagoya Univ.）

地質学的視点から，さまざまな時間スケールで地球の変動を捉えようとする研究の発表や議論の場としたい．時代は特定せず，初期地球から有史時代まで幅広い時代の研究発表を期待している．地球表層環境変動と生命進化，固体地球，テクトニクスとの相互作用など，「地球史」というキーワードで繋がるあらゆる研究分野をターゲットとしている．

【招待講演予定者】菅沼悠介（極地研）

R24．原子力と地質科学（地質環境長期安定性研究委員会）［共催：日本原子力学会バックエンド部会］

Nuclear energy and geological sciences

吉田英一*（名古屋大：dora@num.nagoya-u.ac.jp）・梅田浩司（原子力研究開発機構）・高橋正樹（日大）・渡部芳夫（産総研）

Hidekazu Yoshida*（Nagoya Univ.）, Koji Umeda（JAEA）, Masaki Takahashi（Nihon Univ.）and Yoshio Watanabe（AIST）

原子力は，ウラン資源探査，活断層等を考慮した耐震安全性評価，廃棄物の地層処分，放射性物質の環境動態等の多くの地質科学的課題を有している．本セッション「原子力と地質科学（Nuclear energy and geological sciences）」は，このような日本の原子力に関わる地質科学的課題について，地球科学的知見の議論及び関連する学会や研究者間の意見交換を行うことを目的としており，幅広い分野からの参加，発表を歓迎する．

【招待講演予定者】鷺谷　威（名古屋大）

R25．鉱物資源と地球物質循環（鉱物資源部会）

Mineral resources and global material cycles

加藤泰浩*（東京大：ykato@sys.t.u-tokyo.ac.jp）・岩森　光（海洋研究開発機構）・中村謙太郎（東京大）

Yasuhiro Kato*（Univ. Tokyo）, Hikaru Iwamori（JAMSTEC）and Kentaro Nakamura（Univ. Tokyo）

近年，海底鉱物資源をはじめとする新しい資源の開発に向けた動きが活発化し，鉱物資源への注目が高まっている．鉱物資源の形成過程に関わる様々な元素の輸送・濃集過程は，ダイナミックな地球における物質循環と分化の一部に他ならず，鉱物資源の成因を考える上では，地球全体にまたがるグローバルな物質循環とその変遷，そしてその資源形成との関わりについての包括的な理解が不可欠である．本セッションでは，鉱物資源そのものに加え，これまで着目されることが少なかった資源形成をとりまく地球表層－内部環境，テクトニックセッティング，ダイナミクスと，資源の形成メカニズムとの関わりについても，グローバルに議論する場を提供したい．

【招待講演予定者】田近英一（東京大）

【アウトリーチセッション】

OR．日本地質学会アウトリーチセッション（一般公開，ポスター発表のみ）

Outreach session

星　博幸*（愛知教育大：hoshi@auecc.aichi-edu.ac.jp）・須藤　斎（名古屋大）

Hiroyuki Hoshi*（Aichi Univ. Education）and Itsuki Suto（Nagoya Univ.）

研究成果を社会に発信する場として設けられたセッション．地質学と関連分野を対象とし，開催地（九州，鹿児島）とその周辺の地質や地学にかんする研究紹介，社会的に注目されている地質および関連トピックの研究紹介，特定分野の研究到達点や課題の解説など．客層は会員（専門家）ではなく市民であることに注意．市民講演会の会場で開催する．申込多数の場合は行事委員会にて採否を検討する．p.（４）の７項（３）を参照．

セッション招待講演の紹介

世話人や専門部会から提案され，行事委員会が承認したセッション招待講演（予定）の概要を紹介します．**学術的にも社会的にも注目されている研究者やテーマが目白押しです．会員の皆様，この機会をお見逃しなく！** なお，講演時間は変更になる場合があります．

（行事委員会）

T１　火山島弧の造山運動：沈み込み，付加，衝突およびリサイクリング

■Bor-ming Jahn氏（National Taiwan University）　30分

本トピックセッションでは，島弧，大陸の成長およびリサイクリングに焦点をしぼる．Jahn氏には花崗岩の果たす大陸成長の役割を議論していただく．

■丸山茂徳会員（東京工業大学）　30分

本トピックセッションでは，島弧，大陸の成長およびリサイクリングに焦点をしぼる．丸山会員には付加体形成とリサイクリングを，地球内部進化も含めて議論していただく．

T２　文化地質学

■長　秋雄氏（産業技術総合研究所）　30分

長氏は産総研にて花崗岩の物性に関する研究を続けてきた．近年は花崗岩と人々の暮らしについて積極的に情報発信を行っている．特に地質情報展，例えば2006年（高知）「生活の中の花崗岩」，2009年（岡山）「瀬戸内の花こう岩」，2011年（水戸）「ふるさとの石　茨城の花こう岩」にて，花崗岩と地域文化との関連を示してきた．花崗岩の文化地質学について講演いただくのに最適な研究者である．

■原田憲一会員（シンクタンク京都自然史研究所）　30分

原田会員は地質学者でありながら，比較文明学に造詣が深い．比較文明学会の副会長を務めた経験をもつ．伊東俊太郎氏や染谷臣道氏など文明論の論客と親交が深く，地質学を幅広い見地から捉えた執筆を続けている．本セッションの学際的側面について講演いただくのに最適な研究者である．

T 3　グリーンタフ・ルネサンス

■鹿野和彦会員（鹿児島大学）　30分

鹿野会員はグリーンタフの模式層序である男鹿半島の層序を，精確な年代測定とともに大幅に修正した．これは従来の層序に基づいたグリーンタフ研究において基本となる時代尺度を根本的に見直す必要があることを示す．今後のグリーンタフ研究の方向性を示すためにも鹿野氏の研究は重要である．

T 4　砕屑性ジルコン年代学：その未来とさらなる応用

■澤木祐介会員（東京工業大学）　15分

澤木会員は連合王国の古生層や中国の原生代地層についての豊富な研究経験をもつ．最新の成果を紹介していただく．

T 5　ポスト冥王代研究

■丸山茂徳会員（東京工業大学）　30分

丸山会員は，いまだ物質的証拠が皆無に近い冥王代について，原初大陸の存在を予言し，その探索方法を提案している．今後の研究指針を提示していただく．

■土屋卓久氏（愛媛大学）　30分

土屋氏は，密度汎関数理論に基づく第一原理計算を利用して，地球及び惑星の内部物質の物性を制約しようと，方法論を開発中である．地球物理学最前線の研究動向を紹介していただく．

T 6　三次元地質モデル研究の新展開

■守屋俊治会員（石油資源開発）　30分

守屋会員は石油業界で用いられる二次元，三次元の石油生成・移動・集積モデリング，および性状情報を加えた三次元貯留層モデリングの専門家であり，同テーマで留学経験があるとともに，現職においても様々な石油開発プロジェクトにおいて同モデリング手法の適用を行っている．モデリングの最新手法をレビューしていただくのにふさわしい人物である．

■石原与四郎会員（福岡大学）　30分

石原会員は浅部地下構造モデルの新手法であるボーリングデータ解析による三次元モデルを開発した．同手法を東京低地，東京湾岸，福岡平野において適用し，浅部地下の地質を可視化し，堆積的な地層形成過程を解き明かしている．同手法は，応用目的も含めて大変有用であり，その普及が期待されている．

T 7　古生代から中生代への地球環境進化

■磯崎行雄会員（東京大学）　30分

磯崎会員は，地球生命史やテクトニクスを中心とした研究を行っており，特にP/T境界の大量絶滅研究では，海洋無酸素事変を提唱するなど顕著な業績をあげている．最近では，地球磁場変動，マグマ活動，寒冷化，生物絶滅を総合的に説明した統合版「プルームの冬」モデルから，全く新しいP/T境界大量絶滅シナリオを提唱しており，大量絶滅の原因解明に取り組んでいる．

■堀　利栄会員（愛媛大学）　30分

堀会員は，古生物学的，地球化学的手法を用いて，古生代から中生代の大量絶滅とその後の回復過程について研究を行っている．最近では，三畳紀/ジュラ紀境界のイリジウム濃集層や，海洋酸性化とその後の中和過程について，国内外の遠洋性堆積岩を中心に研究成果をあげている．

T 8　超深度掘削による新次元の地球科学

■廣瀬丈洋会員（海洋研究開発機構）　15分

廣瀬会員は「ちきゅう」による南海トラフ超深度掘削において最大深度3058.5 mに至るライザー掘削を行った最新航海（IODP Exp. 348）の主席研究員を務めた研究者であり，ライザー掘削で得られるカッティングスを用いた科学的分析・実験について試行錯誤してきた．実際に得られたカッティングス試料の分析・実験について，またその結果が持つ科学的意味について講演を行っていただく．

■Demian Saffer氏（Pennsylvania State University）　30分

Saffer氏はプレート沈み込み帯の水理学の第一人者であり，「ちきゅう」による南海トラフ地震発生掘削計画をはじめ，IODPによる乗船経験も豊かである．南海トラフやコスタリカ，ニュージーランドのヒクランギの超深度掘削計画にも立案から深く関与しており，本セッションに招待するにふさわしい．

R 6　ジオパーク

■大岩根尚会員（鹿児島県三島村役場）　30分

大岩根会員は，学位取得後人口400人弱の三島村の役場に勤務し，村を構成する島々の地球科学的見どころを活かしたツアーを主催するなどの活動を行い，それをさらに発展させてジオパークの設立につなげようとしている．離島のコミュニティを地球科学者の力で活性化しようとする氏の活動は，各地のジオパークにとって参考になるとともに，地球科学系博士の新たな活躍の場を切り開くものとして若手研究者の関心も高いと考えられ，本セッションの招待講演者としてふさわしい．

R 8　海洋地質

■浦辺徹郎会員（国際資源開発研修センター）　30分

熱水鉱床学のバックグラウンドを持つ浦辺会員は，全地球的な視野での海洋地殻中の熱水循環の解明を目指した新学術領域研究「海底下の大河」計画をPIとして主導した．また，2012年から国連大陸棚限界委員会委員を務めている．氏には，日本の延伸大陸棚を取り巻く状況や，その資源ポテンシャル等について，魅力的な講演をしていただけると期待できる．

■石塚　治会員（産業技術総合研究所）　30分

石塚氏は，Ar-Ar法による火山岩の年代測定を幅広く実施し，その方法を主軸に伊豆・小笠原・マリアナ弧の発達史の解明に精力的に取り組んでいる．日本政府の大陸棚調査においては，Ar-Ar法による九州・パラオ海嶺等のフィリピン海の古島弧の年代を決定し，フィリピン海の発達史の精密化を行うことで，日本の延伸大陸棚の決定に貢献した．石塚氏には，日本の大陸棚調査データに基づく最新のフィリピン海の発達史モデルについて，魅力的な講演をしていただけると期待できる．

R10　炭酸塩岩の起源と地球環境

■吉村和久氏（九州大学）　30分

吉村氏は，炭酸塩の溶解と沈澱に関する研究を，専門である化学の側面から長年続けている当該分野の代表的研究者である．また，近年では鍾乳石やトゥファなどの陸成炭酸塩堆積物を用いた古環境復元に関する研究論文も多い．上記研究の基礎となる，炭酸塩生成の素過程と微量成分や同位体から読み解くことのできる情報について，最新の研究成果を交えながら，魅力的な講演をしていただけるものと期待できる．

R12　石油・石炭地質学と有機地球化学

■加藤　進会員（地球科学総合研究所）　30分

加藤会員は国内における石油探鉱開発に従事しており，地質学・地球化学的見地から石油・天然ガス鉱床の研究を行ってきた．近年は，日南・宮崎・佐土原ガス田，沖縄本島南部ガス田などについて研究を進め，新第三系の微生物起源ガスとは別に，基盤岩

起源の熱分解メタンからなる水溶性天然ガス鉱床が広く存在する可能性を指摘した．鹿児島での地質学会開催に際し，九州南部～沖縄における石油資源ポテンシャルについて講演していただく．

■山中寿朗氏（岡山大学） 30分

山中氏は国内におけるhydrothermal petroleum研究のパイオニアであり，その端緒となった研究地域は鹿児島湾である．その成果とともに，文科省科研費で進めている「海底熱水系における熱水性石油の生成条件の再検証」について講演していただき，有機物の熟成と温度の関係について再考する機会を得たい．

R13　岩石・鉱物の変形と反応

■平賀岳彦会員（東京大学） 30分

マントル流動の素過程へ迫るレオロジーは，地球科学を超えて広く関心を集めている研究分野である．その中において平賀会員は，実験的なアプローチからサイエンスを刺激する成果を発信し続けている．最近，マントル鉱物を用いた「マントル岩石」の合成技術，結晶粒成長，多様な出発物質を用いた変形に関する一連の実験から，粒界すべりや拡散に支配される粒径依存型クリープがマントルの大部分に卓越するという，新たなマントル像を提示した．変形の物理量だけではなく組織発達についても解析を行い，プロセスと観察のリンクを可能とする地質学的にも重要なデータを提示している．その知見はマントル岩石にとどまらず，様々な岩石を対象とするフィールド地質学にとっても新たな視点を提供するものである．本セッションで講演していただくことで，実験とフィールドをつなぐ議論の活性化につながると期待できる．

R14　沈み込み帯・陸上付加体

■井出　哲氏（東京大学） 30分

井出氏は世界を代表する地震学者である．とりわけ沈み込み帯で発生するスロー地震群に関して画期的な成果を次々とあげている．最近では，深部微動発生数と観測潮位の関係をもとにプレート境界においてすべり速度強化の摩擦則が働いていることを導き出し，周期的な潮汐力とすべり速度強化の摩擦則の組み合わせがプレート運動を支配し，南海トラフの定常地震活動の長期変化や大地震の弱い周期性を説明する可能性を導き出している．氏の最新の研究成果を本会会員に広く知ってもらうべく，講演していただく．

■高田陽一郎氏（京都大学） 30分

干渉合成開口レーダー（InSAR）は宇宙測地学の一種である．InSARは近年急速に発達しており，地質学におけるフィールドワークとのコンビネーションが可能なほどの極めて高い空間分解能を有するようになってきた．高田氏はInSARを用いて，2011年東北地方太平洋沖地震に伴い東北日本弧の複数の活火山で沈降が起こったことを明らかにした．その沈降プロセスを考えるうえで地質学の果たす役割は大きい．高田氏にInSARの基本解説とそれを用いた研究例を本会会員に広く知ってもらうべく，講演していただく．

R15　テクトニクス

■木村　学会員（東京大学） 30分

木村会員は長年，陸上・海洋付加体の研究を精力的に進め，プレート沈み込み帯を含む島弧のテクトニクスの復元について研究を行ってきた．近年では，物質科学的側面においてこれらの付加体を研究することで，プレート収束帯に関わる幅広い研究分野の融合を先導している．鹿児島大会では，陸上付加体物質の研究から西南日本におけるテクトニクスの復元およびプレート境界地震の発生に関する話題提供をしていただく予定である．

■松本　聡氏（九州大学） 30分

松本氏は地震波を用いた地殻の速度・散乱構造解析および地殻応力解析を専門とし，九州地方での地震や地殻変動観測を続ける第一人者である．近年は，地震波トモグラフィによる九州地方の詳細な地殻構造解析および2005年福岡県西方沖地震の余震観測から地殻の不均質構造と応力場の関係について精力的な研究を進めている．鹿児島大会では，九州地方の地震活動などの現在進行している地殻変形に関する話題提供をしていただく予定である．

R20　応用地質学一般およびノンテクトニック構造

■地頭薗　隆氏（鹿児島大学） 30分

地頭薗氏は，土砂災害，深層崩壊，シラス斜面の崩壊，桜島の土石流，森林と水，屋久島の水などをキーワードに，火山地帯等における斜面崩壊と水文現象にかかわる研究を広く行っている．鹿児島で年会を開催するにあたり，氏に九州の応用地質，特に斜面災害に関する講演を行っていただく．予定テーマ「九州における土砂災害と防災研究」．

■大澤英明氏（日本原子力研究開発機構） 30分

大澤氏は，放射性廃棄物の地層処分研究に関わる中で，社会における合意形成の問題の重要性を認識し，社会学的心理学的研究を行っている．この問題は近年の応用地質学にも重要な要因となっており，会員にも興味を持って受け入れられるものと考える．予定テーマ「地層処分の社会的受容の要因は何か？：社会心理学的視点から」．

R23　地球史

■菅沼悠介会員（国立極地研究所） 30分

菅沼会員は，海底堆積物の堆積残留磁化獲得メカニズムや地磁気逆転の精密な年代値について，従来の古地磁気学的手法に加えて，宇宙線生成核種分析や放射年代測定を組み合わせることで多角的に研究を進めている．特に，地磁気変動と残留磁化獲得の間には有意な時間差（獲得深度差）が存在すること，そして，この時間差からB-M境界年代値が従来より1万年程度若くなる可能性を示した．また最近，二次イオン質量分析計を用いた火山灰層中のジルコン単結晶のU-Pb年代測定によって，B-M年代値を世界最高精度で求め，上記仮説の検証にも成功している．これらの成果は地層対比や編年だけでなく，地球史上の各イベントの年代値についても影響を与えうるものである．

R24　原子力と地質科学

■鷺谷　威氏（名古屋大学） 30分

鷺谷氏は，地震学において，測地データに基づいた東南海地震や南海地震の震源モデルに関する研究や，GPSデータを用いた日本列島の地殻変動の研究を行うなど，当該分野の先端的研究を展開している．また近年では，東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震学の問題点をNature等に発表するなど，地層処分の地下環境，岩盤の長期的応力状態や状態変化に関する観点のみならず，原子力分野における地質科学の役割などの議論を行える研究者の一人である．本講演では，地震学の知見も踏まえ，地層処分等の原子力分野の課題等について講演していただく．

R25　鉱物資源と地球物質循環

■田近英一氏（東京大学） 30分

田近氏は，グローバル物質循環とその変遷に関する研究の第一人者であり，炭素・酸素のグローバル循環と地球表層環境の変動に関する研究をはじめ，地球物理学，地質学，地球化学，惑星環境学にまたがる包括的研究を展開している．近年では，全球凍結イベントによる酸素濃度の上昇とマンガン鉱床の形成との関連を指摘しており，本セッションの目指す「地球表層-内部環境，テクトニックセッティング，ダイナミクスと，資源の形成メカニズムとの関わり」についての最新の話題を提供していただくのに最もふさわしい方である．

講演要旨の作成の注意点とPDFファイルの作り方

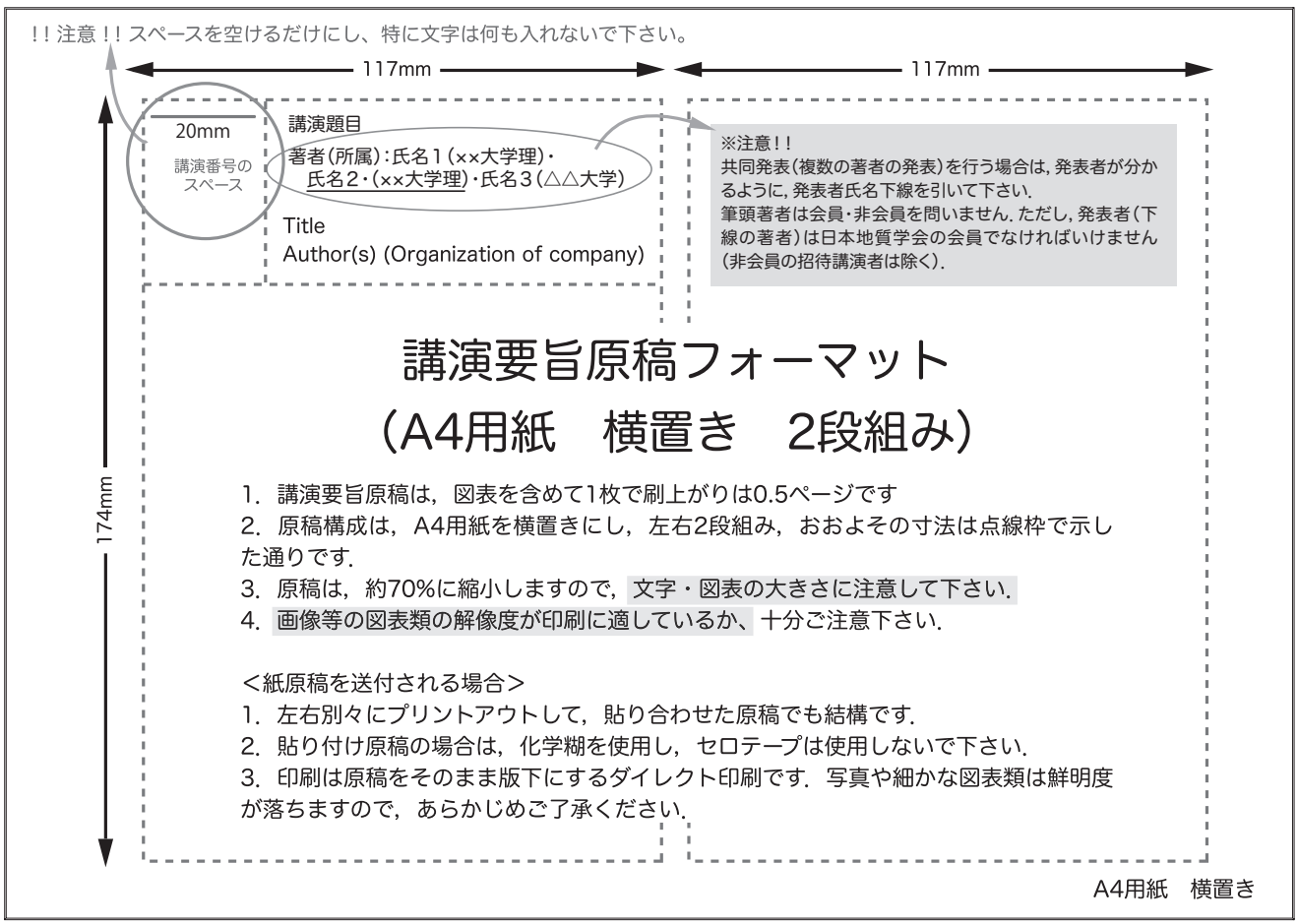
講演要旨を作成する際，著者には「保証及び著作権譲渡同意書」第１項の「保証」内容を守って頂きます．**行事委員会は，要旨の内容については関知しませんが，当該「保証」内容を逸脱するものがないか校閲します．**その結果，不適当とみなされる場合は，修正されるまで講演要旨を受理しません（不服の場合は法務委員会に訴えることができます）．

引用文献を適切に記載していない要旨原稿が毎年多く認められます．論文のように細かに引用文献を記載することはスペースの都合上不可能なので必要としませんが，雑誌名，号，ページ等，その文献にたどり着ける最低限の情報は記載して下さい．図等の改変については，著作権法と学会著作物利用規定に従って下さい．このほか，PDFファイルにフォントを埋め込んでいない（印刷時に文字化けすることがあります），講演番号記入用のスペースがない，余白が足りない等の場合は，体裁を整えるため修正していただきます．これらの問題点が認められる場合，世話人より投稿締切日から１週間をめどに修正依頼を送付しますが，編集作業の労力を極力少なくするために（世話人にはボランティアで協力していただいています），あらかじめ完全なものを投稿するようにして下さい．あわせて講演要旨投稿手順のチェック項目（次頁）もご参照ください．

日本地質学会行事委員会

【講演要旨PDFファイル作成の際の注意点】

1）講演要旨原稿はAdobe Readerで表示・印刷可能なPDFファイルで投稿して下さい．
2）**ファイルサイズは5.0MB以内で作成して下さい．**
3）事務局にて発表（講演）番号を左上に付記するので**原稿左上（題目の左）は空白にし，何も記載しないで下さい．**
4）PDFファイルのセキュリティ設定は「なし」にして下さい．
5）**フォントは必ず「埋め込み」にして下さい．**その際，『すべてのフォント埋め込み』ないし『ハイクォリティー』等，それぞれのソフトの使用説明書に従った指定を必ずして下さい．文字数にもよりますが，できたPDFファイルのサイズが100KB未満の場合，フォントが埋め込まれなかった可能性がありますので確認して下さい．
6）**作成したPDFファイルを自分で印刷し，図表に充分な解像度があるか，文字化けはないか確認して下さい．**
7）PDFファイルを自分のパソコンに，必ず「.pdf」の拡張子をつけて保存して下さい（Mac, Windowsとも）．



【オンラインでの講演要旨投稿の手順】

1）**オンラインで講演申込をします：**HP上の講演申し込みページにアクセスし，画面に従って連絡者情報等を入力し，講演申し込みの手続きをします（講演申込と同時に要旨投稿をすることもできますし，講演要旨のみ後で投稿することもできます）.

2）**講演要旨PDFを投稿します：**演題・発表者情報登録画面の最下段にある「アップロードファイル」欄から要旨原稿（PDFファイル）を投稿します．欄右側の「参照」ボタンをクリックし，ご自分のPCに保存してあるPDFファイルを選択します.

3）**登録内容を確認：**画面下の「次へ」をクリックし，登録内容確認画面に進みます．登録内容を確認後，画面下の「登録」ボタンをクリックします．これによりサーバーにPDFファイルが格納されます.

4）**完了画面を確認して下さい：**『登録が完了いたしました．受付番号は＊＊＊＊＊です.』という完了画面が表示されます（注意！この画面が表示されないと登録は完了していません）.

5）**確認メールが届きます：**登録したメールアドレスに「講演申込のお知らせ」のメールとともに受付番号（＝ID）が配信されます.

重要！！講演申込をされる方は別途忘れずに，
事前参加登録の画面操作も行ってください！！

【後から要旨を投稿する／申込内容を変更する場合】

1）**IDとメールアドレスでログイン：**ご自分の申込画面に，IDとメールアドレスを用いてアクセスします.

2）**新しい講演要旨PDFをアップロード：**「登録内容変更」ボタンをクリックし，画面の最下段にある「アップロードファイル」欄の「修正」ボタンをクリックします．ご自分のPCに保存してあるファイルを選択し，アップロードをします．サーバー側では，ファイル名を元のファイル名から変更し，ID.pdfの名称で格納します.

3）**完了画面の確認：**『登録が変更されました．受付番号は＊＊＊＊＊です.』という操作完了画面が表示されます．（注意！！この画面が表示されないと操作は完了していません）

4）**変更確認メールが届きます：**「講演申込内容変更のお知らせ」メールが配信されます.

5）IDとメールアドレスを用いて，投稿締切まで何度でも要旨や登録内容を修正することができます．新しいファイルを投稿すると，古いファイルに上書きされます．そのつど，「講演申込内容変更のお知らせ」メールが配信されます.

【参考情報：PDFファイルの作り方】

PDFファイルの作成方法は「PDF原稿作成ガイド」http://www.gakkai-web.net/pdf/を参考にすると良いでしょう．PDFファイルを作成するためのソフトはAdobe Acrobatをはじめ多数あります．各自インターネット等で検索，入手してください.

・ベクター（http://www.vector.co.jp/）
・窓の杜（http://www.forest.impress.co.jp/）
等のサイトが役立ちます.

Windowsでは，Miocrosoft Office 2010（Word, Excel, PowerPoint等）を用いてフォント埋め込み型のPDFファイルを作成できます．Mac OSX以上には，フォント埋め込み型のPDFファイル作成機能が標準で用意されています.

講演要旨オンライン投稿手順・チェックシート

講演要旨の投稿手順および基本的注意事項です．投稿していただく前に各自でご確認下さい.

1．Word等のソフトで講演要旨原稿を作成する

□「保証及び著作権譲渡同意書」第１項の「保証」内容は守られていますか？
□ 引用文献は要旨中に表示されていますか？
□ 要旨の体裁は守られていますか？，p.（20）の原稿フォーマット参照

2．原稿をPDFファイルにする　P.（20）の「PDFファイルの作り方」を参照

□ フォントは「埋め込み」になっていますか？
（できたファイルサイズが100KB未満の場合，フォントが埋め込まれなかった可能性があります）
□ ファイルサイズは5.0MB以下になっていますか？
□ 作成したファイルを自分でプリントアウトしてみましたか？（図表や写真に充分な解像度があるか，文字化けはないか確認して下さい）
□ PDFファイルを自分のPC上に，「.pdf」の拡張子をつけて保存しましたか？

3．講演申込＆要旨原稿をオンライン投稿する

□ 講演申し込みの手続きをしましたか？（講演申込システム：PASREG）
□ 申込完了画面が表示されましたか（ログイン用の受付番号（=ID）が表示されましたか）？
□「講演申込のお知らせ」のメールが配信されましたか？

＜郵送での投稿の場合は、原稿に必ず添付して下さい＞

一般社団法人 日本地質学会　御中

保証及び著作権譲渡等同意書

著作者（下記）は，日本地質学会によって発行される第121年学術大会（鹿児島大会)「講演要旨集」に掲載する下記表題の原稿（以下「本原稿」という.）について，以下のとおり保証し，かつ著作権を譲渡等いたします.

第１　保証

著作者は，本原稿について，以下の各号記載の事項を保証し，確約します.

1） 本原稿が著作者自身の著作物であり，既にいずれかで出版公表されているものと同一ではないこと.
2） 本原稿が既存の出版公表物などに対する知的財産権のいかなる侵害も含まないこと.
3） 本原稿中に他から転載されているすべての図表について，転載許可を得ていること.
4） 本原稿中，他の論文等の引用がある場合には，当該引用が公正な慣行に合致し，目的上正当な範囲内であること.
5） 著作物には，日本地質学会の名誉を傷つけ，当該出版物の信用を毀損する盗用データ，捏造データ，著作物に関する利害を持つ者の合意に反するもの，その他学会の倫理綱領に反するものを含まないこと.
6） 本原稿が共同著作物である場合には，代表して本書に署名捺印する者が，すべての共著者から，本書に著名捺印することについて同意ないし必要な権利を得ていること.
7） 本原稿についての問い合わせ，苦情，紛争などが発生した場合，署名者はすべての責任を負うこと.
8） 本著作物を作成するに当たって行われた調査・研究行為が，適切な方法でなされたものであること.

第２　著作権譲渡等

著作者は，本原稿について，以下の各号記載に同意します.

1） 本原稿のすべての著作財産権（著作権法27条，同28条に定める権利を含む）及び２次著作物の創作・利用に係る権利を日本地質学会へ譲渡すること.
2） 本原稿について，日本地質学会ならびに日本地質学会から正当に権利を取得した第３者及び当該第３者から権利を承継した者に対し，著作人格権（公表権，氏名表示権，同一性保持権）を行使しないこと
3） 本原稿の下記の各利用形態に関する権利を日本地質学会が排他的に行使すること.
   a） 複製，翻訳，翻案（出版，電子出版，翻訳出版，データベース化，ビデオグラム化，その他すべての記録メディアへの記録・掲載などを含む）
   b） 展示・上映
   c） 放送，有線放送，自動公衆送信（地上波，CATV放送衛星，通信衛星，インターネット，パソコン通信，その他あらゆる送信媒体及び将来開発されるすべての送信媒体による公衆送信を含む）
   d） 頒布，譲渡，貸与
   e） その他，本著作物に関する一切の利用（技術の進歩により将来生じうる利用形態を含む）

以上

日付　　2014年　　月　　日

本原稿表題

著作者（代表者）　　印

署名者が代表する共著者すべての氏名

学会記入【講演番号：　　】
学会記入【受付番号：　　】

〈発表申込書：郵送用〉

<table>
<tr><td>発表方法
（丸印をつける）</td><td>ポスター
口頭
どちらでもよい</td><td colspan="2">発表申込書</td><td>＊講演番号</td></tr>
<tr><td>発表題目</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>著　者
（氏名のみ，
所属不要）</td><td colspan="4">（発表者に下線を引いて下さい）</td></tr>
<tr><td>希望
セッション
（番号：略記）</td><td colspan="2">第 1 希望　　第 2 希望</td><td colspan="2">会員資格　□正会員　□共催団体等会員
□正（院生割引申請）　□非会員招待者
□正（学部割引申請）　□入会申込中
□名誉・50年</td></tr>
<tr><td rowspan="3">責任者連絡先</td><td>氏名</td><td colspan="2"></td><td>コメント・希望など（ご希望に添えない場合もあります）</td></tr>
<tr><td>住所</td><td colspan="3">〒</td></tr>
<tr><td colspan="2">Tel.</td><td>Fax.</td><td>E-mail</td></tr>
</table>

※講演要旨には，英語の題目・著者氏名および各所属先を忘れずに記載して下さい．
複数の講演を申し込む方は 1 講演につき 1 枚必要です．

日本地質学会大121年学術大会（鹿児島大会）巡検コース一覧表

1）取り消し料は，申込締め切り後～出発３日前までは50%，２日前以降は全額となります．
2）参加費には，日程に応じた旅行傷害保険（少額）が含まれます．
3）最小催行人員に満たない場合や，安全確保に問題があると考えられる場合は，コース内容の一部変更や巡検中止等の措置をとることがあります．
4）各コースの案内書は，印刷したものを巡検当日に配布します．全コース分を収録した冊子体の出版はありません（CD-ROM版のみ）．
5）集合・解散の場所，時刻等に変更が生じた場合，大会期間中の掲示板に案内します．案内者から直接ご連絡することもあります．
6）**コース８＜地学教育・アウトリーチ＞は，学会補助事業です．小中高の教員ならびに一般市民を優先対象とします．**

コース	タイトル ＜略称＞	見学コース	主な見学対象	日程	定員 （最少催行人数）	案内者	参加費	必要な地図 （1/2.5万）	集合場所 詳細	その他
1	九州西部に分布するジュラ紀付加体と海溝斜面堆積物 **<付加体>**	８：00JR 鹿児島中央駅集合→人吉インターチェンジ→球泉洞→球磨村蕨→芦北町白木→球磨村神瀬→人吉インターチェンジ→ 17：00 鹿児島空港→ 18：00 鹿児島中央駅解散	三宝山帯の上部三畳系海洋島玄武岩，メガロドン石灰岩，遠洋性堆積岩（チャート．珪質ミクライト）．三宝山帯の最上部ジュラ系泥質混在岩相．秩父帯上部ジュラ系簸瀬層の石灰岩および泥質岩（海溝斜面堆積物）．秩父帯の石炭系石灰岩，中部ジュラ系混在岩．	9/16 （日帰り）	20（15）	尾上哲治（熊本大）・西園幸久（西日本技術開発）	5,000円 （昼食代を含む）	佐敷	８：00 鹿児島中央駅西口観光バス駐車場	
2	甑島列島に分布する上部白亜系姫浦層群の層序と化石および堆積環境 **＜上部白亜系の層序と化石，堆積相＞**	［1日目］10：20 串木野港集合（フェリー乗船）→上甑島里港→中甑島平良→上甑島里港（フェリー乗船）→下甑島長浜港→下甑島鹿島町藺牟田（泊） ［2日目］下甑島鹿島町藺牟田→鹿島町熊ヶ瀬周辺→鹿島支所（地質・化石展示室）→鹿島町夜萩円山周辺→鹿島町円山北側海岸周辺→鹿島町中山周辺→下甑島鹿島町藺牟田（泊） ［3日目］７：50 下甑島鹿島町藺牟田→鹿島港（フェリー乗船）→ 10：30 串木野港解散	(1) 陸棚斜面堆積物と土石流堆積物中の化石の産状．(2) カキ礁や貝殻密集層と非海成堆積物．(3) 鹿島支所内の地質・化石展示室（甑島の姫浦層群から産出した軟体動物化石や脊椎動物化石等を見学）．(4) 波浪堆積物と海生軟体動物化石．(5) 下部～中部カンパニアン階の層序．(6) 陸棚堆積物と海生軟体動物化石． ＊天候が良ければ船上からの断崖見学や露頭観察を実施する予定．	9/16-18 （２泊3日） 注）天候不順により，予定通りに島に渡れない可能性（この場合は巡検中止），島から帰れない可能性もあります．参加者は日程に余裕を作っておいてください．	12（９）	小松俊文（熊本大）・三宅優佳（熊本大）・真鍋　真（国立科学博）・平山　廉（早稲田大）・藪本美孝（北九州市立自然史・歴史博）・對比地孝亘(東京大)	25,000円 （昼食代を含む） 注）朝・夕食代として現地で5,000円程度を別途徴収します	中甑	10：20串 木野港のフェリー乗り場待合室	
3	日南海岸沿いの深海相と重力流堆積物 **＜堆積岩＞**	［1日目］鹿児島市→日南市猪崎（日南層群タービダイト：チャネル・レビーシステム，ソールマーク，液状化・流動化構造）→日南市瀬平崎（深海津波堆積物）（宮崎市内泊） ［2日目］宮崎市内（宮崎相：深海チャネル堆積相）→宮崎市内日南海岸（青島相：ファンデルタ沖合相）→宮崎空港（16：30）→鹿児島市（19：00）	1．宮崎層群宮崎相（海底谷内の粗粒堆積相等），2．宮崎層群青島相（ファンデルタ沖合相のタービダイトサクセッションと特異な重力流堆積物），3．深海津波堆積物，4．日南層群（猪崎鼻）（チャネルレビーシステム，ソールマーク，液状化・流動化構造）	9/16-17 （１泊2日）	20（10）	石原与四郎（福岡大）・高清水康博（新潟大）・松本　弾（産総研）・宮田雄一郎（山口大）	20,000円 （昼食代を含む）	油津， 田野， 日向青島， 郷之原	８：00 鹿児島中央駅西口**出発** 注）出発時間です．	

コース	タイトル ＜略称＞	見学コース	主な見学対象	日程	定員 （最少催行人数）	案内者	参加費	必要な地図 （1/2.5万）	集合場所 詳細	その他
4	桜島火山 **＜桜島＞**	鹿児島中央駅西口（８：00）→有村展望台（東側大正溶岩の遠望）→採石場→地獄河原→（昼食）→安永諸島の遠望→湯之平展望台→西側大正溶岩→鹿児島中央駅（17：30 解散）	有村展望台で歴史時代の溶岩の表面地形の違いと平成火砕丘のスロープを遠望．→長崎鼻の採石場にて天平宝字溶岩（764年）とそれを覆う歴史時代の降下軽石層を観察→地獄河原の火山麓扇状地の観察→黒神の埋没鳥居→園山にて安永諸島を遠望→湯之平展望台で大正溶岩原（西側）の遠望→大正溶岩の露頭観察等	9/16 （日帰り）	20（15）	小林哲夫（鹿児島大）・佐々木寿（アジア航測）	5,500円 （昼食代を含む）	桜島北部， 桜島南部， 鹿児島北部， 鹿児島南部	８：00 鹿児島中央駅西口バスターミナル	
5	九州中西部地域の変成岩類：黒瀬川構造帯・肥後変成帯・木山変成岩 **＜変成岩＞**	［1日目］鹿児島中央駅西口（８：30）→芦北町坪木の鼻（黒瀬川構造帯・ザクロ石グラニュライト等）→八代市泉（黒瀬川構造帯・ヒスイ輝石藍閃石岩等）→五木村（黒瀬川構造帯・青色片岩等）→山都町目丸（17：00 頃着・泊） ［2日目］山都町目丸（８：30 発）→宇城市小川町田平（肥後変成帯・ザクロ石菫青石片麻岩等）→松橋町内田（肥後変成帯・サフィリングラニュライト等）→益城町下陳（木山変成岩・青色片岩等）→熊本駅（16：00 頃解散）	(1) 黒瀬川構造帯（蛇紋岩中にブロックとして産するザクロ石－単斜輝石グラニュライトやザクロ石角閃岩等の高温型変成岩類およびヒスイ輝石藍閃石岩や青色片岩等の高圧型変成岩類），(2) 肥後変成帯（ザクロ石菫青石片麻岩やサフィリングラニュライト等の高温型変成岩類），(3) 木山変成岩（青色片岩等の高圧低温型変成岩類）	9/16-17 （１泊２日）	20（10）	小山内康人・中野伸彦・吉本　紋（九州大学）・亀井淳志（島根大）	10,000円 注）宿泊代，ガソリン代として，現地で15,000円を別途徴収します	計石， 鏡， 柿迫， 宮園， 甲佐， 松橋， 大矢野原	８：30 鹿児島中央駅西口バスターミナル付近	１日目の昼食は，各自ご持参ください
6	世界遺産の島・屋久島の地質と成り立ち **＜屋久島の付加体・深成岩＞**	［1日目］７：20 鹿児島港集合→７：45 鹿児島港（トッピー 112 便）出発 ９：45 宮之浦港到着→宮之浦の生痕化石→白谷雲水峡（昼食：弁当）→宮之浦川右岸の火砕流露頭→楠川の砂岩脈とデュープレクス→小瀬田のメランジュ→宮之浦泊． ［2日目］永田いなか浜の屋久島花崗岩と含菫青石花崗岩→大川の滝と接触変成作用→千尋之滝と屋久島花崗岩（昼食）→安房の噴礫→田代の枕状溶岩→落之川の石英斑岩→空港で解散（16：30）	本巡検では洋上アルプスの生物多様性を支える屋久島花崗岩がどのように貫入したのか，正長石巨晶の配列や，石英斑岩岩脈，母岩の変形と接触変成作用の観察を通して議論します．また，これらの火成岩類の母岩である四万十層群の堆積物や枕状溶岩の産状，付加体発達過程で受けた応力による圧密やデュープレクス構造の発達，地震による液状化構造を観察します．鬼界カルデラの噴火に伴う液状化構造を観察し，古第三紀と第四紀に発達した構造を対照します．	9/16-17 （１泊２日） 注）天候不順により，予定通りに島に渡れない可能性（この場合は巡検中止），島から帰れない可能性もあります．参加者は日程に余裕を作っておいてください．	20（14）	安間　了（筑波大）・山本由弦（JAMSTEC）・下司信夫・七山　太（産総研）・中川正二郎（屋久島地学同好会）	36,000円 （昼食代を含む） 注）屋久島からの帰路は各自の負担となります	宮之浦岳， 屋久宮之浦， 永田岳， 栗生， 尾之間， 安房， 一湊	７：20 鹿児島本港南埠頭高速船（トッピー）乗り場	

コース	タイトル ＜略称＞	見学コース	主な見学対象	日程	定員 （最少催行人数）	案内者	参加費	必要な地図 （1/2.5万）	集合場所 詳細	その他
7	南九州，鹿児島リフトの第四系 **＜第四系＞**	鹿児島中央駅西口（集合）8：00 → 8：30 鹿児島市西佐多町西中ガイアテック吉田工場 9：30 → 10：00 鹿児島市東佐多町麓柏原白土採掘場 11：00 → 11：30 霧島市国分上野原縄文の森（昼食）12：30 → 13：00 霧島市国分川原岩崎建材採掘場 13：30 → 14：00 霧島市国分重久岩戸 15:30 →鹿児島中央駅 16:30（解散）	鹿児島リフトのリフティングと火山活動，そして海水準変動とが連関したプロセスの中で形成されたことを裏付けるサクセッションを観察します．(1) 0.5 Ma以降の温暖期に形成された浅海堆積物（吉田貝層）．フジツボ化石と海棲貝化石，それらの破片が密集し，その中に安山岩やデイサイトの岩片，軽石火山礫が散在する特異な堆積物．(2) 1.0 ～ 0.5 Maの内湾～浅海成堆積物（国分層群）と，その中にあって火山ガラス片が異常に厚く集積した細粒凝灰岩（麓凝灰岩）．(3) 桜島起源の9.5 kaのSz-13（P-11）層準下から発掘された上野原遺跡での昼食と展示室の自由見学．(4) 複数のフローユニットからなる入戸火砕流堆積物の大露頭．(5) 阿多火砕流堆積物から岩戸テフラ（岩戸2，7，8，9），大塚テフラ，深港テフラ，毛梨野テフラ，大隅降下軽石，妻屋火砕流堆積物，亀割坂角礫層と入戸火砕流堆積物に至る一連のテフラサクセッション．	9/16（日帰り）	24（15）	内村公大・鹿野和彦（鹿児島大総研博）・大木公彦（鹿児島大名誉教授）	5,500円（昼食代を含む）	脇元，国分，日当山	8：00 鹿児島中央駅西口バスターミナル	
8	2011年新燃岳噴火と霧島ジオパーク **＜地学教育・アウトリーチ＞**	鹿児島市（8：30 集合）→高千穂牧場（10：00）→霧島神宮（11：00）→高千穂河原（12：00）→新湯展望台（14：00）→えびの高原（14：30）→鹿児島市（17：00）	2011年新燃岳噴火による堆積物観察，霧島火山の噴火史・地形の学習，霧島ジオパークのジオサイト，拠点施設見学	9/13 （日帰り） 会期中巡検	40（20） **注）小中高の教員ならびに一般市民を優先**	井村隆介（鹿児島大）・石川徹（霧島市）	1,000円（昼食代を含む）	日向小林，高千穂峰，韓国岳，霧島温泉	8：30 鹿児島中央駅西口バスターミナル	**学会補助事業**

国際シンポジウム「津波ハザードとリスク」関連巡検　**申込締切：8月8日（金）18:00**

Traces of paleo-earthquakes and tsunamis along the eastern Nankai Trough and Sagami Trough, Pacific coast of central Japan

見学コース	主な見学対象	日程	定員	案内者	参加費	地形図	集合・出発	その他
浜松～静岡～東京～館山～成田空港	東海地震と関東地震の痕跡を伝える地形，津波堆積物，建造物，南海トラフ巨大地震への対策として作られた津波避難タワーと命山	9/16-18 （2泊3日） 16日浜松泊 17日東京泊	22	藤原　治 （産総研）	約29,000円 ※新幹線，貸切バス，2泊分のホテル代を含む．ただし，昼・夜の食事代は含みません．	新居町，浜松，磐田，袋井，掛塚，御前崎，館山，布良，白浜，千倉（すべて1/2.5万）	16日14:00 浜松駅出発	※移動は，新幹線と貸切バスを利用 ※参加者数によって参加費が多少変動します．締切後に確定し，お支払い方法とあわせて連絡します ※露頭観察の際，ひざ下まで濡れる可能性あり．長靴があったほうがよい（沢に入らなくても露頭を見ることはできます）

（注意）本巡検は，国際シンポジウム（本誌P.（11）参照）の関連巡検です．学術大会の巡検（1～8コース）とは申込方法が異なります．参加申込は，別途学会HPの専用申込ページよりお申込下さい．問い合わせ先：藤原　治（産業技術総合研究所）〈o.fujiwara@aist.go.jp〉

一般社団法人 日本地質学会
〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15井桁ビル6階
e-mail: main@geosociety.jp　　TEL: 03-5823-1150

送信先FAX：
03-5823-1156

日本地質学会第121年学術大会（鹿児島大会）

大会参加登録・懇親会・追加要旨集・巡検参加・お弁当

FAX・郵送専用申込書

住　所 予約確認書 送付先	〒 （都・道・府・県） （所属/勤務先　or　自宅）
申込者 氏名	
所属/勤務先	（部署）
電話 FAX e-mail	TEL：　　FAX： e-mail

学会記入欄	
受付番号	
申込受付日	2014年　　月　　日

（ふりがな） 氏　名	性別	参加者種別 注：下線の参加種別者は要旨集付き	発表件数 ※トピック/定番での発表件数	懇親会	要旨集 追加注文	お弁当		
さくらじま たろう 例）　桜島　太郎	(男) 女	(正)・院生割・学部割 名誉・50年 共催団体会員・協賛団体会員 非一般・非院生・非学生 非招待者・同伴者	0件（発表しない） (1件)　地域地質　　） 2件（　　） ※セッション名記入	○	1　冊 送付 ・ (会場で受取)	(13日)	(14日)	15日

申込者			発表件数 ※トピック/定番での発表件数	懇親会	要旨集 追加注文	お弁当		
	男 女	正・院生割・学部割 名誉・50年 共催団体会員・協賛団体会員 非一般・非院生・非学生 非招待者・同伴者	0件（発表しない） 1件（　　） 2件（　　）		冊 送付 会場で受取	13日	14日	15日
同伴者（会員の家族）	男 女	配偶者・子供 その他（　　）		懇親会		お弁当 13日	14日	15日

巡検参加申込

実施日程の異なる巡検は最大2コースまでお申し込み頂けます．希望者は参加希望欄へコース記号を記入して下さい

	希望コース：その1	希望コース：その2		希望コース：その1	希望コース：その2
申込者			同伴者		
	緊急連絡先（携帯など）	生年月日（旅行保険申請時に必要） 年　月　日		生年月日（旅行保険申請時に必要） 年　月　日	

お支払方法	□ 振込（ゆうちょ銀行含む） □ クレジットカード	カード種類 （選択）	□VISA □MASTER　□DINERS
有効期限	年　月	カード名義	
カード番号			

備考欄（特記すべき事があれば記入して下さい）

※注意：折返し「受付確認証」をご返信いたします．確認証が届かない場合は，必ず学会事務局までご連絡ください．

※要旨集のみ購入（大会不参加）の場合は，別途学会事務局へご連絡下さい．また，巡検案内書（冊子体）の販売はありません．

入　会　の　ご　案　内

入会ご希望の方は下記の入会申込書を一般社団法人日本地質学会事務局へお送りください.

入会には正会員1名の紹介が必要です. 近くに紹介者となるべき会員がいない場合はその旨お申し出ください. また, 申し込み時には, 初年度の会費を添えてお申し込みください. 会員としての正式登録は, 入会承認後, 初年度会費の入金を確認した上で行い, 雑誌の送付(4月号から)を開始いたします.

申込書送付先:101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　一般社団法人日本地質学会
送金先:郵便振替口座　00140-8-28067　日本地質学会
会費(※1)年額:正会員 12,000円　(学部学生割引＊5,000円, 院生割引＊8,000円【定収のない方に限る】 ※2)
※1:学会費には地質学雑誌の購読料が含まれています.
※2:学部学生割引, 院生割引を希望される方は, 下記の割引申請欄に指導教官の署名, 捺印をもらってください.

一般社団法人日本地質学会入会申込書　Application form for the Geological Society of Japan

太枠内のみにご記入ください(＊Official use only　)

＊会員番号	＊会員種別　□正会員　(□学部学生割引　・　□院生割引)
氏名(ふりがな)　Name　in　Japanese	ローマ字表記　family name　　first name
_____年Year_____月Mo_____日Day　生born on	Sex: □ 男 Male　□ 女 Female　Country:

学歴 Academic career:

_____学校 High school_____年卒業 Year completed

_____大学 University　_____学部 Faculty _____年____月 卒業(見込み)Year completed

修士 Master:_____大学Univ._____研究科Fac. _____年____月 修了(見込み)Year completed

博士 Doctor:_____大学Univ._____研究科Fac. _____年____月 修了(見込み)Year completed

自宅住所 Home address: (郵便番号 Zip code　　－　　)

電話 Phone:　　ファックス Fax:

電子メール E-mail:

所属機関名称・所属機関住所 Affiliation with address: (郵便番号 Zip code　　－　　)

※ 郵便物がきちんと届けられるよう, ご記入ください.

電話 Phone:　　ファックス Fax:

電子メール E-mail:

連絡先 Correspondence:　□ 自宅 Home　□ 所属機関 Office

会員名簿の掲載項目:2年に1度, 会員名簿を発行しています. 氏名・所属先は掲載必須項目です. 下記の項目について**掲載を拒否する項目には □ にチェックを付けてください(チェックが無い項目は掲載承諾いただいたものとします)**.

□ 最終学歴　□ 所属先学科名・部課名(掲載不可の場合は「○○大学○○学部」,「㈱△△△△社」までを必須項目として掲載)
□ 所属先住所　□所属先電話・FAX番号　□自宅住所　□自宅電話・FAX番号　□e-mail Address

紹介者名(正・院生会員)　　印

Recommended by (name of member) _____ Signature

学部学生割引・院生割引申請欄:運営規則に基づき会費の院生割引を申請いたします.

上記本学の学生につき,　□ **学部学生**　・　□ **定収のない院生(研究生)**　〔いずれかにチェックをつけてください〕
であることを証明いたします.

指導教官　所属:　　氏名:　　印

専門部会:現在, 下記の13の専門部会があり活動しています. 専門部会に参加ご希望の方は登録をお願いします. 所属希望の部会を3つまで選択することができます. (該当する項目に○印を付けて下さい)

1. 地域地質　2. 層序　3. 堆積地質　4. 現行地質過程　5. 海洋地質　6. 構造地質　7. 岩石　8. 火山
9. 応用地質　10. 環境地質　11. 情報地質　12. 古生物　13. 第四紀地質　14. 環境変動史　15. 鉱物資源

興味専門分野:あなたの興味専門分野を教えてください. 3つまで選択することができます. (該当する項目に○印を付けて下さい)

1. 層位　2. 堆積・堆積岩　3. 古生物　4. 構造地質　5. 火山・火山岩　6. 深成岩　7. 変成岩
8. 鉱床地質(金属・非金属)　9. 鉱床　10. 鉱物　11. 燃料地質　12. 地熱　13. 第四紀　14. 環境地質
15. 都市地質　16. 土木地質　17. 土質工学　18. 水文地質　19. 探査地質　20. 土木工学　21. 情報地質
22. 地震地質　23. 海洋地質　24. 地球物理　25. 地球化学　26. 地質年代学　27. 地理　28. 地学教育
29. 考古学　30. その他　40. 地球惑星

＊受付(　　年　　月　　日)　＊入金(　　年　　月　　日) 振替・現金・銀行・他
＊承認(　　年　　月　　日)　＊送本(　　巻　　号)

日本地質学会*News*

Vol.17 No.5 May 2014

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル ６F
編集委員長　内藤一樹
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

日本地質学会第121年学術大会（鹿児島大会）予告 ……（１）～（27）

入会申込書 ……（28）

案内 ……2
IGCP608「白亜紀アジア－西太平洋生態系」の第２回国際研究集会2nd Circular配付のお知らせ/IGCP589「アジアにおけるテチス区の発達」第３回国際シンポジウムのお知らせ/第23回市民セミナー「黄砂と共に飛来する越境化学物質－水環境と健康に対する影響を考える－」

公募 ……3
千葉大学大学院理学研究科地球生命圏科学専攻地球科学コース教員公募

各賞・助成 ……3
住友財団2014年度研究助成/第９回「科学の芽」賞の作品募集/平成27年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞および若手科学者賞受賞候補者募集

紹介 ……4
鑛のきらめき　秋田大学鉱業博物館解説書　秋田大学大学院工学資源学研究科附属鉱業博物館編（岩松　暉）

新版地質図・報告書類 ……5
地域地質研究報告（５万分の１地質図幅）　新居浜地域の地質　青矢睦月ほか（鳥海光弘）

CALENDAR ……6

学協会・研究会報告 ……7
国際オフィオライト・マントル過程・関連鉱床研究ワークショップ報告（石渡　明ほか）

博物館だより ……8
御船恐竜博物館新館オープン！（酒井治孝）

表紙紹介：第５回惑星地球フォトコンテスト優秀賞「枕状溶岩とアオウミガメの産卵」 ……8

会員の声 ……9
地質学雑誌の「報告」と「短報」：会員にとって利用しやすい投稿区分を（前田仁一郎）

日本地球惑星科学連合のフェローが発表：地質学会からは８名が選出される！ ……9

支部コーナー ……10
関東支部：清澄フィールドキャンプ参加者募集/夏休み教師巡検－５億年前と10万年前の茨城を見る（第１報）/地質技術伝承講演会および2014年度関東支部総会報告

院生コーナー ……11
International Symposium on Asian Dinosaurs in Fukui, 2014 参加報告（髙津翔平）

訃報 ……12

学会記事 ……13
2013年度第４回理事会議事録/2013年度第９回執行理事会議事録/2013年度第10回執行理事会議事録

事務局営業カレンダー　お休み

5月 May

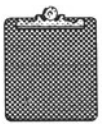
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

6月 June

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

※5/24：総会のため事務局不在

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都文京区湯島３－20－12



ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します．

IGCP608「白亜紀アジア－西太平洋生態系」の第２回国際研究集会2ndCircular配付のお知らせ

本誌の２月号でもお知らせした，地質科学国際研究計画608「白亜紀のアジア－西太平洋地域の生態系システムと環境変動」（略称：「白亜紀アジア－西太平洋生態系」）の第２回国際研究集会を案内する，2nd Circularの配布を開始しましたので，皆様にご案内します．

IGCP608 第２回　国際シンポジウム
The 2nd IGCP608 Waseda 2014
◇シンポジウム「白亜紀の陸ー海リンケージと生物相進化：アジアー西太平洋地域からの貢献」：2014年９月４日（木）～９月６日（土）
トピック・セッション
１）陸－海リンケージ：対比・堆積・古環境
２）海洋無酸素事変諸現象：アジア－西太平洋域地層記録からの貢献
３）生物相進化：アジア－西太平洋域の動物相・植物相
４）アジアの白亜系ジオパーク
一般セッション：上記以外のテーマや対象地域の研究発表も大歓迎
・開催場所：早稲田大学大隈講堂　小講堂
◇巡検：９月７日（日）～９月10日（水）４日間
「本州中部太平洋岸の白亜紀前弧堆積盆の珪質砕屑物サクセッションの堆積相と動植物化石相－銚子・那珂湊・双葉層群」
案内者：安藤寿男・平山廉（早稲田大国際教養）・柏木健司（富山大）・利光誠一（産総研地質標本館）
※詳細日程・行程は2nd Circular参照

Circularには，シンポジウムや巡検の参加費等の情報が掲載されています．以下に重要な日程を抜粋します．
◇重要な日程：
2014年５月１日　Second Circular　配布
2014年７月１日　第二次参加登録　締切
（以降は当日登録扱い）
2014年７月10日　発表要旨　締切
2014年７月15日　発表要旨受理連絡
2014年７月31日　Third Circular配布
（シンポジウムプログラム発表）

SecondCircularは，IGCP608のWebsiteからダウンロードできます．
http://igcp608.sci.ibaraki.ac.jp/
http://igcp608.sci.ibaraki.ac.jp/index.php?id=5

白亜系を対象とする研究推進・発表の場として，積極的な参加をお願いします．

・開催母体：IGCP608第２回国際シンポジウム実行委員会（委員長：安藤寿男）

・連絡・申込先：igcp608.waseda@gmail.com
太田　亨（実行委員会事務局長）
早稲田大学教育・総合科学学術院　太田　亨
〒169-8050　東京都新宿区西早稲田１-６-１
TEL 03-5286-1515（tohta@waseda.jp）

IGCP608リーダー　安藤寿男（茨城大学理学部）

IGCP589「アジアにおけるテチス区の発達」第３回国際シンポジウムのお知らせ

2012年より５年計画で始まったIGCP589：Development of Asian Tethyan Realm：Genesis, Process and Outcomesは，今年で活動３年目を迎えました．初年度の西安（中国），２年目のボラカイ島（フィリピン）に続き，今年はイラン地質調査所主催のもと，第３回シンポジウムをイラン・イスラム共和国の首都テヘランにおいて開催することになりました．そのファーストサーキュラーの配布が始まりましたので，皆様にご案内します．
IGCP589第３回国際シンポジウム
期間：2014年10月21－22日　シンポジウムとビジネスミーティング
会場：テヘラン，Hoveizehホテル
主催：イラン地質調査所（委員長：Mohammad R. Saeidabadi，事務局代表：Monireh Poshtkoohi）

巡検
・プレ巡検（2014年10月19－20日）：エルブールズ造山帯の層序と構造
・ポスト巡検（2014年10月23－26日）：中央イランの層序と構造

IGCP589では，アジアにおけるテチス区（Tethysides）の起源，発達過程，地質記録の解読を中心テーマに，アジア諸地域の層序，テクトニクス，構造地質，堆積，地域地質，鉱産資源，火成作用，変成作用，古地磁気，地震，古生物，古地理，古海洋学，環境地質，など，アジアとテチスに関する幅広い地質学的問題を検討課題としています．また今回のシンポジウム巡検では，イランを代表する変動帯であるエルブールズ山脈（パレオテチス海の閉鎖域）とザグロス山脈（ネオテチス海の閉鎖域）の層序，構造を見学する予定です．アジアの地質学全般に興味のある方々の積極的な参加を歓迎いたします．

なお，ファーストサーキュラーは，下記のIGCP589ウェブサイトからダウンロードできます．
http://igcp589.cags.ac.cn/Symposia.htm

国内問合せ先：
上野勝美（IGCP589コリーダー：福岡大学理学部）
TEL　092-871-6631，内線6282
（katsumi@fukuoka-u.ac.jp）

第23回市民セミナー「黄砂と共に飛来する越境化学物質ー水環境と健康に対する影響を考えるー」

主催：（公社）日本水環境学会
期日：2014年８月８日（金）９:45～16:35
場所：東京会場：地球環境カレッジホール（いであ㈱内）（東京都世田谷区駒沢）
大阪会場：いであ㈱大阪支社　ホール（大阪市住之江区南港北）
参加費：無料
定員：250名（東京会場150名，大阪会場100名）
申込方法：または，FAX，E-mailまたはハガキに，①参加者氏名（フリガナ），②会員・非会員の別，③会員の場合は会員番号，④希望受講会場，⑤連絡先（所属団体名，住所および電話・FAX番号）をご記入の上，下記宛お申し込み下さい．
参加証（ハガキ）をお送りいたします．

講演紹介（※講師の都合等で一部変更となる場合があります）
汚染物質は私たちにどう影響するの？―微量な環境汚染物質による健康影響―：京都大学　高野裕久（大阪会場）
中国では何が起こっているの？―中国での室内汚染および交通起源の沿道大気汚染を考慮したPM2.5曝露量推計―：京都大学　倉田学児（大阪会場）
汚染物質は本当に日本に届いているの？―中国大陸からの石炭燃焼由来微量元素の越境汚染評価―：静岡県立大学　坂田昌弘（東京会場）
海に排出された化学物質は日本に届いているの？―中国大陸から排出される化学物質の日本周辺海域への越境移動―：北九州市立大学　門上希和夫（東京会場）
プラスチックといっしょに化学物質が移動？鳥や魚への蓄積は？―海洋漂流プラスチック中の化学物質の存在・分布と海洋生物への移行―：東京農工大学　高田秀重（東京会場）

問い合わせ先：
（公社）　日本水環境学会セミナー係　戸川
〒135-0006　東京都江東区常盤2-9-7　グリーンプラザ深川常盤201号
Tel．03-3632-5351　Fax．03-3632-5352
E-mail： togawa@jswe.or.jp

公募

教官公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

千葉大学大学院 理学研究科地球生命圏科学専攻 地球科学コース教員公募

1．公募人員：テニュアトラック助教１名
2．公募分野：地球内部科学領域岩石学・鉱物学教育研究分野
3．応募資格：博士の学位取得後10年以内の方，または着任時までに博士の学位を取得見込みの方
4．着任時期：決定後，出来るだけ早い時期
5．提出書類：履歴書，業績リスト（査読論文とそれ以外を区分），主要論文５編の別刷あるいはコピー，推薦状または所見を伺える方数名の氏名・連絡先等，これまでの教育・研究実績と千葉大学赴任後の教育・研究計画・抱負等（A４版２～３枚程度）
6．応募締切：2014年６月30日（月）必着
7．書類送付先：
〒263-8522　千葉市稲毛区弥生町１-33
千葉大学大学院理学研究科地球生命圏科学専攻地球科学コース
（封筒には「助教公募書類」と朱書し、書留郵便とする）
8．詳細参照先：
和文：http://www-es.s.chiba-u.ac.jp/news/20140421_CU_Earth_j.pdf
英文：http://www-es.s.chiba-u.ac.jp/news/20140421_CU_Earth_e.pdf
9．応募に関する問い合わせ先：
千葉大学大学院理学研究科地球生命圏科学専攻地球科学コース
津久井雅志
電話：043-290-2837
E-mail：tsukui@faculty.chiba-u.jp

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の募集・推薦依頼をご案内いたします．

住友財団2014年度研究助成

○環境研究助成
研究課題：
① 一般研究：環境に関する研究（分野は問いません．）
② 課題研究：「持続可能な社会への着実な転換を可能にする方策に関する研究」
応募資格：研究者の所属が営利企業（兼務を含む）の場合には応募不可
助成金額：
① 一般研究：9,000万円（１件当たり最大500万円）
② 課題研究：2,000万円（１件当たり最大1,000万円）
助成件数：
① 一般研究：50件程度
② 課題研究：２件を予定
助成期間：
① 一般研究：2014年11月から１年間．但し，希望される場合には１年間を限度として延長可
② 課題研究：2014年11月から２年間
○基礎科学研究助成
研究課題：理学（数学，物理学，化学，生物学）の各分野及びこれらの複数にまたがる分野の基礎研究で萌芽的なもの（それぞれの分野における工学の基礎となるものを含む．）
応募資格：「若手研究者」
助成金額：総額１億6,000万円（１件当たり最大　500万円）
助成件数：90件程度
助成期間：2014年11月から１年間．但し，希望される場合は１年間を限度として延長可

応募方法：財団ホームページ（本ページ最下部URL）から申請書類をダウンロードし必要事項を記入の上，E-mailで「受付番号」を取得して下さい（データ送信）．その後，「受付番号」を記入した申請書類を郵送して下さい．詳しくはホームページ参照．
データ送信の締切：2014年６月23日（月）
郵送書類の締切：2014年６月30日（月）

採否決定：2014年10月上旬の予定
連絡先：〒105-0012　東京都港区芝大門１-12-16　住友芝大門ビル２号館
公益財団法人　住友財団
TEL：03-5473-0161　FAX：03-5473-8471
E-mail：sumitomo-found@msj.biglobe.ne.jp
URL:http://www.sumitomo.or.jp/

第９回「科学の芽」賞の作品募集

後援：毎日新聞社，時事通信社，日本教育新聞社，日本物理学会，日本物理教育学会，日本科学教育学会，日本理科教育学会，日本地質学会，日本生物教育学会，日本化学会，日本地学教育学会，日本初等理科教育研究会，文部科学省

応募要領・応募資格：全国の小学校３年生～中学校・高等学校（高等専門学校３年次までを含む．），中等教育学校，特別支援学校の個人若しくは団体「小学生部門」，「中学生部門」，「高校生部門」に分けて公募します．

募集作品：
ふしぎだと思うこと
　これが科学の芽です
よく観察してたしかめ
　そして考えること
　これが科学の茎です
そうして最後になぞがとける
　これが科学の花です
　　朝永振一郎

朝永先生の言葉のように自然現象の不思議を発見し，観察・実験して考えたことをまとめましょう．素直な疑問・発見があるものを募集します．
応募作品は，レポート用紙A４判10枚以内（表紙は枚数に含みません）にまとめてください．
原稿作成は，手書き，ワード，どちらでもかまいません．

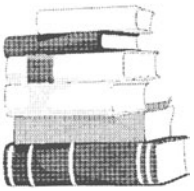
応募期間：2014年８月20日（水）～９月30日（火）〔消印有効〕
応募のきまり：応募の際は，第９回「科学の芽」賞の応募用紙（PDF版または，doc版【zip】）を出力し，必要事項を記入のうえ，応募作品と一緒に提出してください．
送付先：〒112-0012　東京都文京区大塚３-29-１
筑波大学「科学の芽」賞実行委員会宛
（注）応募作品は原則として返却しません．

平成27年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞および若手科学者賞受賞候補者募集

推薦締切　平成26年７月17日（木）（学会締切　６月30日）

受賞候補者の推薦について：本表彰は，文部科学省研究振興局長が推薦依頼を発出した機関（以下，推薦機関）からの推薦のみ受け付けております．従って，個人に対する募集は行っておりませんので御注意下さい．

お問合せ先
研究振興局振興企画課奨励室
水野・矢崎・中村
電話：03-5253-4111（内線4231，4071，4233），03-6734-4071（直通）
e-mail：sinsyore@mext.go.jp
募集の詳細は，http://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/1347296.htm



紹　介

鑛のきらめき
秋田大学鉱業博物館解説書

秋田大学大学院工学資源学研究科附属鉱業博物館編

悠雲舎　2014年5月2日発行　A4並128ページ，フルカラー，ISBN978-4--904192-51-1，本体価格1,500円＋税（税込1,620円）

本書は秋田大学大学院工学資源学研究科附属鉱業博物館の創立100周年記念出版物である．全編オールカラーの豪華本だが，一言で感想を述べると，秋田大学の底力に圧倒される思いだった．

周知のように，産業革命は資源とエネルギーなくして遂行できない．明治政府の近代化策・殖産興業策を実行する人材が求められていた．こうして1910年，秋田鉱山専門学校が設立され，同時に列品室が置かれた．博物館の前身である．その後，新制大学化に伴って鉱山博物館となり，1961年創立50周年記念事業として，主として卒業生らの寄付により鉱業博物館が建設された．1965年には全施設が国に寄付され，現在につながっている．わが国に大学博物館がなかった時代である．トップランナーだった．1941年列品室が火災に遭うなどの不幸があったが，この100年に収集されたコレクションは2万点を超す．

本書はそのコレクションの中から厳選した378点を紹介するものだが，単なる図録ではない．そのことは目次を見てもわかる．自然史編と資源編に大別されており，次のような章立てである．

Ⅰ自然史編
Ⅰ-1　鉱物とは・鉱物の分類
Ⅰ-2　元素鉱物
Ⅰ-3　硫化鉱物
Ⅰ-4　硫化鉱物・ハロゲン化鉱物
Ⅰ-5　酸化鉱物・水酸化鉱物
Ⅰ-6　炭酸塩・硝酸塩・硫酸塩・クロム酸塩・タングステン酸塩・モリブデン酸塩鉱物
Ⅰ-7　硼酸塩・燐酸塩・砒酸塩・ヴァナジン酸塩鉱物
Ⅰ-8　珪酸塩鉱物（ネソ珪酸）
Ⅰ-9　珪酸塩鉱物（ソロ珪酸塩・サイクロ酸塩）
Ⅰ-10　珪酸塩鉱物（イノ珪酸塩）
Ⅰ-11　珪酸塩鉱物（フィロ珪酸塩・テクト珪酸塩）
Ⅰ-12　沸石属鉱物
Ⅰ-13　日本産新鉱物
Ⅰ-14　丹波帯に産するマンガン鉱コレクション
Ⅰ-15　隕石
Ⅰ-16　深成岩1
Ⅰ-17　深成岩2
Ⅰ-18　深成岩3
Ⅰ-19　火山岩
Ⅰ-20　火山噴出物
Ⅰ-21　変成岩
Ⅰ-22　地層と堆積岩
Ⅰ-23　石は語る
Ⅰ-24　地震
Ⅰ-25　環境を語る化石
Ⅰ-26　アンモナイト
Ⅰ-27　微化石
Ⅰ-28　秋田の古環境と化石1
Ⅰ-29　秋田の古環境と化石2
Ⅰ-30　生命史の夜明け
Ⅰ-31　中生代の生物相
Ⅰ-32　新生代

Ⅱ資源編
Ⅱ-1　地球が生んだ大切な地下資源
Ⅱ-2　正マグマ鉱床・ペグマタイト鉱床・スカルン鉱床・鉱脈鉱床
Ⅱ-3　鉱脈鉱床
Ⅱ-4　火山性塊状硫化物鉱床・黒鉱鉱床
Ⅱ-5　黒鉱鉱床
Ⅱ-6　縞状鉄鉱床・堆積鉱床・風化残留鉱床・非金属鉱床
Ⅱ-7　炭田
Ⅱ-8　石油・ガス田
Ⅱ-9　地球上の鉱床の分布
Ⅱ-10　資源の探査
Ⅱ-11　採油
Ⅱ-12　鑿岩と発破
Ⅱ-13　鉱山システム
Ⅱ-14　炭鉱
Ⅱ-15　選鉱
Ⅱ-16　銅精錬
Ⅱ-17　製鉄
Ⅱ-18　保安と公害防止
Ⅱ-19　自然エネルギー
Ⅱ-20　秋田の鉱山史―江戸期―
Ⅱ-21　秋田の鉱山史―近代―

全編ため息の出るようなすばらしい標本写真がちりばめられているが，それに図を多用した平易な解説が付けられており，鉱物の分類体系や鉱床のタイプなどいつの間にか学べる地学の教科書ともなっている．

興味深いコラムも随所に挿入されている．一例を挙げる．ウェゲナーの大陸移動説が長い間陽の目を見ず，半世紀後に劇的に復活したように，長い間異端視されてきた故大橋良一教授の黒鉱同生説（海底温泉沈殿説）が復活を遂げ，秋田県が一大鉱山地帯として発展したこと，さらにはオーストラリアなど諸大陸の巨大海底熱水鉱床の発見につながったことなど，若い方は知らないのではなかろうか．中央海嶺においてチムニーが発見され，海底熱水鉱床は当たり前のこととして考えられているが，陰にはこうした先人がいたのである．

本書は鉱物マニアや化石マニアには垂涎の的だろうが，全編を通読すると立派な地学の入門書としても使えるので，ぜひ初学者に読んでいただきたいと思う．強く推薦する．

（**岩松　暉**）

新版地質図・報告書類

地域地質研究報告（５万分の１地質図幅）新居浜地域の地質

青矢睦月，野田　篤，水野清秀，水上知行，宮地良典，松浦浩久，遠藤俊祐，利光誠一，青木正博　著

2013年発行，産業技術総合研究所地質調査総合センター，181ページ，価格2,590円（税込）

図幅シリーズは，現在でも産総研の地質調査総合センターで継続的に作成されている．その基本的作業は，膨大な現地での地質調査と，岩石の同定に必要な薄片作成および顕微鏡による岩石記載である．日本列島のように，ほとんどが森林や草木によって覆われていて，連続露頭が少ないので，岩体の相互関係ややマクロスコピックな地質構造の観察が困難な地域が多いこと，正確な地質図を作成することが難しいことが多い．しかし，それでも本図幅は露頭を掻き出して観察し，その結果膨大な地点の露頭観察を行うことによって，白亜紀に，プレート境界に沿って沈み込み，そして造山帯に上昇した三波川変成帯の主部のきわめて複雑な地質および温度構造を暴き出すことに成功した．しかも，岩相による３次元地質構造とともに，沈み込み過程の時間軸に関しても，大きく３段階の塑性変形をともなう変成作用を識別し，それらの動きを時空間で再現することに成功した．

本書によれば，三波川変成コンプレックスとは110 Ma以前にグラニュライト相で変成作用を被ったはんれい岩体と，100 kmを超える深さまで引きずり込まれた島弧下マントルの一部が20－25 kb程度の深さで合体し，エクロジャイト相の変成作用を被った地質体であった．それは，引き続き上昇して，沈み込んできた付加体と合体し，主要な三波川変成作用を10－15 kb程度の領域で受け，さらに，上昇しながら大量の吸水反応をともなう後退変成作用を90－77 Maに受けたとされる．これらのプレート境界における物理過程は，むろん詳細な，岩石学，年代学，地質学，そして地球化学などの研究の蓄積のうえに，総合的にモデル化されたものである．そして，著者らは，それらの研究を20年にわたり中心的に行なってきたのである．

地質図幅は，本来は地形図と同様に国土の基盤的な情報マップであり，万人に利用可能な地質基本図である．たとえば，この地質図を用いて道路や用水のトンネルを安全に掘削する．例えば地すべりの発生する可能性のある道路や鉄道，あるいは住宅地域の評価，例えば金属資源の探査などに有効利用するのである．したがって，地質図幅に求められるのは正確な岩石の記載とその分布，とくに地下数キロまでの正確な３次元分布なのである．しかし，日本などのように植物や土壌の被覆が多く，広大な連続露頭の観察による正確な岩相分布を決めるのが困難な場合には，断片的であるが，多数の露頭を丹念に探しだし，それらを接続することによって全体像を求めることが必要である．これは，ゆったりとした層理面をもつ地質構造であれば問題はない．ところがほとんどの地質体はプレート境界の断層や褶曲，そして堆積過程までもが海底地すべりや土石流，乱泥流などのように地層の連続性と断片性が共存するような地質構造を示し，さらに造山帯の主部である変成帯そのものである場合には，地下100 km以上の深さまで沈み込み，さらに地表まで上昇した巨大な変成岩帯である．つまり地層の不連続性こそが重要となる地質体なのである．そこでは，多くの異なる観測量を総合してはじめて正確な３次元地質図を作成することができる．

本書は，まずは可能な限り露頭を探りだしながら精度の高い岩相分布図を作成した．さらに，露頭で測定できるほとんどすべての構造単位を既成概念なしに測定し，その分布図を描き出した．さらに，岩石に含まれる変成鉱物とその分布，そして変成鉱物に記録された内部の微細組織，化学組成変化，および年代測定データなどを丹念に測定し，集め，それらのデータをまとめあげた．こうした手法は地質学における基本なのであるが，極めて時間がかかり，労力のかかる作業であり，それ自体研究なのである．著者らはすでに当地域南部の日比原図幅の作成にあたって行った方法であった．

このようにして，様々なデータをその分布と，時間順序，そして変形特性などを総合して見て浮かび上がったのが，すでに述べたような30 kbを超える圧力で再結晶しながら上昇した東赤石岩体，その向かう先は20 kb前後にまで沈み込んだ五良津岩体と東平岩体であり，それらが合体してエクロジャイト相の変成作用を受け，さらに15 kbの深さまで上昇して，そこに沈み込んできた付加体堆積物とともに主要な三波川変成作用を受けた後，後退変成作用を受けたという結論を得たのである．

このような物理過程を支配した力学は何なのだろう．問題なのは東赤石岩体が厚さ１km内外で５km程度の平板状岩体で沈み込むスラブの上部を上昇したことであろう．東赤石岩体は30－20 kb，600度付近ではアンチゴライトは不安定であり，密度の大きな岩体としてスラブ上部のマントルに存在したはずであり，それが上昇して，約20kb 付近でエクロジャイト相の変成作用を五良津岩体などとともに受け，密度は間違いようもなく大きくなり，周囲のマントル岩がアンチゴライト化しているにもかかわらず，約10 km幅で，厚さ数キロの岩体となって，さらに上昇を続けるという物理過程はまったくの謎である．これではまるで雪だるまの動きと同じようではないか．雪だるまのコアは東赤石岩体であり，その周囲に別子エクロジャイト相ユニットや白滝ユニット，そして中七番ユニットを次々と巻き込みながら上昇を続けたということになる．この不可解な過程がどのように起こったのだろうか．不思議である．地質過程はどうも一筋縄ではいかないようだ．とくにプレート境界での現象には未知の巨大な物理過程が隠されていると本書はほのめかしているようだ．

地質図はこのような背景のもとに読みとくと，驚くほど面白いし，そのクリティカルな露頭がどこにあるのかを，推定する上で大変に役立つのだ．本書のプレート境界のダイナミクスで主要な謎であるところの，東赤石ユニット，別子エクロジャイト相ユニット，白髪ユニット，中七番ユニット等の境界部分の詳細な地質構造を理解するのには，この地質図を詳細に読みとく必要がある．その境界は当然であるが，極めて複雑に褶曲し，折りたたまれている．しかし，それはもとは明らかに大変位の断層である．そしてその断層周辺の岩石は地下深部で摩擦滑りまたは塑性的に大変位した岩石であったはずである．そのような岩石に対する興味はつきない．

本書は５万分の一地質図幅なので，三波川変成コンプレックスの他にも，領家変成岩類，領家深成岩類および岩脈，上部白亜系和泉層群，中新世岩脈および熱変成作用，および第四系，さらには中央構造線についての詳細な記述があり，一読することを薦める．以下に本書の目次を記しておこう．

第１章　地形
第２章　地質概説
第３章　三波川変成コンプレックス
第４章　領家変成岩類
第５章　領家深成岩類及び白亜紀岩脈
第６章　上部白亜系和泉層群
第７章　中新世岩脈および中新世熱変成作用
第８章　第四系
第９章　中央構造線
第10章　応用地質
文献
図・表

（鳥海光弘）

CALENDAR

2014. 5 〜

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
★印は，日本地質学会行事．

2014年

5月　May

○地球惑星科学NYS若手合宿2014
5月2日（金）〜4日（日）
場所：八王子セミナーハウス（東京）
https://sites.google.com/site/nyswakate/2014

○第6回国際レルゾライト会議
5月4日（日）〜14日（木）
開催場所：Marrakech, Morocco
http://www.gm.univ-montp2.fr/Lherzolite/

○Marjorie Chan教授　講演会
日本地質学会　共催
（東京）5月9日（金）15時〜17時
場所：東京工業大学地球生命研究所セミナー室（4階）
（京都）5月11日（日）15時〜16時
場所：京都大学百周年時計台記念館国際交流ホールI
問い合わせ先：
日本堆積学会国際交流委員会
池原　研mail: k-ikehara@aist.go.jp

★街中ジオ散歩 in Tokyo（地質の日行事）
「下町低地の地盤沈下と水とくらし」徒歩見学会
5月10日（土）9:50〜17:00 少雨決行（予定）
見学場所：東京都江東区清澄白河ほか
http://www.geosociety.jp

○東京地学協会春季特別公開講演会「日本と世界の奇岩に見るジオ多様性」
5月17日（土）14:00〜16:30
場所：東京地学協会地学会館講堂
加藤碵一（産総研・地質情報整備活用機構）「日本奇岩百景とジオ多様性」
須田郡司（石の写真家・巨石ハンター）「世界奇岩巡礼」
参加費・予約不要
http://www.geog.or.jp/

★関東支部：緊急学習会『福島第一原子力発電所汚染水処理問題収束のために地質学は何をなさねばならないか』
5月17日（土）13:00〜17:00
会場：日本大学文理学部3号館3505教室
http://kanto.geosociety.jp/

★一般社団法人日本地質学会第6回（2014年度）総会
5月24日（土）　15:30〜17:00
場所：北とぴあ（東京都北区王子）
・第5回惑星地球フォトコンテスト表彰式・展示会
・公開講演会「日本の地質学：最近の発見と応用」も同日開催いたします．

★近畿支部地球科学講演会（地質の日行事）
「プレートの沈み込みと国土形成－紀伊半島南部のおいたちとジオパーク構想－」
5月25日（日）13:30〜15:30
場所：大阪市立自然史博物館講堂
http://www.mus-nh.city.osaka.jp/

6月　June

○地質学史懇話会
6月28日（土）13:30〜17:00
場所：北とぴあ8階803号室
相原延光：お天気博士藤原咲平の生涯と地学史における再評価（仮題）
加藤碵一：「地文学」と「地人論」考

7月　July

○第51回 アイソトープ・放射線 研究発表会
7月7日（月）〜9日（水）
場所：東京大学弥生講堂
http://www.jrias.or.jp/seminar/cat4/505.html

○第14回ルミネッセンス・ESR年代測定国際会議
7月7日（月）〜11日（金）（巡検12〜13日）
場所：カナダ・モントリオール
http://www.led2014.uqam.ca

○「青少年のための科学の祭典」2014全国大会
日本地質学会　後援
7月26日（土）〜27日（日）
場所：科学技術館（千代田区北の丸公園）
http://www.kagakunosaiten.jp/

8月　August

○第23回市民セミナー「黄砂と共に飛来する越境化学物質ー水環境と健康に対する影響を考えるー」
8月8日（金）9:45〜16:35
場所：東京会場：地球環境カレッジホール（東京都世田谷区駒沢）
大阪会場：いであ（株）大阪支社ホール（大阪市住之江区南港北）
https://www.jswe.or.jp/

9月　September

○国際鉱物学連合第21回総会（IMA2014）
9月1日（月）〜5日（金）
開催地：南アフリカ
http://www.ima2014.co.za/index.php/call-for-abstracts

○IGCP608「白亜紀のアジアー西太平洋地域の生態系システムと環境変動」第2回国際シンポジウム
日本地質学会　共催
9月4日（木）〜6日（土）（シンポジウム）
9月7日（日）〜10日（水）（巡検）
場所：早稲田大学大隈講堂小講堂
http://igcp608.sci.ibaraki.ac.jp/

○Thermo2014：第14回国際熱年代学会議
9月8日（月）〜12日（金）（巡検5〜7日）
場所：フランス・シャモニー
http://www.thermo2014.fr

★日本地質学会第121年学術大会
9月13日（土）〜15日（月・祝）
場所：鹿児島大学ほか
講演申込締切：7月1日（火）
事前参加登録締：8月19日（火）

○第11回ゴンドワナからアジア国際シンポジウム、国際ゴンドワナ研究連合2014年会及び付属野外巡検
会議：9月19日〜21日　巡検：22日〜24日
場所：北京，China University of Geosciences Beijing
http://www.iagrhomepage.com

○第31回歴史地震研究会（名古屋大会）
9月20日（土）〜22日（月）
場所：名古屋大学減災連携研究センターセンター減災ホール
http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/menu7.html

○第58回粘土科学討論会
日本地質学会　共催
9月24日（水）〜27日（土）
場所：福島市A・O・Z（アオウゼ）
参加・講演の申込期間：6月16日（月）〜7月11日（金）
http://www.cssj2.org/

10月　October

○IGCP589「アジアにおけるテチス区の発達」第3回国際シンポジウム
プレ巡検：10月19〜20日
シンポジウム：10月21〜22日
ポスト巡検：10月23〜26日
開催場所：テヘラン，Hoveizehホテル
http://igcp589.cags.ac.cn/Symposia.htm

学協会・研究会報告

国際オフィオライト・マントル過程・関連鉱床研究ワークショップ報告

石渡　明[1]・荒井章司[2]・山本伸次[3]
[1]東北大学東北アジア研究センター　[2]金沢大学大学院自然科学研究科
[3]東京大学大学院総合文化研究科

International Workshop on: Ophiolites, Mantl Processes and Related Ore Deposits
（蛇緑岩，地幔作用和有関矿床国際学術研討会）
April 14-15, 2014, Guoyi Hotel, Beijing, China
主催：中国地質科学院
会場：国誼賓館（北京市車公庄大街）
期日：2014年４月14-15日

このワークショップは中国地質科学院の楊経綬（Yang Jingsui）が呼びかけて，国外から18人の研究者を中国側の負担で招待して開催された，オフィオライト，マントル・プロセスと関連鉱床（主にクロム鉄鉱床）に関するワークショップである．多くの発表者には討論を含めて１人30分の発表時間が与えられ，総合討論にも十分な時間が用意され，有意義な議論ができた．楊経綬はチベットのLuobusaオフィオライト岩体のクロム鉄鉱中に包有物としてダイアモンドやモアッサナイト（SiC，炭化珪素，人工物の商品名はカーボランダム）などを発見したことで知られる．また，同じ岩体のクロム鉄鉱から山本らがコース石の離溶ラメラを報告した（2012年に本学会小澤儀明賞を受賞）．このように，これまで海底下の比較的浅いマグマ活動の産物と考えられてきたオフィオライト中のクロム鉄鉱に超高圧鉱物が含まれることが，その後北極圏ウラル山脈など世界各地から報告されるようになり，1970年代初頭のオフィオライト概念の確立から40年を経て，最近オフィオライトが再度脚光を浴びている（例えば，Elements, 2014 vol. 10, No. 2, Ophiolites）．本ワークショップは，このような状況の中で，中国地質科学院が楊経綬の功績を顕彰するとともに，彼の共同研究者であるPaul Robinsonの80歳の誕生日を祝い感謝の意を表す意味も込めて開催された．なお，本報告ではすべて敬称を略させていただく．

１日目は，まずYildirim Dilekが沈み込み帯域（SSZ）オフィオライトにおける沈み込み開始を示す証拠について述べた．次に石渡がオフィオライトの新しい分類区分であるプルーム（P）型オフィオライトと地球上の巨大火成岩区及び他の地球型惑星に広く分布するP型オフィオライトに類似した岩石について述べた．チベットのXigazeオフィオライトの沈み込み開始を示す特徴やチベット南西部のPurang超苦鉄質岩体の報告のあと，David Geeが北大西洋地域のカレドニア造山帯とオフィオライトの産状について述べた．昼食の後，Henry J. B. Dickが「南西インド洋海嶺：ゴンドワナマントルの再溶融」という題で発表した．次のRejean Hebertの発表はチベットのオフィオライトの多様性についてのものだが，事務的なミスでプログラム上の題名が前のDickのものと混同していた．Tim Kuskyは華北地塊の中央を南北に横切る遵化（Zunhua）オフィオライト・メランジュ帯について述べた．彼のこの帯の東湾子オフィオライトの研究は多くの中国人研究者から批判され，まだ決着がついていないが，彼はその後も中国人学生を指導してこの地域の太古代オフィオライト岩類を研究している．次にIbrahim Milushiによるアルバニアのオフィオライトの紹介があった．Song Xieyanは中国天山山脈東部のペルム紀Ni-Cu硫化物鉱床について述べた．Liu Pingpingは中国南西部の峨眉山巨大火成岩区のBaimaFe-Ti-（V）酸化物鉱床について述べた．Alfred Kronerはキルギスの天山北部の前期古生代大陸沈み込みについて多数の年代データを示して論じた．Mohamed Metwaly Abu Anbarはエジプトの汎アフリカ造山帯のオフィオライトとそれに関連する鉱床について述べた．講演の中で“I believe…”という表現をよく使ったが，これについてKuskyは「「信じる」というのは宗教であって科学ではない」と文句をつけた．Hans-Peter Schertlはドミニカ共和国のRio San Juan蛇紋岩メランジュ中のヒスイ輝石岩について報告した．

２日目は，まずHarry Greenが極端な動力変成作用（ウルトラマイロナイト，シュードタキライト）と地震について，次に楊経綬が北極圏ウラルのRay-Izオフィオライトのクロム鉄鉱中に見られるダイアモンドと非常に還元的な環境で形成されるSiCなどの鉱物について報告した．Williams Griffinはチベットのかんらん岩体に産するマントル遷移層起源鉱物と大陸衝突帯，造山帯かんらん岩の問題について述べた．Larissa Dobrzhinetskayaはチベットのオフィオライトのポッド状クロム鉄鉱床に含まれる金属鉱物から得られる知見について述べた．Jin Zhenminのチベットのクロム鉄鉱が由来する深さについて，Zhou Meifuはポッド状クロム鉄鉱と沈み込み開始について，Shi Rendengはオフィオライトのクロム鉄鉱が大陸下リソスフェアに由来する可能性について述べた．Hugh Rollinsonはオマーンオフィオライトのマントルセクションのクロム鉄鉱とオマーンの構造発達史の関係，荒井が熱水沈殿物として形成されるクロム鉄鉱について，Galina Savelyevaがウラルのオフィオライトのクロム鉄鉱について，山本がチベットのLuobusaオフィオライトから高圧クロム鉄鉱が低圧クロム鉄鉱に変化している顕微鏡的証拠について報告した．Su Benxunは羅布沙オフィオライトのかんらん石のLi同位体比について述べた．最後の２つの講演はクロム鉄鉱中のダイアモンドなどの研究に不可欠な最新の微小分析装置についての紹介で，Richard Wirthは Focused Ion Beam （FIB）-TEMについて，Michael Wiedenbeckはいろいろな微小分析法の利点と限界についてまとめた．ワークショップの終了後，夕食会がPaul Robinsonの誕生会を兼ねて盛大に行われた．

以上のように，このワークショップは特に最近注目されているクロム鉄鉱中の超高圧鉱物を中心に世界のオフィオライト研究の最新の成果を一堂に集めたもので，活発な議論や情報交換も行なわれ，オフィオライト研究を専門とする者にとって非常に楽しく有意義なものだった．旅費，宿泊，食事，宴会，空港送迎など全般をお世話いただいた主催者の楊経綬教授と中国地質科学院の皆様に厚く感謝する．会議後，中国西部のオフィオライトへの巡検も実施されたが，我々は日程の関係で参加できず，残念だった．

写真　ワークショップの主賓席と題字幕．手前側の机上の蓋つき湯呑みには，１時間に１回程度，ホテルの服務員が回ってきて，魔法瓶からお茶を注いでくれた．

博物館だより

御船恐竜博物館

御船恐竜博物館新館オープン！

熊本県御船町にある恐竜博物館の新館が４月27日にオープンした．旧館は1998年に日本国内で最初の町立の恐竜博物館として設置され，これまでの15年間に40万人を超える来館者があった．しかし旧武道場を再利用していたため展示室は狭く，木造モルタル作りの建物の老朽化が進んでいた．そこで町おこしの一環として，２階建て鉄筋コンクリート製，延べ床面積1970 m^{2}の新館が建設されることになった．

新館１階の常設展示場は550 m^{2}で，御船町でこれまでに発見された恐竜やワニ，翼竜，貝などの化石を展示した「太古の世界の探求」を初め，「白亜紀の御船」，「恐竜たちの世界」，「脊椎動物の進化」と４つのゾーンに区分されている．当館の目玉である１階の常設展示場には，19体の恐竜化石レプリカが所狭しと並べられており，圧巻である．恐らく恐竜化石の分布密度は世界で最も高いものと思われる．一番目を引くのは，ワイオミング州から発見された約1.5億年前のジュラ紀後期の大型草食恐竜アパトサウルスの化石のレプリカ（全長24.4 m，高さ５m）である．このほかにもティラノサウルスやアロサウルスなどの肉食恐竜や翼竜のレプリカや始祖鳥の模型などが展示されている．また壁面を利用して，恐竜や脊椎動物の進化に関する解説がビジュアルに展示されている．来館者は各コーナーに設置されたiPADや個人のスマートフォンなどを使って解説を読むことができる．１階には200人収容のオープンスペースが交流ギャラリーとして設けられており，特別展やセミナーなどで利用できるようになっている．

２階は「生命と地球」の展示ゾーンと，標本の準備室，作製室，収蔵庫，分析室，研究室などから成り，全てガラス張りで中の作業が見学できるようになっている．その他，来館者が化石をクリーニングしたり，事前学習をするための体験交流室が設置されている．また隣接する建物は町の観光交流センターとなっており，これから売店や休憩室，図書室，町のインフォメーションコーナーが整備される予定である．

新館の南東には，通称恐竜ロードを挟んで15000 m^{2}のふれあい広場が設けられ，巨大な５体の恐竜と12個の化石モニュメント，遊具などが設置された公園となっている．

当館は，1979年に御船層群から国内で最初の肉食恐竜の歯の化石が発見され，1990年には恐竜の後肢の骨の化石が発見されたのを契機に，当時の町長や教育長の絶大な支援のもと設立された．その後，夏休みの特別展や発掘調査，子供達への野外実習指導，博物館での宿泊学習や大人への地学セミナーなどを積極的に開催し，地元のみならず九州一円の学校教育や社会教育に貢献してきた．また毎年，博物館の情報誌「ダナソートピックス１～21号」を発行し，当館の教育・啓蒙活動や年間行事，そして最近の恐竜研究の話題を提供してきた．

その活動の中でも特筆すべきことは，旧館設置以来の北米，モンタナ州立大学附属ロッキー博物館との交流である．世界でも有数の恐竜化石産地であり，その研究・展示の中心を成すロッキー博物館と姉妹博物館協定を結んでいる．その協定に従い，「モンタナ恐竜化石プレパレーションプロジェクト」が進行中で，モンタナ産出の恐竜化石を含む1.2トンクラスの岩塊が御船に送られ，モンタナから来た専門家の指導の下，手分けしてクリーニングが行なわれている．クリーニングが完了した化石は再びモンタナに送られ，その代わりに削り出された化石のレプリカが御船恐竜博物館に贈呈されている．新館オープニングにあわせて３個の岩塊が送られてきて，現在クリーニングに着手したところである．その作業は，２階の標本作製室で行なわれており，来館者はガラス越しに見学することができる．

当館は九州縦貫高速道の御船インターから車で10分の距離にある．熊本市内からもバスで45分で行ける．入場料は大人500円，高校・大学生300円，小・中学生200円，年間パスはそれぞれ900円，500円，300円となっている．

（**酒井治孝**）

表紙紹介：第５回惑星地球フォトコンテスト優秀賞

「枕状溶岩とアオウミガメの産卵」

後藤文義（神奈川県）

撮影場所：父島小港海岸

撮影者より：2013/５/10日の早朝，宿近くの小港海岸出かけたところ，砂上にウミガメの上陸跡が確認できました．その跡をたどると，なんと，枕状溶岩壁の前でアオウミガメが，目に涙をいっぱいためて産卵中でした．その後，彼女は２時間位で仕事を終え，ゆっくりと，何回も休息を交えながら無事海に入って行きました．

講　評：小笠原諸島父島，小港海岸の枕状溶岩は日本を代表する枕状溶岩の産地です．多数の写真が撮影されているので類型的になりがちですが，作者はウミガメが枕状溶岩の前で産卵するのに偶然出くわしました．このような写真では露頭はないがしろにされがちですが，この作品ではウミガメも露頭もきちんと撮影されていることから優秀賞としました．

地質的背景：父島の枕状溶岩は古第三紀始新世（約5000万年前）の海底噴火によって堆積したものです．海底に噴出した溶岩は海水に触れると急冷して固結しますが，内部はまだ融けているので前進します．この繰り返しで枕状溶岩ができます．父島の枕状溶岩は，ボニナイトと呼ばれるマグネシウムに富んだ安山岩です．（白尾）

会員の声

地質学雑誌の「報告」と「短報」：会員にとって利用しやすい投稿区分を

先日，ちょっとした原稿を地質学雑誌の「報告」として投稿したところ，担当編集委員から１回目の査読結果とともに「議論」を削除するか「論説」に再投稿するようにという指示を受け取りました．確かに「地質学雑誌投稿編集出版規則」の「B．地質学雑誌の内容」では「報告」は「卒論・修論等に掲載されたオリジナルデータあるいは業務などの中で得られたデータの報告．議論は含まない．」となっていますのでこの指示は極めて妥当なものです．しかし2013年中に印刷になった７編の「報告」を見てみましたが，形式的に「議論」という表現を章立てに使用してはいないものの「議論」に属すると思われる記述を１行も含まないものはないように思われます．例えば「なお本稿は報告のため，結果の議論について記述しない点を明記しておく」という記述のある浦本豪一郎・清家一馬両氏の「報告」（10号，693-698頁）でも，そうです．この表現から察するに，この２人の著者も担当編集委員から「議論」を削除するよう指示されたのでしょうか．

さて「報告」は「データの報告であって議論を含まない」ということですが，そもそも「議論」，すなわち評価・解釈・意義づけのないデータなど存在するのでしょうか? この辺りは，例えば都城秋穂「科学革命とは何か」の 122－165頁辺りの「常識的科学観」や「観察の論理依存性」に関する記述を参照していただきたいのですが，簡単な例をあげると，例えば30 Maの年代が出た，これが意味の無いpseudo ageなのか，意味はあるけれど変質ageなのか，900 ℃を低温側に通過した時のageなのかそれとも350 ℃を通過した時のageなのか，re-heatされた時のageなのか，入っていた砕屑粒子の何らかの有意/無意のageなのか，周囲の地質と矛盾がないとみなされるのか or そうでないのかetc.，そういった評価・解釈=議論が示されないと，この年代値は全く意味をなさないと思われます．むしろ，評価・解釈=議論なしに年代値だけが一人歩きすることになるとすれば，それはそれで大変困ったことになるでしょう．極めて新鮮な火成岩の全岩分析値の表示くらいはなんとか「報告」に収まるかもしれませんが，もし僅かでも変質している岩石が含まれるとそれに対する評価=議論が必要になります．そもそも，もし「報告」が一切の議論を含まないということであれば，「Introduction/はじめに」のような章も「報告」に含めるべきではないように思われます．というのは「Introduction/はじめに」の章では「何を問題とするのか」を述べるわけですが，この「問題」は個々の研究者による当該分野の個性的な現状評価に依存しており，これ自体が「議論」と密接不可分のものであるからです．

「報告」というカテゴリの新設と多分時期を同じくして「短報」を「論説」に「吸収」したこともこの状況に関連しているものと思われます．つまり，これまでの「短報」に相当するものが「論説」ではなく「報告」に流れるような状況を生み出したのでしょう．従来の「短報」相当の原稿を「論説」として投稿することにある種の抵抗感を持つ会員も少なからず存在するからであろうと思われます．今回の我々の原稿も「短報」があればそこに投稿したはずのものでした．

地質学雑誌編集委員会が「報告」というカテゴリを作った動機は十分に理解できますし，担当編集委員が「編集出版規則」に従い，議論を削除するように指示することも合理的なことです．しかし，上のように考えてくると，現在の地質学雑誌の「報告」は必ずしも会員にとって利用しやすいものではないように思われます．現在「報告」として掲載されているものの多くは，むしろ従来の「短報」にふさわしいものでしょう．そういう点で「短報」の復活が望ましいと考えられます．その方が会員にとってはるかに利用しやすいのではないでしょうか．もし「短報」の復活が実現しないとすれば，従来の「短報」相当の原稿も「論説」として掲載可能であることを会員に明示することが望ましいでしょう．もちろん担当編集委員や査読者用の編集・査読ガイドラインにもこのことを明記すべきでしょう．地質学雑誌編集委員会での検討を期待するものです．

（**前田仁一郎**）

※次号に編集委員会の返答を掲載予定です

日本地球惑星科学連合のフェローが発表：地質学会からは８名が選出される！

日本地球惑星科学連合では，フェロー制度が設けられました．この制度は，地球惑星科学において顕著な功績を挙げ，あるいは連合の活動に卓越した貢献をした正会員を顕彰するために設置され，その要件として，

- 地球惑星科学研究領域におけるパラダイムシフトやブレークスルーもしくは大きな発見などを通じて，地球惑星科学の発展に著しい貢献をした会員
- JpGUの活動に顕著な貢献をなし，日本の地球惑星科学の発展，あるいは地球惑星科学の知識普及に貢献した会員

が掲げられています．

この度，フェローに選ばれた43名の方々の中に，8名の地質学会員が含まれていました．ここに，連合のHP（http://www.jpgu.org/news/fellowlist.html）の記事を引用して紹介いたします．

フェローの約20%が地質学会から輩出されていることに，地質学会の伝統と実績が象徴されていると思います．われわれ後進も日本の地球惑星科学の発展に尽力して行きたいものです．

（学術研究部会長　**井龍康文**）

荒牧重雄○：火山学，特に火山地質学，火山岩岩石学分野における顕著な功績，および火山学の普及や火山防災意識向上への顕著な貢献により

岡田尚武：古生物学，古海洋学分野における顕著な功績，および国際深海掘削計画における顕著な貢献をした功績により

久城育夫○：岩石学，特に実験岩石学，マグマ成因論分野における顕著な功績により

杉村　新○：地質学，特に日本列島のネオテクトニクス，島弧論などの分野における顕著な功績により

鎮西清高○：地質学，特に古生物学および古生態学分野における永年にわたる顕著な功績により

藤井敏嗣：地質学，特に火山学・マグマ学分野における顕著な功績，および火山防災学の発展に多大な貢献をした功績により

松田時彦○：地質学，特に構造地質学，地震地質学，活断層研究分野における顕著な功績により

丸山茂徳：地質学，特に全地球史解読，生命・地球の共進化分野における顕著な功績により

（○が付された方は，地質学会の名誉会員）

☆関東支部

お知らせ

清澄フィールドキャンプ参加者募集

関東支部はフィールド教育の継承・発展のため，昨年度に引き続き京都大学理学部地球惑星科学専攻地質学鉱物学教室のご支援を受け，フィールドキャンプを実施します．実習フィールドは東京大学千葉演習林（清澄）内の七里川ならびにその支流ですが，地質調査の基礎的な訓練を行うには第１級のエリアです．京都大学が行う清澄山実習と同時期，同じカリキュラムで実施しますので教育効果が高まります．大学関係者の方，学生・院生諸君の参加につきましてご高配を賜りますようお願いいたします．昨年の実施報告は，ニュース誌１月号にてご覧頂けるほか，支部HPでも掲載しています．不明な点は，日本地質学会関東支部（kanto@ geosociety.jp）までお寄せください．興味のある学生・院生諸君の積極的な応募を期待しています．

主催：日本地質学会関東支部
期間：2014年８月25日（月）～８月31日（日） ６泊７日
場所：東京大学千葉演習林（〒299-5505　千葉県鴨川市清澄）
費用：宿泊・食事・保険（約15000円）＋レンタカー代（約12000円）

応募締切日：７月４日（金）（＊応募書類は所定のフォーマットを使用のこと）
応募書類や日程，持ち物など詳しくは，支部HP（http://kanto.geosociety.jp）をご参照ください．

☆関東支部

お知らせ

夏休み教師巡検
－５億年前と10万年前の茨城を見る（第１報）

期日：2014年８月20日（水）～21日（木）
場所：20日：茨城県南部（第四紀層の堆積構造と化石）
　　21日：茨城県北部日立周辺（５億年前の岩石等）
費用・講師等詳細は後日
連絡先：米澤正弘　my-yonezawa@y6.dion.ne.jp

昨年に続き支部主催第２回です．今年は茨城方面で企画しました．ぜひご予定ください．教師以外の方の参加もお待ちしています．

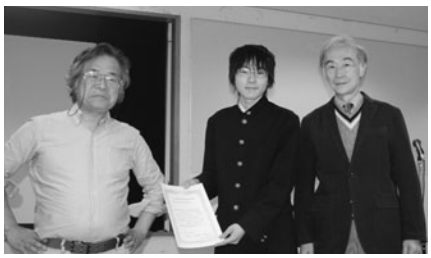
☆関東支部

報告

地質技術伝承講演会および
2014年度関東支部総会報告

2014年４月19日（土）東京都北区王子の北とぴあにて地質技術伝承講演会および関東支部功労賞表彰式，2014年度支部総会を行いました．総会に先立って関東地質調査業協会との共催で行われた地質技術伝承講演会は，講師に明治コンサルタント㈱本社技術統括部の佐藤尚弘氏を迎え「切土のり面にまつわる話（長期追跡調査，樹林化等）」という演題で講演をしていただきました．63名の参加者があり，切土のり面に係る長期追跡調査，樹林化，道路土工などについて，年月を追うように撮影された高速道路法面の写真や実際の樹木の根の様子など具体的な事例をもとにわかりやすく解説をしていただきました．続いて行われた2013年度関東支部功労賞では，埼玉県立自然の博物館と早稲田大学高等学院理科部地学班が表彰されました．埼玉県立自然の博物館は大正期の秩父鉱石標本陳列所から今日に至るまでの地質学普及にはたしてきた功績が評価されました．また早稲田大学高等学院理科部地学班は本会学術大会「小さなEarth Scientistのつどい」における継続的な活動が評価されました．総会では2013年度活動報告，決算報告，2014年度活動案，予算案が審議され，いずれも拍手で承認されました．今年度も2016年大会を見据えながら会員サービスに努めてまいりたいと思っております．

（幹事長　笠間友博）



左から，講演会演者の佐藤尚弘氏（明治コンサルタント㈱），関東支部功労賞　埼玉県立自然の博物館井田秀夫館長，早稲田大学高等学院理科部地学班鍵山昴志部長と顧問の加藤徹先生，伊藤前支部長と一緒に

International Symposium on Asian Dinosaurs in Fukui, 2014 参加報告

髙津翔平
（筑波大学大学院生命環境科学研究科
地球進化科学専攻博士後期課程１年）

2014年３月21日～23日に，福井県立大学及び福井県立恐竜博物館において「International Symposium on Asian Dinosaurs in Fukui, 2014（アジア恐竜国際シンポジウム福井）」が開催された．口頭・ポスター発表に関しては「アジアの中生代の動植物に関する研究」がテーマであり，筆者は本シンポジウムにおいて口頭発表を行った．これはその参加報告である．

アジア恐竜協会

アジア恐竜協会（Asia Dinosaur Association：ADA）は，アジアの恐竜やそれに関連した古生物学や地質学の研究の促進に貢献し，恐竜研究の進歩と普及を図り，後進の育成並びに恐竜教育の発展に寄与することを目的とする学術的組織として設立された．

シンポジウム

３月21日，22日に福井県立大学において口頭発表及びポスター発表が行われた．３月23日には福井県立恐竜博物館において博物館シンポジウム（アジアの恐竜研究とその展望）と一般の方々も参加可能なミュージアムツアーが行われた．

本シンポジウムには招待講演者としてPhilip J. Currie博士（The University of Alberta），Pascal Godefroit博士（Royal Belgian Institute of Natural Sciences），Martin Sander博士（University of Bonn），David J. Varricchio博士（Montana State University），及びXu Xing博士（Institute of Vertebrate Paleontology and Paleoanthropology）の５名が参加された．いずれも恐竜学の最前線で活躍されている研究者である．21日と22日は各々の研究・調査に関する重要かつ大変興味深い講演が行われた．また最終日の博物館シンポジウムでは一般の参加者に対して普及講演が行われた．

第１日目

第１日目は午前10時より福井県立大学講堂において開会式が執り行われた．開会式には招待講演者をはじめ，タイや中国，韓国などアジア各国だけでなく，ロシアやアメリカから多数の研究者が参加された．本シンポジウムはアジア恐竜協会設立後の第１回目の国際シンポジウムであり，長い間準備をされてきた本協会の関係者や福井県立恐竜博物館のスタッフの本シンポジウムに対する熱意が伝わってきた．開会式の終わりには参加者が壇上に集まり，集合写真を撮影した（写真１）．その後，午前11時より講堂において１日目の口頭発表が行われた．Rinchen Barsbold博士（Palaeontological Centre, The Mongolian Academy of Sciences）や柴田正輝講師（福井県立大学）をはじめとする研究者により，「獣脚類」，「鳥脚類」，及び「卵化石」をテーマとして最新の研究成果や調査に関する報告が行われた．

セッション終了後，18時半より大学カフェテリアにおいてウェルカムパーティーが開催された．来年2015年にはタイ国のSirindhorn王女が60歳の誕生日を迎えられるため，それにあわせ第２回目のアジア恐竜国際シンポジウムが来年タイ国のBangkokにおいて開催されることが正式に発表された．それ以降のシンポジウムは２年毎にアジア各国において開催される予定である．パーティー開催の挨拶で，筆者のタイ国における恐竜足跡研究・調査の全面的な協力をいただいているタイ国鉱産資源局地質調査所（DMR; Department of Mineral Resources of Thailand）のTawsaporn Nuchanong副所長により，今後のアジア恐竜国際シンポジウムへの協力と参加が要請された．パーティー終盤にはシンポジウム参加者へのプレゼント抽選会が行われ，当選者には本シンポジウムの記念品や招待講演者の方々からの賞品が贈られた．残念ながら抽選に漏れてしまった参加者にも本シンポジウム参加記念として別のプレゼントが用意されていた．

写真１　本シンポジウム参加者の集合写真．シンポジウム開会式において撮影（運営委員会提供）．

第２日目

第２日目は午前９時より福井県立大学の講堂及び多目的ホールにおいて口頭発表が，15時からは交流センターの学生ホールにおいてポスター発表が行われた．口頭発表は主に「竜脚類」，「獣脚類」，「東南アジアの恐竜類」，「中生代の脊椎動物」，「中生代の無脊椎動物と植物化石」の５つのテーマに沿って行われた．ポスター発表では約20名の研究者により，恐竜だけでなく，植物や微化石，古環境復元等に関する研究成果が紹介された．なかでも，岡山大学教授の鈴木茂之先生は福井県勝山市北谷の恐竜化石発掘現場における古環境推定に関するポスター発表をされた．鈴木先生は「自分の目でしっかりと露頭を観察し，詳細な露頭スケッチを行うことが重要」と話され，鈴木先生が描かれた露頭スケッチと推定される堆積場（蛇行州およびシュートチャネル）についてご教授頂いた．筆者もタイ国Khorat層群での足跡産地の古環境推定を行っているが，改めて詳細な露頭観察が重要であることを実感した．

この日，筆者は「東南アジアの恐竜」セッションにおいて「Dinosaurs Footprints and Ichnofacies from the Khorat Group, Northeastern Thailand」と題し，口頭発表を行った．この発表は修士課程において２年間行ってきた研究の総括で，恐竜類足跡化石の測定データとそれに基づき復元したタイ国東北部における恐竜足跡相についてまとめたものである（写真２）．本シンポジウムは筆者にとって初の国際シンポジウムであった．恐竜に関する著名な研究者が集まっていたため，会場は緊張感に包まれていたが，なんとか発表を終えることができた．このような国際学会における経験を積み重ねていくことで，自信と技術を身に着けていかねばならないと実感した．

同セッションにおいて，筆者の他にタイ国を中心とした研究

者の方々が発表された．特にVaravudh Suteethorn博士（Palaeontological Research and Education Centre, Mahasarakham University）はタイ国東北部における豊富な恐竜類化石の産出状況とその変遷と古生物地理学的特徴について述べられた．近年，タイ国は東南アジア諸国の中でも恐竜に関する研究が飛躍的に進展しており，マメンチサウルス科やステゴサウルス科等の骨化石や複数の足跡化石産地が発見・報告されている．

２日目の夜にはホテルフジタ福井においてシンポジウムディナーが催された．口頭発表・ポスター発表が終わったためか，１日目のウェルカムパーティーに比べると発表者の方々はリラックスされていたように思われた．ディナー中は各テーブルにおいて各々の研究や発表内容に関して議論が交わされた．質疑応答時間内で話せなかったことや研究者同士の交流を深める場として，大変有意義な時間を過ごすことができた．また筆者の発表した内容に関して，タイ国東北部における印跡動物占有率の特徴や特異な2趾性足跡化石の印跡動物の同定等，多くの研究者から質問・意見を頂いた．他大学の学生や研究者の方々と知り合えたことや，多くの著名な先生方と議論ができ，またそれらの方々と記念撮影ができたこと等，充実した時間を過ごすことができた．

第３日目

第３日目は午前10時より福井県立恐竜博物館において，一般の参加者も含めたミュージアムシンポジウム（アジアの恐竜研究とその展望）が開催された．上述した５人の招待講演者に加え，Rinchen Barsbold博士と東洋一教授（福井県立大学）を含めた計７人の先生方による特別講演が行われた．このようにアジア恐竜国際シンポジウムは研究者の間で活発な議論が展開されるだけでなく，その研究成果を一般の方々に伝える教育普及の場としても重要なシンポジウムであったと言える．

また同日には並行してミュージアムツアーも行われた．このツアーは福井県立恐竜博物館内における１時間程度の博物館案内である．筆者もこのツアーに参加した．スタッフの方々による丁寧な説明と，クリーニング室における作業風景の見学，専門スタッフによるクリーニング手順の解説を聞かせて頂いた．

写真２　シンポジウム２日目の口頭発表においてタイ国の恐竜足跡化石について説明する筆者．

本シンポジウムに参加して

アジア恐竜協会設立後，第１回目となるInternational Symposium on Asian Dinosaurs in Fukui, 2014（アジア恐竜国際シンポジウム福井）は多くの研究者の方々の参加のもと無事に閉会した．筆者は本シンポジウムに不安と期待を胸に参加したが，筆者の研究に対する貴重な御意見を頂けたことや，国内外の学生や研究者の皆さんと交流させて頂き，本シンポジウムを大いに堪能できた．今後も古生物学会や地質学会をはじめ国内の各学会に参加することはもちろんのこと，国内外の国際学会に積極的に参加し，経験を積み重ねていく所存である．

最後に私の研究に関して御指導・御尽力下さった先生方やタイ国地質調査所のスタッフの方々，そして今回のアジア恐竜国際シンポジウムの運営に携わった皆様に厚くお礼申し上げます．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の４名でおこなっています．原稿はe-mailでいただければ幸いです．

13nd403y@mcs.ibaraki.ac.jp　菅谷真奈美（茨城大）
gsc421511@s.okayama-u.ac.jp　湯川弘一（岡山大）
12ND404L@mcs.ibaraki.ac.jp　細井　淳（茨城大）
3SC12024G@s.kyushu-u.ac.jp　佐藤峰南（九州大）

訃　報

次の方々が逝去されました．謹んで哀悼の意を表します．

正会員　久保篤規（2013年12月15日）　堀越孝昌（１月６日）　服部陸男（３月13日）
鹿園直建（４月22日）　平野弘道（５月５日）

※ 訃報の取り扱いについて：本学会の訃報に際しての広報は，以下の様に致します．（広報委員会）
１）正・副会長経験者および名誉会員が逝去された場合はgeo-flash臨時号を発行し，会員各位に周知する．
２）その他の会員の場合については適時各部会・支部のメーリングリストを活用し，会員各位に周知する．

学　会　記　事

一般社団法人日本地質学会の議事録を掲載しています．

日本地質学会2013年度 第４回理事会議事録

日　時：2014年４月５日（土）13:30～16:50
会　場：北とぴあ　901会議室（東京都北区王子１-１）
出席役員　理事（32名）：天野一男　安藤寿男　石渡　明　伊藤　慎　伊藤谷生　井龍康文　ウォリス・サイモン　永広昌之　笠間友博　川端清司　小嶋　智　斎藤　眞　高木秀雄　竹内　誠　田村嘉之　内藤一樹　中澤　努　西 弘嗣　久田健一郎　平田大二　藤本光一郎　星　博幸　保柳康一　松田達生　松田博貴　宮下純夫　向山　栄　矢島道子　山口耕生　山本高司　山路　敦　渡部芳夫
欠席役員　理事（18名）：市川八州夫　太田泰弘　小山内康人　大津　直　狩野彰宏　川辺文久　清川昌一　坂口有人　佐々木和彦　柴　正博　芝川明義　高橋正樹　竹下　徹　藤林紀枝　宮田隆夫　村田明広　山田泰広　脇田浩二
監事（２名）：青野道夫　山本正司
その他出席者　事務局：橋辺

＊成立要件：理事総数50名の過半数26名　本日の出席者32名で本理事会は成立．
＊議決：出席者の過半数17名
＊書記２名の選出：笠間友博　小嶋　智

報告事項

１．理事会メール審議（2014/３/14）議決事項の確認，議長より報告
１）国立公園地質リーフレットシリーズ，富士山・青木ヶ原たんけんマップの出版について
　微修正後，理事全員の承認を得たと報告された．
２．執行理事会報告
１）12月理事会以降，２月，３月，４月執行理事会要点ほか（斎藤常務理事）
　会議内容について要点が報告され，一部は，第４回理事会での審議事項となる旨の説明があった．
３．理事および委員会等報告
１）運営財政部会報告（西理事・山本理事）
・前回理事会以降に逝去した北川芳男名誉会員，久保篤規会員，堀越孝昌会員，服部陸男会員に対し黙とうを捧げた．
・会員動静
　年度末の除籍・退会者合わせて178名，2014年３月末の会員数は，賛助27社，名誉会員66名，正会員3820人（院生割引188名，学生割引20名含む）となり，会員の減少が続いている．
・2013決算概算および予算案の概略が説明された．→審議事項へ
　会員減少に伴う将来的な財務問題について補足説明があった．
２）学術研究部会
・地層名登録の整備について（井龍理事）
　2014年度に産総研地質調査総合センターと協議を行うと報告された．
・行事委員会報告（星理事）
　121年学術大会（鹿児島大会）の日程・内容について報告された．
・2015年信州大会の会場について（保柳理事）
　長野市の工学部キャンパスを会場に，９月11日（金）～13日（日）開催決定と報告された．
３）Island Arc　編集委員会報告（伊藤理事）
４）各賞選考委員会報告（永広理事）→審議事項へ
　審議結果と申し送り事項について報告された．
５）名誉会員推薦委員会報告（ウォリス理事）
　今年度は推薦者なしと報告された．
６）125周年事業準備委員会報告（矢島理事）→審議事項へ
７）代議員選挙・理事選挙結果報告（選挙管理委員会，代　斎藤常務理事）
４．その他
１）新IODP（International Ocean Discovery Program）の運営体制について（石渡会長）
　組織改編があり，3船それぞれに運営会議が組織されたと報告された．
２）IGCP608　第2回国際研究集会の開催予定案内（安藤理事）
　2014年９月４日（木）～６日（土）（シンポジウム：早稲田大学大隈講堂）
　７－10日（巡検：銚子・那珂湊・双葉層群）
３）ジオパークへの応募地域の公開プレゼンテーションを，連合大会中の４月30日に開催する．（高木理事）
４）地質・地盤情報活用促進に関する法整備促進協議会から緊急提言が出された（小嶋理事）
５）日本学術会議地球惑星委員会地球惑星科学大学教育問題分科会が策定中の「大学教育の分野別質保証のための教育課程編正常の参照基準：地球惑星科学分野」が最終取りまとめ段階に入ったことが報告された（小嶋理事）
６）地質の日イベントについて（中澤理事）

審議事項

１．定款及び総会規則の改正について（斎藤常務理事）
　定款23条，33条および総会規則の文言修正について，原案通り拍手により承認された．
２．投稿編集出版規則の改正について（山路理事）
　新たに「講座（連載）」を原稿のカテゴリーに加える等の改正案が，原案通り拍手により承認された．規則改正の解説とともに変更規則を４月号に掲載するとの説明があった．
３．地質学会ロゴマーク使用規則案の策定（内藤理事）
　ロゴマークを会員が自由に使用できるようにその規則案が提案され，原案通り拍手により承認された．
４．各賞受賞者の選出（永広理事）
　日本地質学会賞２件，同　国際賞１件，同　小澤儀明賞２件，同　Island Arc賞１件，同　論文賞１件，同　小藤文次郎賞１件，同　研究奨励賞３件，日本地質学会表彰１件について原案通り拍手により承認された．
５．2013年度事業報告・決算概要（斎藤常務理事）
　会員減少の状況および今年度の収支について質疑がなされ，決算案概要は拍手で承認された．
６．2014年度事業計画・予算案（西理事）
　今後の財政見通し等に関して，会員の減少対策について，シニア会員の会費を半額にする，若い人の会費を安くして間口を広げる，会費は安くして学会参加費を高くする，経費節減に効果的とみられる雑誌の電子化の検討，事業収入を増やす努力をする，日常的に寄付を募るなどの意見交換がなされた後，事業計画及び予算案は原案通り拍手で承認された．
７．125周年記念行事について（矢島理事）
　125周年記念事業準備委員会の報告，記念事業の基本方針，工程表案が示され，意見交換を行った．工程表は今後変更もあることも含み，記念事業の方針は原案通り拍手で承認された．
８．総会議案の決定（斎藤理事）
　総会は５月24日，３時半～５時の開催とし，議案は原案通り拍手で承認された．
９．その他
１）選挙規則ならびに選挙細則の改正（斎藤常務理事）
　原案通り拍手で承認された．
２）「国立公園地質リーフレット（シリーズ）」および「国立公園地質リーフレットたんけんシリーズ」の名称変更とそれに伴う細則改正について（保柳理事）
　本会議で指摘された修正を含め，改正は拍手で承認された．
３）Proposal for a Joint Global Meeting（2015/5/24-29）（石渡会長）
　2015年連合大会でのGSAと地質学会の共催セッション・巡検について
　地質学会として共催，特に巡検への協力が拍手で承認された．
４）原子力規制委員会の現地調査について（藤本理事）
　地質学会が推薦している原子力規制委員会委員の活動が長期化しており，サポート体制の必要性について意見交換がなされた．
５）1970年代空中写真のダウンロード廃止に関する要望書提出について（斎藤常務理事・向山理事）
　国土交通省から提供されていた標記サイトが閉鎖されたことに伴い不便になったことに対して，他学会と共同して声明を出すこととした．

以上

2013年度
第９回執行理事会議事録

期　日：2014年３月８日（土）13:00～17:30
場　所：地質学会事務局
出席者：石渡会長　ウォリス副会長　渡部副会長　齋藤常務理事　伊藤　井龍　坂口　内藤　西　平田　星　保柳　松田　山路　山本（事務局）橋辺
欠席者（委任状提出，未記入議場委任）：高木　中澤　山口

＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者15名，委任状　３名，合計18名の出席．
＊前回議事録の確認のうえ了承された．

Ⅰ　審議事項

１．地質学雑誌投稿編集出版規則」の大改正について（山路理事）
　新しいカテゴリ「講座」の設置を含めた改正案が説明され，前執行理事会の議論を反映した規則案が提出された．修正のうえ了承し，４月の理事会に諮ることとした．新しいカテゴリを含めた論文の定義や，改正の意図や背景などの解説を掲載して周知を図る．

２．地質学会ロゴマークの使用規則案（内藤理事）
　継続審議となっていたロゴマークの使用規則案が提出された．法人および会員としての使用範囲から実際の例示方法まで議論された．規則案を修正のうえ了承し，４月の理事会に諮ることとした．

３．総会関連行事：日本地質学会公開講演会「日本の地質学：最近の発見と応用」（Recent progress in geological science）とスケジュール（斎藤常務）
　杉田律子，坂口有人，佐藤峰南，西岡芳晴の４会員の講演を予定，招待講演とし交通費を支給することを了承した．

４．定款および規則の変更について
　定款第23条４項における，会員の総会への陪席に関する条文に間違いがあったので修正する．また，これに付随して33条２項の一部を修正する必要が生じた．
　以上の修正変更を承認し，４月の理事会に諮ったうえで総会に提案する．

＜定款第23条４項＞
現行：代議員以外の正会員は理事会の決議により別途定める「一般社団法人日本地質学会理事会規則」（以下「理事会規則」という）に従い総会に陪席することができる．
修正：代議員以外の正会員は理事会の決議により別途定める「一般社団法人日本地質学会総会規則」（以下「総会規則」という）に従い総会に陪席することができる．

＜定款規則第33条２項＞
現行：理事会は，理事会規則により会長１名，副会長２名，常務理事１名，副常務理事１名および執行理事を選任し，代議員に報告する．
修正：理事会は，「一般社団法人日本地質学会理事会規則」（以下「理事会規則」という）により会長１名，副会長２名，常務理事１名，副常務理事１名および執行理事を選任し，代議員に報告する．

　また，総会規則についても一部文言の修正を行うこととし，理事会に諮る．

＜総会規則12条３項＞
現行：定款23条４項により出席した会員等は，代議員等の要請に基づき，これを議長が許可しなければ発言できない．
修正：定款23条４項により陪席した会員等は，代議員等の要請に基づき，これを議長が許可しなければ発言できない

５．総会議案について
　第６回総会の議案を検討し，理事会に提案することとした．

６．４月の理事会議案
　平成25年度最後の理事会としての議案を検討し，了承した．

７．その他
１）自然史連合講演会（2014/11/23）における体験型講座の担当候補者の推薦
　推薦のあった長谷川健会員：仮講座テーマ「食材を使って噴火体験」を推薦することとした．
２）国際地学オリンピック組織委員会より，会長にあてに委員就任の要請があり，石渡会長を推薦することとした．任期：推薦された日から2017年３月31日まで
３）電子書籍の販売について
　キンドル形式はパソコンユーザーに対応できないためPDF版の取り扱いが議論された．PDF版は，学会のオンラインストアから販売し，キンドルと同様の価格とすることにした．また章ごとの分割販売も可能とし価格はページ割とすることとした．またオンデマンド印刷による少部数印刷も検討することとした．
４）青木ヶ原溶岩のたんけんマップの印刷部数
　これまでのシリーズ売り上げからみて3000部の発行とした．
５）*「地学は何ができるか」（愛知出版，編集代表原田会員，地質学会監修）の増刷に際し，会長名の序文を削除したいとの著者らからの申し出があり，これを了承した．
６）*「富士山・青木ヶ原溶岩のたんけん―樹海に秘められた溶岩の不思議」について，最終原稿を理事会のメール審議に提案することを了承した．企画出版部会より松田議長に提案書を提出し現在審議中．14日に確定する．
＊５）および６）は，メール審議に確認

Ⅱ　報告事項

（1）全体的報告

１．杉並区立科学館廃止に対する要望書を杉並区長あてに送付し，HP，News誌に掲載した．
２．地質・地盤情報活用促進に関する法整備推進協議会からの緊急提言→geo-flashにて広報「我が国の地下に眠るビッグデータ…国民の安全・安心国土強靱化のために地盤情報の再活用を!!　そのための法整備を!!」
３．産総研地質調査総合センターより「誤分析データによる出版物に対する注意喚起」についての通知があり，Geo-flash，HP，News誌に掲載して会員に周知することとした．

（2）運営財政部会：総務委員会（西・山本）

＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞
１．第11回学術振興会賞受賞候補者（45歳未満）の推薦について，受付４/14-16，学会〆切３/31→News，geo-flash，HPに掲載
２．地球化学研究協会より学術賞「三宅賞」および「進歩賞」（奨励賞改め，1974年４月２日以降生まれの方）の公募案内，８/31〆切→News，geo-flash，HPに掲載
３．公財）国土地理協会より平成26年度学術研究助成の募集（４/１－４/18），学会推薦等は不要→News，geo-flash，HPに掲載
４．2014地球環境保護　土壌・地下水浄化技術展（2014/10/15-17）の協賛名義使用依頼
５．科学教育研究協議会よりの「第61回全国研究大会」（８/2-4，港区正則高校）後援依頼を承諾．
６．東レ科学振興会の受賞式の案内（３/18），研究助成への学会推薦者は採択なし．受賞式は都合が整わず欠席とした．来年度の東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成概要の通知があった．推薦の〆切は10/10，学会は８/31〆切→News，geo-flash，HPに掲載
７．公財）公益法人協会から，支援の一環とする一般社団法人アンケートに回答，結果は同財団のHPに掲載とのこと．
８．独）原子力安全基盤機構（JNES）は2014年３月１日をもって解散通知，今後は原子力規制委員会に統合．
９．海上保安庁海洋情報部より「平成25年度海洋情報部研究成果発表会」のお知らせ（３/10）

＜会員＞
１．今月の入会者（７名）
　正会員〔２名〕：（2013年度から入会）村上瑞季，（入会年度確認中）大嶋章浩
　正（院割）会員〔２名〕：（2014年度から入会）伊藤麻佑子，坪川祐美子
２．今月の退会者
　2013年度末退会予定者一覧（正会員89名）
　→　回覧
３．今月の逝去者（正会員２名）
　久保篤規（2013年12月15日），堀越孝昌（2014年１月６日）
４．2014年2月末日会員数
　賛助：27　名誉：66　正会員：3902（正会員：3683，正（院割）会員：200，正（学部割）会員：19）合計3995（昨年比－80）

＜会計＞
・2014年度２月までの決算概要
・３/11　予算検討に向けて，予算案の方針，各事業部会から予算の要望があれば意見を聞く．
・事務所内の整備をするため，倒壊している書架，棚の廃棄をし，新たに書架を4基設置することとした．整理にあたり，地質学雑誌の古い特集号と寄贈本（とくに雑誌類）の古いものを順次処分することについては，廃棄することを本執行理事会で確認した．
・印刷機（リソグラフ）が故障し，既に部品等の保証期間も過ぎ修理不能のため廃棄する．印刷機は今後も必要なので新機種をリース（6200円/月/６年）することとしたい．

(3) 広報部会：広報委員会（内藤・松田）
・フォトコンテスト受賞者決定．最優秀賞１，優秀賞２，ジオパーク賞１，入選10件．受賞者はHPに公表．
・５月，地質の日イベントして地下鉄銀座駅の通路コンコースでフォトコンテスト作品を展示．7月には日比谷公園での展示予定．
・Webシステムのリニューアルを次年度に実施する予定．費用は約70万．
・HP英語ページのポリシーと整備体制を広報委員長が立ち上げる．基本情報部分の英文校正を早急に発注する．

(4) 学術研究部会：行事委員会（星）
１）2015年信州大会会場について（保柳理事）
　長野（工学部）キャンパスでの開催を検討中．現状での詳細な会場プランが説明された．
２）鹿児島大会について
　会場及び案内書も順調に進行中．

(5) 学術研究部会：国際交流委員会（井龍）
・thirtieth anniversary of the joint meeting of the two subcommittees; thestructural geology subcommittee and the energy and resource subcommitteeof the Geological Society of Korea. の招待に対して大藤会員（構造地質部会）が訪問する．

(6) 編集出版部会：地質学雑誌編集委員会（山路）
編集状況報告（３月７日現在）
・2014年投稿論文　総数24編［論説10（和文10）・ノート１（和文１）・報告４（和文２・英文１）・巡検案内９］
・査読中 33編　　受理済み １編
・120巻２月号：論説３，口絵１（計52頁．２/28発送済）
・120巻３月号：論説２（計約25頁校正中）

(7) 編集出版部会：Island Arc編集委員会（伊藤）
・１号がオンライン出版済み．
・２号は投稿論文４編と招待論文で100pを予定．

(8) 編集出版部会：企画出版委員会（山口・保柳）
・富士・青木ヶ原たんけんマップは紙面構成，記事の過不足について再検討し，最終原稿を作成した．メールにより執行理事会の承認を得て，理事会メール審議に付す段取りとした．
・電子出版「地学を楽しく」は，２月末現在９部販売．
・岩波書店「地球全史スーパー年表」（清川昌一ほか著，地質学会監修）が２月18日発行（4000部）された．学会との間で契約書を交わし，印税（２%）は著者らと折半となる．
＊３/５付けで増刷（4000部印刷，2000部製本）の連絡あり．
・「共立スマートライブラリー」の出版企画（山口理事）
テーマおよび著者の推薦を各部会に依頼した．現在挙げられている提案が報告された．更なる提案の募集と意見集約を図る．

(9) 社会貢献部会（高木・平田・中澤・保柳）
・春季地質調査研修会開催に際し，産総研に共催を申し入れ了承された．
・2014年地質の日イベント，街中ジオ散歩「下町低地の地盤沈下と水と暮らし」を予定し，準備を進めている．５/10に応用地質学会との共催．

(10) ジオパーク支援委員会（高木）
・2014年度の地震火山こどもサマースクールは８月２，３日に島原半島ジオパークで開催．地質学会からは，九大の清川昌一理事に参加いただく予定．

(11) 地学オリンピック支援委員会（平田）
・第８回支援委員会開催．第６回日本地学オリンピック予選（受験者1462名）の試験問題評価と地学オリンピックキャラクターデザインコンテストの支援に関して検討した．
・第６回日本地学オリンピックは，３月23日（日）～25日（火）に，つくば市にて開催．３月23日（日）とっぷレクチャー（一般聴講可，登録の必要あり・無料）時に，受付に学会の広報チラシなどを置かせてもらうことが可能．本選参加者75名へ無料提供していただける配布物（広報誌・グッズ）なども募集している．
・第８回国際地学オリンピックは当初８月上旬にアメリカにて開催予定であったが，開催地，開催日が変更となり，スペインのサンタンデールで９月下旬となった．

(12) 地質技術者教育委員会（山本）
・平成25年度，土質・地質技術者生涯学習協議会の開催報告．建設系CPD協議会の活動や継続教育への積極的な取り組みが紹介された．

(13) 名誉会員推薦委員会（ウォリス）
・昨年同様，今年度も推薦がなかった．

2014年４月５日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会　長（代表理事）石渡　明
署名人　執行理事　斎藤　眞

2013年度 第10回執行理事会議事録

期　日：2014年４月５日（土）10:00～12:30
場　所：北とぴあ　901会議室
出席者：石渡会長　ウォリス副会長　渡部副会長　齋藤常務理事　伊藤　井龍　高木　内藤　中澤　西　平田　星　保柳　松田　山路　山本
　松田議長　久田副議長，（事務局）橋辺
欠席者（委任状提出，未記入議場委任）：坂口　山口

＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者16名　，委任状　２名，合計18名の出席．
＊前回議事録の確認

Ⅰ　審議事項
１．選挙規則の改正
１）第５条１項の監事について，役員ごとの改選年を加える．
２）選挙規則第５条，現行６項について，文章不備につき文言の修正をする．また，項番号を4項に変更し，現行４項を５項に，以下順次繰り下げて11項までとする．
３）付表のうち官公庁欄から「公団」を削除する．
*選挙規則は総会承認事項ですので，総会議案に入れます．
２．選挙細則の改正
１）第６条２項の立候補届の提出方法について，公正を明確にするため持参は受け付けていないので削除する．
２）代議員選挙においては地方支部区の順位付けの必要がなくなったのでその文言を削除する．
３．「国立公園地質リーフレット（シリーズ）」および「国立公園地質リーフレット・たんけんシリーズ」の名称変更とそれに伴う細則改正について
　国立公園以外の地域も対象とする実情に合わせて細則を改正することが企画出版委員会より提案された．改正以前のものにも配慮して，著作権の項に文言を追加し，改正案を理事会に提案することとした．
４．Proposal for a Joint Global Meeting（2015/５/24-29）
2015年連合大会でのGSAと地質学会の共催セッション・巡検について
　GSAに提案し，肯定的な返事あり．本会は巡検準備をサポートする．本会の巡検窓口担当者を決定する必要あり．
５．1970年代空中写真のダウンロード廃止に関する要望書提出について，国土交通大臣宛に活断層学会等と連携して要望書を提出する．斎藤常務が対応する．
５．鹿児島での津波シンポジウムにたいする助成について
　海外から４名を招聘予定．本会としてどのような助成ができるか，財務収支も考慮して至急検討する．
６．2013年度決算概要・2014年度予算案について
　引当金に頼らないよう，財政健全化をはかる必要がある．特に出版事業支出をいか

にして減らすかが大きな課題．今後，地質学雑誌の隔月化や完全電子化の可能性を検討する．ジオルジュもコスト意識をもって今後の見通しを検討する，ことなどが話し合われた．

7．議長，副議長とともに，理事会議案の確認をした．

Ⅱ　報告事項

(1) 全体的報告

1．理事会メール審議

1)「富士山・青木ヶ原溶岩のたんけん―樹海に秘められた溶岩の不思議」については，年度内刊行の都合により，最終原稿を理事会のメール審議に付した．原稿については一部微修正検討の注文があったが，著者による修正を確認して，全員一致で承認された．

2．3月13日に開票が行われた理事選挙の報告があった．

3．「共立スマートライブラリー」の出版企画にたいする，テーマおよび著者の推薦について（西理事）

執筆の候補者となる会員を列挙して，共立出版へ知らせた．後は出版社の裁量にお任せすることになる．

4．関東支部の総会にあたり会長への挨拶依頼があり，山本理事が出席し会長のメッセージを代読することとなった．

(2) 運営財政部会：総務委員会（西・山本）

＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞

1．朝永振一郎記念第9回「科学の芽」賞（筑波大学）後援依頼→例年通り承諾．2013年度報告書添付

2．TECHNO-OCEAN 2014：同　実行委員会（10/2-10/4　神戸）協賛依頼を承諾

3．第58回粘土科学討論会（9/24-27，福島市，日本粘土学会）共催依頼を承諾．

4．NPO法人日本地質汚染審査機構より第13回地質汚調査染浄化技術研修会（4/25-27潮来市）の共催依頼を承諾→HP，geo-flash に掲載

5．藤原科学財団「藤原セミナー」の募集：2015～2016に開催される自然科学分野のセミナーへの助成，2件態度，〆切7/31→News，HP，geo-flash に掲載

6．日本学術振興会26年度「育志賞」の推薦，受付期間6/11-6/13，学会〆切5/16→News，HP，geo-flash に掲載

7．山田科学財団，2017年開催の国際学術集会開催助成の募集，150名規模，800万円助成，2014/4/1-2015/2/27

8．広島県「イノベーション人材育成事業補助金」広島県内中小企業対象，随時募集→News，HP，geo-flash掲載

9．㈱ダイヤコンサルタント，役員交代の挨拶状，新社長　前川一彦氏

10．地球惑星連合の総会に会長出席（5/2）

＜会員＞

1．今月の入会者（8名）

正会員（1名）：北村滋之

正〔院割〕会員（6名）：河原弘和，淺野有希，中畑浩基，矢野萌生，兵東玄威，新井慧太

正〔学部割〕会員（1名）：前田真済

2．今月の退会者（178件）→回覧 2013年度末退会者・除籍者一覧

退会者（105件）：正会員93名，正〔院割〕会員12名

除籍者（73名）：正会員　73名（2010年からの会費滞納者）

3．今月の逝去者（1名）

正会員（1名）服部陸男（逝去日：2014年3月13日）

4．3月末日会員数

賛助：27　名誉：66　正会員：3727（正会員：3519，正（院割）会員：188

正（学部割）会員：20　合計　3820（昨年比－55）

5．2014年度50年顕彰会員：1964年入会者21名

石川輝海　浦川洋一　大村一夫　小澤智生　加瀬靖之　神谷英利　小勝幸夫　小松正幸　斎藤靖二　沢田庄一郎　塩田次男　柴田賢　下西繁義　菅野耕三　高橋堅造　滝沢文教　中馬教允　都築　宏　波田重熙　早津賢二　山中　博*

*山中氏は1954年入会，ファイルの入会年の記載間違いにより今回となった．

＜会計＞

・2013年度決算概要・2014年度予算案

13年度決算は，現時点の概算で300万円弱の赤字．14年度予算は概ね前年度並みの見込みでたてたが，年度替わりでの会員の除籍，退会が意外に多くあったので収入予算を見直す必要がある．

(3) 広報部会：広報委員会（内藤・松田）

広報委員会で英語HPを試作した．

(4) 学術研究部会（井龍）

・地層名登録の整備について

新たな層序単元の登録について本会側の体制を整える．

(5) 学術研究部会：行事委員会（星）

・鹿児島大会その他について

シンポジウムとトピックセッションについて紹介があった．一部セッションのタイトルを修正する方向で検討する．

(6) 編集出版部会：地質学雑誌編集委員会（山路）

・編集状況報告（4月3日現在）

2014年投稿論文　総数32編［総説2（和文2）・論説15（和文15）・ノート1（和文1）・報告5（和文4・英文1）・口絵1（英文）・巡検案内9］

査読中 34編　　受理済み　4編（うち特集号1）

・120巻3月号：論説2（計約25頁 3.27発送済み）

・120巻4月号：論説1，報告1（約30頁，入稿準備中）

(7) 編集出版部会：Island Arc編集委員会（伊藤）

・編集状況

(8) 編集出版部会：企画出版委員会（山口・保柳）

・富士・青木ヶ原たんけんマップは理事会メール審議に付し，3月31日に刊行した．

・国立公園地質リーフレットおよび国立公園地質リーフレットたんけんシリーズの刊行では，実際には国立公園だけが対象とはなっていないので，現実に即して名称変更することとし，細則を変更することとした．

・岩波書店「地球全史スーパー年表」（清川昌一ほか著，地質学会監修）が2月18日発行（4000部）されたが，現在2刷りをして販売数は6000部超．

・朝倉書店の地方地質誌：東北地方および四国地方については，原稿が5～6月頃にまとまる予定なので，出版は来年になる見込みとの連絡があった（予定が遅れている）．

(9) 社会貢献部会（高木・平田・中澤・保柳）

・春季地質調査研修会（5/12-5/16）参加者募集中．

・2014年地質の日イベントは，5/10に応用地質学会との共催により，街中ジオ散歩「下町低地の地盤沈下と水と暮らし」を開催予定，参加者募集開始．その他支部等での地質の日のイベントのうち，現時点で計画されているものは別紙のとおり．

(10) 地学オリンピック支援委員会（平田）

・国際地学オリンピック日本大会の組織委員として会長に就任要請があった．今後，代表者が変更した場合には順次委員も交替してゆくことになる．

・支援委員会にて来年度の予選問題の取りまとめ中

・3月22日に科学の甲子園にて，キャラクターデザインコンテストのチラシを配布．

・3月23日～25日に第6回日本地学オリンピック本選が実施され，優秀賞10名などを選出された．この際，本選参加者に地質学会からジオルジュ2冊を参加記念品として提供した．優秀賞受賞者10名は引き続き，3月25日～26日に日本代表最終選抜にのぞみ，4名の日本代表が選出された．

・本地学オリンピック本選に関するプレス発表は，4月9日に地学オリンピック日本委員会HPにて行う．

・4月9日に三重県知事が第10回国際地学オリンピック三重大会開催の記者発表を行う予定．

(11) 中期ビジョン委員会（坂口）

・4/14-16に宇都宮市（コンセーレ宇都宮）で合宿委員会を開催する．

以上

2014年5月10日

一般社団法人日本地質学会執行理事会

会　長（代表理事）石渡　明

署名人　執行理事　斎藤　眞

広告募集

ニュース誌に広告を掲載しませんか？

ニュース誌の掲載広告を募集しています．学会直接取り扱いになりますので、カラー印刷・掲載サイズなどご相談に応じます．是非ご利用ください！

	価格（白黒）	版下作成	カラー印刷
表4	60,000	+10,000	+10,000
表2	50,000	+10,000	---
表3	40,000	+10,000	---
本文頁	35,000	+5,000	---

（単位：円）

【お得な割引価格も設定しています！！】

掲載位置・サイズにかかわらず，
4回掲載一括注文：10％割引
6回掲載一括注文：15％割引
※一年度内（4～3月）もしくは一巻内（1～12月号）で一括注文頂いた場合に限ります．

申込・問い合わせ：一般社団法人日本地質学会 事務局
電話　03-5823-1150　FAX03-5823-1156
e-mail: main@geosociety.jp

広報誌ジオルジュ　一括割引購入のご案内

日本地質学会では広報誌「ジオルジュ」を発行しています（年2回発行．定価250円）．

博物館・学校・研究機関などで，イベントでの配布物，友の会へのプレミアグッズ，ストアなどでの販売物として，ジオルジュを利用してみませんか．部数に応じて割引価格を設定しておりますので，是非ご検討下さい．

【割引価格例】
100部：20,000円（定価2割引）
300部：52,500円（定価3割引）
これ以外についてもご希望に応じてご相談承ります．

毎号各地のジオパークの特集記事の掲載も企画しています．ジオパークの広報の一環としてもご活用ください．

最新号（2014前期号）発行!

申込・問い合わせ：一般社団法人 日本地質学会
電話　03-5823-1150　FAX03-5823-1156　e-mail: main@geosociety.jp

Stallard Scientific Editing

your trusted partner in English-language excellence

science • technology • medicine • engineering • arts　　research papers • theses • books • abstracts

スタラード・サイエンティフィック英文校正のDr.アーロン・スタラードにお任せください.
貴方の地球科学の学術論文の英語をネイティブレベルの完璧な英語に英文校正します.

Dr.アーロン・スタラードの略歴:

- 1999年，ジェームスクック大学（オーストラリア）において博士号（地球科学）取得.
- 2000〜2001年，日本学術振興会外国人特別研究員として静岡大学理学部に滞在.
- 2002〜2005年，カンタベリー大学（ニュージーランド）FRST特別研究員.
- 国際誌10編の原著論文.
- 固体地球科学，地震学，物理探査（リモートセンシング），古生物学，生態学，気象学，森林学，気候変動学，海洋学，環境モデリング等，地球科学と環境科学の幅広い分野での英文校正の実績.

スタラード・サイエンティフィック英文校正について.

スタラード・サイエンティフィック英文校正は，世界各国の英語を外国語とする研究者の方々のためのオンライン英文校正サービス会社です．ニュージーランドのネルソンから，ニュージーランド在住のネイティブスピーカーによる英文校正サービスをご提供いたします.

スタラード・サイエンティフィック英文校正は2006年にDr. アーロン・スタラードとアナベル・ボーイズ夫妻により設立されました．夫妻は，地球科学（Earth Science）と医療撮影（Medical Imaging）の専門分野でそれぞれ活躍後，日本やヨーロッパの英文校正会社にてフリーランスの英文校正者としての経験を積んで独立し，スタラード・サイエンティフィック英文校正を設立いたしました.

スタラード・サイエンティフィック英文校正の利点をご検討下さい.

- **迅速な対応：**スタンダードサービス4〜6日（休日を除く）;エクスプレスサービス1〜2日（休日を除く）.
- **英文校正者のエキスパート：**専門分野に精通した校正経験豊富なネイティブ英文校正者.
- **満足感、高品質を保証：**お客様が私どものサービスに100%御満足いただけるまで料金のお支払いは不要です．私どもの無料*Ask-the-Editor Service* 及び*Draft-to-Journal Guarantee*保証をご覧下さい.
- **お客様の自国の通貨でお支払い：**日本円建てによるお見積り，お支払いをお取り扱いしております.
- **お支払い方法：**日本国内の銀行口座への振込による方法とオンライン上でクレジットカードによるお支払いの方法が選択できます.

www.stallardediting.com

Stallard Scientific Editing, 56 Brougham St, Nelson 7010, New Zealand

Tel: +64 3 5489108　　Internet: www.stallardediting.com
Fax: +64 3 5489106　　Email: aaron@stallardediting.com